

平成 26 年度

# 自己点検・評価報告書

埼玉純真短期大学

平成 26 年度  
自己点検・評価報告書

学校法人純真学園  
埼玉純真短期大学



## 「平成 26 年度 自己点検・評価報告書」の刊行に寄せて

平成 26 年度は埼玉純真短期大学にとりまして、新たな出発の年となりました。本学園創設者の福田昌子女史の建学の精神である学園訓「気品・知性・奉仕」の下、本学初代学長福田敏南前理事長が羽生の地に女子高等教育機関を、との思いで本学を昭和 58 年に創立して以来 30 年、一世代を越えたとも言えるでしょう。

本学のこれまで歩んできた道は決して平坦ではありませんでした。時代や社会のニーズの変化にさらされる困難な状況下にあっても、「健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物」の養成を通して、地域に貢献できることを目指して歩んできました。

今はこの時代と社会のニーズに呼応して、「こども学科」単科の「女子短期大学」として、また地域に根ざしたコミュニティカレッジを志向して、女性幼児教育者養成に特化した活動を進めています。これからはこのことを意識し、保育・教育の延長線上で、さらに有為な人材を送り出せる機関を目指して出発しなければなりません。

そのような意味でも平成 26 年度は「旅立つ先を模索する年」でもありました。多くの大学や短期大学が学生募集で悩んでいるこの時期に、本学が現在このように順調に成長し将来を見据えて発展的に考えられるのも、羽生市はじめ地域のみなさまの深いご理解とご支援の賜物であると心より感謝しております。

今年度は平成 26 年 11 月に河田羽生市長と「羽生市と埼玉純真短期大学との地域連携協力に関する協定書」の調印をかわし、これまでの文化・教育・福祉の分野に留まらず、「まちづくり」や産業振興などについても一層の協力を約束しました。また、高等学校との関係では、平成 27 年 1 月に埼玉県立誠和福祉高等学校（後藤校長）と、次いで 2 月に埼玉県立進修館高等学校（羽田校長）との間で、「埼玉純真短期大学との高大連携に関する協定書」を取り交わしました。このことで、教育交流・連携を通して、保育、福祉教育の充実を目指していくことに強い決意と弾みをつける年となりました。

このようなことが実現しましたのも、創立以来、本学が地域に根差して、地域とともに歩んできたことと、小島羽生市教育長や近隣の高等学校長、市内の教育・保育・福祉・企業関係者、そして保護者代表と同窓会会長で組織される「埼玉純真短期大学外部評価委員会」による本学へのご支援やご協力のおかげと感謝しております。さらに、みなさまから頂戴したご意見やご指摘を真摯に受け止め、必要な改善や改革に本学の教職員全員が積極的に取り組んできた結果でもあるとも考え、このような教職員を誇りに思うと同時に、共に学生や地域のために貢献できる喜びも感じております。

これからも「卒業生や在学生、地域のみなさんが誇りに思える埼玉純真短期大学」を目指して、大学としてのプライドを保ちながら教育と研究を堅実に実行し、本来あるべき姿で地域社会に貢献するという、地道な方法で取り組んで参りたいと思っております。その姿勢こそが、学校法人純真学園創設者福田昌子女史の建学の精神「気品・知性・奉仕」であり、教職員自らが具体化していくことだと考えております。

この報告書は、教職員が自らの立ち位置を再確認し、将来の方向を明確にするため、全教職員がそれぞれに役割を分担し作成しました。

平成 27 年 5 月

埼玉純真短期大学学長 藤田利久



# 平成 26 年度自己点検・評価報告書 目次

「平成 26 年度 自己点検・評価報告書」の刊行に寄せて

## I 本学の概要

- 1 沿革と建学の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1  
    (1) 沿革  
        ① 学園の設立と沿革 ② 本学の創立と沿革  
    (2) 建学の理念  
    (3) 成果と課題（点検・評価）
- 2 教育方針と特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5  
    (1) 教育方針  
    (2) こども学科  
    (3) 成果と課題（点検・評価）
- 3 組織と構成  
    (1) 運営組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8  
        ① 運営組織 ② 成果と課題（点検・評価）  
    (2) 学務分掌  
        ① 専任教員とその職位 ② 委員会の委員長 ③ 委員会の委員 ④ クラス担任 ⑤ 事務職員  
        ⑥ 図書館職員 ⑦ 成果と課題（点検・評価）  
    (3) 入学定員及び学生数
- 4 平成 26 年度学事日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11  
    (1) 学事日程  
    (2) 成果と課題（点検・評価）

## II 入試と広報

- 1 入試・・14  
    (1) 組織と運営  
        ① 入試に関する組織 ② 入試業務  
    (2) 平成 26 年度入試の特徴  
        ① 入試の改善点 ② 入試の特徴  
    (3) 平成 26 年度入試結果  
    (4) 募集要項  
        ① 募集要項の形式 ② 選抜方法 ③ 入試日程  
    (5) 成果と課題（点検・評価）
- 2 広報・・18  
    (1) 組織と運営

- (2) オープンキャンパス
  - ① 日程と内容 ② 参加状況 ③ 成果と課題 (点検・評価)
- (3) その他の広報活動
  - ① 高等学校への訪問 ② ホームページ ③ ウェブサイトへの掲載
  - ④ ガイダンス・模擬授業・キャンパス見学会 ⑤ 広報誌作成 ⑥ プレカレッジ
- (4) 成果と課題 (点検・評価)

### Ⅲ 教育活動

- 1 教育課程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
  - (1) 教育課程の編成
  - (2) 成果と課題 (点検・評価)
- 2 時間割編成と履修指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
  - (1) 時間割編成
    - ① 時間割編成 ② 成果と課題 (点検・評価)
  - (2) 履修指導
    - ① 履修指導 ② 成果と課題 (点検・評価)
- 3 授業実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
  - (1) 授業科目の履修者
    - ① 前期 ② 後期 ③ 成果と課題 (点検・評価)
  - (2) 授業の開講・休講及び補講の状況
    - ① 授業時数 ② 休講の状況 ③ 補講の状況 ④ 成果と課題 (点検・評価)
  - (3) 授業履修者の問題状況
    - ① 授業欠席調査該当者数 ② 受験無資格者調査該当者数 ③ 再試験該当者数 ④ 追試験該当者数
    - ⑤ 成果と課題 (点検・評価)
  - (4) 免許状・資格取得状況
    - ① 免許状・資格課程履修者数 ② 免許状・資格課程の履修組み合わせ別履修者数
    - ③ 成果と課題 (点検・評価)
  - (5) 教育実習・保育実習・介護等体験
    - ① 実習等の位置づけと目標 ② 実習等の実施状況 ③ 成果と課題 (点検・評価)
  - (6) 授業内容と教育方法の工夫・研究
    - ① 授業内容と教育方法の工夫・研究 ② 成果と課題 (点検・評価)
  - (7) 「学生による授業評価アンケート」の実施とその集計結果
    - ① 実施経緯 ② 集計結果 ③ 成果と課題 (点検・評価)

資料 授業アンケート用紙 A・B

### Ⅳ 学生生活

- 1 学生の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

(1)	入学・卒業・留年・退学・休学の状況	
	① 平成 25 年度入学生 ② 平成 26 年度入学生	
(2)	学生の動向	
(3)	成果と課題（点検・評価）	
2	クラス担任制	47
(1)	クラス担任制の現状	
(2)	成果と課題（点検・評価）	
3	学外における研修	48
(1)	実施概要	
(2)	成果と課題（点検・評価）	
4	課外活動	50
(1)	学生会	
(2)	学生会主催行事	
	① 学生会オリエンテーション ② スポーツ大会 ③ 純真祭	
(3)	クラブ活動	
(4)	ボランティア活動	
(5)	研修活動	
	① リーダー研修	
(6)	成果と課題（点検・評価）	
5	学生生活への配慮・支援	55
(1)	奨学金	
(2)	健康管理	
(3)	保険制度	
(4)	学生専用アパート	
(5)	通学の状況	
(6)	学生相談室	
(7)	成果と課題（点検・評価）	

## V 就職と進学

1	進路支援	59
(1)	就職指導	
	① 進路支援委員会の基本方針 ② 平成 25 年度年間就職指導計画 ③ 就職指導内容	
	④ 就職関連諸会合への参加	
(2)	平成 26 年度就職状況	
	① 就職内定状況 ② 就職内定先等内訳及び内定先一覧	
(3)	成果と課題（点検・評価）	
2	進学	62



(1) 編入学	
(2) その他の進学	
(3) 成果と課題（点検・評価）	
3 卒業生への支援	62

## VI 教員の研究活動及び社会的活動

1 研究活動	64
(1) 研究活動の概要	
(2) 専任教員の研究業績	
(3) 専任教員の所属学会	
2 社会的活動	67
(1) 講師・助言者等の実施状況	
(2) 専任教員の諸団体への所属状況	
(3) 他大学等の非常勤講師等の兼務状況	
3 成果と課題（点検・評価）	72

## VII 地域貢献活動

1 活動の概要	73
2 成果と課題（点検・評価）	74

## VIII 図書館

1 図書館の基本方針	75
2 組織と運営	75
3 施設・設備及び情報サービス	76
(1) 施設・設備	
(2) 情報サービス	
① レファレンス・サービス ② 館外貸出とコピーサービス ③ 視聴覚資料 ④ 情報検索システムの利用	
4 所蔵点数と年間受入状況	77
(1) 所蔵点数	
① 蔵書数 ② 学術雑誌所蔵数 ③ 視聴覚資料所蔵点数 ④ 除籍数	
(2) 年間受入状況	
5 利用状況	78
(1) 入館者数	
(2) 館外貸出	
(3) その他の業務	
① 参考業務 ② 文献複写 ③ 相互利用	
6 研究紀要	80

(1) 埼玉純真短期大学研究論文集

① 第8号

7 成果と課題（点検・評価）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 80

## IX 校地・施設・設備

1 校地及び校舎面積・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81

(1) 概要

(2) 成果と課題（点検・評価）

2 施設及び設備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82

(1) 概要

(2) 保守・管理体制

(3) 成果と課題（点検・評価）

3 学内見取図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 84

## X 教授会・委員会等

1 教授会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 88

(1) 教授会

① 開催日程及び主な審議事項等 ② 成果と課題（点検・評価）

(2) 人事

① 異動 ② 採用 ③ 退職

2 委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 93

(1) 教務委員会

① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）

(2) 学生委員会

① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）

(3) 図書委員会

① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）

(4) 実習指導委員会

① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）

(5) 進路支援委員会

① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）

(6) 入試広報委員会

① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）

(7) FD・SD推進委員会

① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）

(8) 特別支援教育委員会（子ども支援センター）

① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）

## **X I 事務組織**

- 1 業務分掌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109
  - (1) 事務組織の業務分掌
  - (2) 事務分掌
  - (3) 成果と課題（点検・評価）

## **X II 財政**

- 1 財政の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 112
  - (1) 消費収支決算の状況
    - ① 消費収入 ② 消費支出
  - (2) 貸借対照表の現状
  - (3) 財務比率
    - ① 固定比率 ② 固定長期適合率 ③ 流動比率 ④ 人件費比率 ⑤ 消費支出比率 ⑥ 消費収支比率
  - (4) 成果と課題（点検・評価）

## **X III 同窓会（秋桜会）**

- 1 活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 122
  - (1) 役員組織
  - (2) 活動状況
  - (3) 成果と課題（点検・評価）

## I 本学の概要

### 1 沿革と建学の理念

#### (1) 沿革

##### ① 純真学園の設立と沿革

学校法人純真学園は（以下、「本学園」という。）、日本の戦後初期に民主的諸改革が進行する社会状況の中、医学博士にして社会活動家であった福田昌子女史によって、昭和31年2月に学校法人純真女子学園として福岡市に設立された。

学園創設者福田昌子女史は、26歳という史上最年少の若さで医学博士の学位を取得し、医療に従事していた昭和22年、日本国憲法下で行われた初の衆議院議員選挙で初当選し、議員立法優生保護法を自ら執筆するなどをはじめ、女性の社会的地位向上のために国政の場で精力的に活動していた。

ちょうどこの時期、戦後の混乱の中、教育基本法・学校教育法が制定され、6・3・3・4制の男女共学がスタートするなど、民主主義国家の建設とそれに対応した教育制度の改革が進み、日本の社会は大きな変革の時期を迎えていた。

福田昌子女史は、戦後復興が進み大きく変化しつつある日本社会の中で、立ち遅れていた女子高等教育の必要性和重要性を強く感じ、「真の女子教育の実現、『気品・知性・奉仕』の精神を備えた女子の育成こそが、新しい日本の基盤に成り得るという信念」の下、昭和31年4月に「“純真な女性の姿”という意味の『純真』を校名に付し」純真女子高等学校を開校し、女性の社会的地位の向上のため教育に未来を託して、教養人として職業を持ち、経済的にも一人の人間として自立できる女性の育成を目指して、本学園における本格的な女子教育が開始された。

その後、昭和32年4月に純真女子短期大学（国文科を設置）、昭和42年4月に東和大学（工業化学科・電気工学科、平成23年10月閉学）、昭和58年4月には埼玉純真女子短期大学（英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部）を開学し、さらに平成23年4月純真学園大学（看護学科・放射線技術科学科・検査科学科・医療工学科）開学し、現在に至っている。

(表1)

学校法人純真学園の沿革	
年 月	沿 革
昭和31年2月	福田昌子、学園用地その他私財を寄付し、学校法人純真女子学園を設立
昭和31年4月	純真女子高等学校を開校
昭和32年3月	学校法人名を福田学園に改称
昭和32年4月	純真女子短期大学（国文科を設置）開学、福田昌子、初代学長就任
昭和41年4月	純真女子短期大学附属じゅんしん幼稚園開園
昭和42年4月	東和大学（工業化学科・電気工学科）開学、福田昌子、初代学長就任

昭和43年4月	純真女子高等学校を東和大学付属東和高等学校と改称
昭和51年1月	福田敏南、学校法人福田学園理事長に就任
昭和54年4月	東和大学付属昌平高等学校開校
昭和58年4月	埼玉純真女子短期大学（英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部）開学 福田敏南、初代学長就任
平成12年2月	福田庸之助、学校法人福田学園理事長に就任
平成19年4月	学校法人名を純真学園と改称
平成19年4月	純真女子短期大学が男女共学化、純真短期大学と改称
平成19年4月	埼玉純真女子短期大学を埼玉純真短期大学と改称
平成19年4月	東和大学付属東和高等学校を純真高等学校と改称
平成19年4月	東和大学付属昌平高等学校を学校法人昌平学園へ移管
平成22年3月	純真短期大学、第三者評価適格認定
平成22年3月	埼玉純真短期大学、第三者評価適格認定
平成23年4月	純真学園大学開学
平成23年10月	東和大学閉学
平成24年3月	埼玉純真短期大学、第三者評価適格認定
平成25年3月	純真短期大学、第三者評価適格認定

## ② 本学の創立と沿革

本学は、昭和58年4月、羽生市の要請を受け、英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部の3学科をもって現在の地に開学した。

福田昌子女史が昭和31年に創立した純真女子学園の「学園訓」（建学の精神）の理念に基づく女子短期大学が埼玉県に設立されたものであるという意味を込めて、本学は「埼玉純真女子短期大学」と命名された。

開設時の学科・専攻は、英語学科（入学定員100名）・児童教育学科（初等教育学専攻：同50名・幼児教育学専攻：同50名）・幼児教育学科第二部（同50名）の3学科（うち1学科は第二部3年課程）2専攻であった。第1期入学生は、英語学科62名・児童教育学科初等教育学専攻45名・同幼児教育学専攻58名・幼児教育学科第二部42名の計207名であった。

その後、社会情勢の変化による学生数の減少傾向が起こり、これをくい止めるために学科名称やコース名称の変更、募集定員の見直しなどを行ったものの、平成18年の英語コミュニケーション学科、平成19年の乳幼児保育学科第二部と相次いで募集停止し、「こども学科」単科による学校運営を余儀なくされた。

しかし、このことが幸いし「保育・幼児教育に特化した女子短期大学」を志向し、文部科学省の委託事業や教員免許状更新講習など、幼児教育の特色を活かした取り組みが功を奏して、「こども学科」の入学者も年々増加傾向を示し、平成23年度入学者は定員を確保できるまでに回復した。平成25年度の入学予定者は定員を上回る160名となり、平成25年3月には平成26年度からの入学定員を150名とする定員増の申請を行わざるを得なくなった。これまでの本学の学生増に結びつけた教育活動への取り組みは、平成21年度及び平成24年度に実施された2度の短期大学基準協会による「認証評価」の現地調査においても高く評価された。

平成26年11月に「羽生市と埼玉純真短期大学との地域連携協力に関する協定書」を河田羽生市長と調印し、これまでの文化・教育・福祉の分野に留まらず、「まちづくり」や産業振興などについても一層の協力を約束した。また、高等学校との関係では、平成27年1月に埼玉県立誠和福祉高等学校（後藤校長）との間で「埼玉純真短期大学との高大連携に関

する協定書」を、次いで2月に埼玉県立進修館高等学校（羽田校長）との間で協定を取り交わし、教育交流・連携を通して、保育、福祉教育の一層の充実を目指している。

本学は、昭和 58 年 4 月の開学以来、地域社会に根ざした女性のための高等教育機関として、専門知識と技術を兼ね備えた職業人を養成するとともに、社会奉仕と地域貢献に大きな使命感を抱いて努力してきた。この一例として、教育研究活動などにおいては、「羽生市学びあい夢プロジェクト」、「特別支援研究セミナー」や「市民公開講座」をはじめとして、羽生市や羽生市教育委員会、また近隣高等学校との連携、そして埼玉県東部地区の教育関係者との交流により、地域に根ざした大学として広く認識されるまでに至っている。

(表 2)

埼玉純真短期大学の沿革	
年 月	沿 革
昭和58年4月	埼玉純真女子短期大学開学（英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部） 福田敏南，初代学長就任
平成12年2月	福田順忠，第2代学長就任
平成12年12月	中澤 鐵，第3代学長就任
平成16年4月	学科及び専攻課程の名称を変更 ・英語学科→英語コミュニケーション学科・児童教育学科→こども学科 ・幼児教育学科第二部→乳幼児保育学科第二部 ・初等教育学専攻→こども学専攻，・幼児教育学専攻→乳幼児保育専攻
平成17年4月	入学定員を変更し，こども学科の専攻（こども学専攻，乳幼児保育専攻）を廃止 ・英語コミュニケーション学科:100人→50人・こども学科:100人→150人
平成18年4月	英語コミュニケーション学科募集停止
平成19年4月	埼玉純真短期大学に校名変更し，乳幼児保育学科第二部募集停止 藤田利久，第4代学長就任
平成19年8月	平成19年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」採択 英語コミュニケーション学科廃止
平成20年3月	「教員免許更新制に伴う予備講習」実施
平成20年8月	第三者評価適格認定（財団法人短期大学基準協会）
平成22年3月	乳幼児保育学科第二部廃止
平成22年3月	「こども学科」入学定員を150名から120名へ変更
平成23年4月	第三者評価適格認定（財団法人短期大学基準協会）
平成24年3月	木のこ（多目的教室）完成
平成24年3月	初代学長 福田敏南 第2代理事長の顕彰碑除幕
平成24年3月	創立30周年を祝う会開催
平成24年5月	理科実習室を教養実践室へ改装、学生食堂周辺整備、学生食堂調理室改装
平成25年3月	渡り廊下バリアフリーへ改装、ICT環境整備（各教室プロジェクター取り付け） 学習棟教室暖房機ガス化
平成26年8月	「羽生市と埼玉純真短期大学との地域連携協力に関する協定書」調印
平成26年11月	「埼玉純真短期大学と埼玉県立誠和福祉高等学校との高大連携に関する協定書」取り交わし
平成27年1月	「埼玉純真短期大学と埼玉県立進修館高等学校との高大連携に関する協定書」
平成27年2月	取り交わし

平成27年3月

第2 マナー実践室（旧図画工作研究室）と保育実習室（旧302教室）改装

## （2） 建学の理念

本学の「学則」には、本学設立の目的を次のように規定している。

### ○ 埼玉純真短期大学学則より抜粋

#### 第1章 総則

##### （目的及び使命）

第1条 この短期大学は教育基本法に則り、学校教育法に定める短期大学として、学術の理論及び応用を研究教授すると共に、純真学園建学の精神に基づき、健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物を養成することを目的とする。

学則第1条の「目的及び使命」の「学術の理論及び応用を研究教授する」は「学校教育法」第83条に、そして「健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物を養成する」は、同第108条の「大学は、第83条第1項に規定する目的に代えて、深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力を育成することを主な目的とすることができる。」に対応しており、本学が職業人養成大学として教育を担うことを明らかにしている。

さらに、「純真学園建学の精神に基づき（以下略）」では、本学が、学園訓「気品」・「知性」・「奉仕」を中核とする人間教育を継承し、良識ある社会人の育成を通して社会貢献を目指していることを含意している。

このように、本学設立の目的は、専門的知識や技術を持って社会に貢献できる「良き職業人」・「良き社会人」の基礎となる、「純真」なる心で人々に接する「良き人間」の育成であり、羽生市を中心として広く地域社会に貢献できる女子高等教育機関としての使命を果たそうとするものである。

## （3） 成果と課題（点検・評価）

時代の追い風の中で順調に学生確保と教育が進み、短期大学運営には教職員も状況変化に特段の危機意識を持つことのないままに運営がなされてきた。つまり、時代の要請の中で、本学の知的財産をどのように活かし、発展させていくべきか、養成する学生像とはどのようなものかなどについて、綿密な点検と評価、そして実践が必ずしも徹底していたとは言えなかった。これを反省し、平成19年度から点検・評価を基に本学の運営の見直しと教職員の意識改革を行った。

平成24年度も時代の変化に迅速かつ適切に対応するため、建学の精神に則って幼児教育者養成を使命とし、教育内容・教育方法など含む大学としての在り方やマナー・授業方法・研究活動などを含む教職員のあるべき姿を常に熟慮しながら、より実践的な教育が出来るように心掛けた。

さらに昨年度は全教職員が復活を導く強い意識と自信、意欲の高まりをもって取り組んだ年といえる。その結果、入学者数が平成23年度は127名、24年度入学者は120名と募集定員を満たし、昨年度の入学者は160名を越す結果となった。また平成26年度入学者は173名を数え、入学選考も第1期推薦入試以降のAO入試と推薦入試を取り止めせざる



を得なくなった。

このように入学者数が伸びたことは、次のような外部の方々（特に高校生や保護者）からの信頼と評価を得たことによるものと考えている。まず、本学にとって2回目となる、短期大学基準協会に対する「第三者評価」の申請に向けて、教職員が意識を高めて一致協力しながら準備を行ったことであり、次に平成23年度から開催している本学の特色ともいえる継続事業「特別支援教育研究セミナー」、「こども大学はにゅう」、「市民公開講座」などの地域社会への教育貢献事業、さらに数年計画で実行してきたキャンパス内美化整備・修繕事業である。今後も現状に甘んじることなく、「保育・教育者養成機関」として教職員が一丸となり、学園訓・教育目標を具体化させた学生教育や地域貢献活動を一層充実させていくことが重要であると考えている。

課題としては、学園訓を具現化できる学生の育成のために、大学改革および教育改革に取り組んでいるものの、全ての教職員の意識に均一に浸透しているとは言い難く、その結果、個々の理解や取り組み姿勢には違いが見られる。これは旧来からの「大学観」や「教師像」あるいは「職員像」から依然として脱却できないことが原因とも考えられるが、今後はこのような意識の改革や行動変容を促していけるような運営を、FD&SD研修をはじめとした教職員教育などを通して進めていかなければならない。

地域に対しては、これまで市民公開講座の実施や教育機関への協力などを積極的に行っているが、さらに「学びの機会と場」を質的・量的両面において提供できる地域密着型の大学としての役目を果たすことも引き続き大きな課題である。

## 2 教育方針と教育の特徴

### (1) 本学の教育方針

本学の「教育方針」は「学園訓」と共に「学生便覧」の冒頭に掲げられている。

#### ○ 本学の教育方針

- (1) 相互に相協同しつつ軽佻浮薄な態度を慎み、優雅で落ち着きのある言動を心掛けねばならない。気品を支えるものは洗練された情操と知性である。
- (2) 現実に応じ、正しい判断を下すことの出来るのは広い視野と高い知性にほかならない。従って知識を豊かにし、真理の追求に努力しなければならない。
- (3) 常に研鑽途上にある事を自覚し、謙虚に自己を見つめ自己満足に陥ることなく小我を捨て、大我に徹する精神を養うことを心掛けなければならない。奉仕の精神は小我を捨てる事によって始まる。

これは、「学園訓」の「気品」・「知性」・「奉仕」のそれぞれの意味を具体化したものであり、本学園の教育の基本方針を明示したものである。

「気品」の基盤は「洗練された情操と知性」にあり、「知性」は豊かな「知識」と「真理の追求」によって磨かれること、「奉仕の精神」は「小我を捨て、大我に徹する精神を養うこと」によってもたらされることを述べて、本学における学問と知識の探求が人間形成と表裏一体の関係にあることを説いている。



つまり、「気品」・「知性」・「奉仕」の中心に位置する「純真で豊かな」人間性を核として、それを取り巻く深い教養、現実に即応した専門的領域の知識・技能を修得し、職業や実際生活に活かす意識と行動力を身に付けることが、本学の教育目標と言える。

これを一歩進め、学生が理解しやすいようにと「学園訓」を3つの養成目標として、学生教育に取り組んでいる。

1. 「気品」：人間としての豊かな感性や社会的・文化的常識（マナーやエチケットなど）を備えた人間性豊かな「良き人間」の養成
2. 「知性」：知識の習得とそれらを総合しての考える力（課題発見と分析・解決能力など）と行動力をもった「良き職業人」の養成
3. 「奉仕」：「気品」と「知性」をもって、利害を考慮することなく、他者のために積極的に行動できる「良き社会人（市民）」の養成

本学では、この「学園訓」と「教育方針」を全教職員が理解し教育活動に臨むように、学内に「学園訓」を掲示すると共に、学長以下教職員それぞれが入学式や卒業式はもとより、春のオリエンテーションにおいて学生に、そして教職員会議などでは、教職員が折に触れてその真意を理解し、行動できるように心掛けている。

入学予定者にはプレカレッジ（入学前教育）でも、学長がおこなう授業のひとつとして学園訓を学生に理解させ、入学してからは「日本語表現」の授業の中で個々の学生に建学の精神の解釈を求めている。また、入学希望者とその保護者を含む外部に対しては、本学の大学案内パンフレット、ホームページなどで「学園訓」と本学の「教育方針」を提示し、理解されるよう努力している。

## （2） こども学科

本学はこども学科単科の女子短期大学であり、学生が同じ目的を持って勉学に取り組み、所期の目的を達成することを目指している。このこども学科では、小学校教諭と幼稚園教諭を目指す「こども学コース」と、幼稚園教諭と保育士を目指す「乳幼児保育コース」を設け、学生それぞれの目標にあわせて専門性を追求できるようにしている。その教育方針は「理論と実践を総合的にバランス良く修得し、常に考えながら行動できる保育・教育の専門職を養成する」ことである。

前者の「理論と実践を総合的にバランスよく修得」するためには、小学校と幼稚園・保育所の連携や初等教育の一貫性を考慮して、小学校と幼稚園・保育所における教育・保育を総合的に理解した教員として現場に立てるよう、教育・保育理論と実践をバランス良く習得可能なカリキュラム編成などを工夫している。

後者の「常に考えながら行動できる保育・教育の専門職を養成する」ためには、子どもの発達理解と発達段階を踏まえた保育や援助方法などの理論と実践を身につけた幼児教育・保育の専門職の養成を目指した科目配置とともに、自ら問題提起し、問題解決をするような授業方法をとっている。

この目的の実現のため、教室での授業はもとより、保育・教育現場を理解し、教室内での教科内容理解がより進むように現場での経験を重視している。教員はもとより学生もできる限り現場に出向きテキストの内容を現場を通して理解するように勧めている。

このため実習指導にはかなり重点を置き、2年間を通して実習の事前・事後指導を行い、実習をより実り多いものできるように配慮している。このように実習の事前・事後指導などにおいても、理論と実践を統合できるようにきめ細かく丁寧に行っているところも本学

科の特色のひとつである。

さらに、ボランティア参加など自主的な活動の場を積極的に提供することで、将来、保育や教育の専門職となる学生が自ら課題を発見し、実践の中でそれを明確にしながら解決し、その成果をもとにさらに発展させていく積極的な態度を育てる指導を心掛けている。

また、継続的な学習習慣を身に付け、絵本や幼児向け図書の積極的な活用や保育・教育の場に活かす資料検索などの基礎知識と技術を学べるよう、司書教諭科目も設けている。

保育・教育の現場ではたとえ新人であっても保育・教育者としての即戦力を求められている。そのため、クラスで模擬授業・授業研究・見学など実践的な授業方法と内容を取り入れるとともに、外部から現場の保育者や教育者を招くなどによって授業を展開している。

### (3) 成果と課題（点検・評価）

本学は「こども学科」単科とすることで、目的を同じくする学生を、全教職員が学園訓と教育方針に基づいた共通した考えや方針で、教育することができていると考えている。

授業実施においても養成すべき学生像について、教員間で共通理解が出来ており、教員間の授業協力や質の均一性が保たれている。学生の希望職種がほぼ共通するため、実習での指導も行いやすく特別な問題が発生していないこと、また学生の希望にかなった就職が出来ていることなどから、全体的には順調に教育活動が行えていると言えよう。

一方、今後早急に対処と改善を必要とする問題もある。それは学生の基礎学力向上を図りながら同時に社会人・職業人としての基礎知識や意識を持った保育・教育の専門教育を行わなければならないことである。

この基礎学力不足は、近年どの大学でも問題となっていることであるが、この基礎学力の不足によって専門的な授業展開が遅れがちになる傾向がみられる。また、核家族化や学力中心教育の影響からか、社会人・職業人としての基礎知識や意識に欠ける学生が増えていることも問題であるのは上に述べたとおりである。特に、幼児教育者としての職業的責任からも社会人・職業人としての意識や態度、適切な言葉遣いや人間関係を良好に保つためのスキルを身につけることも重要な課題として捉えなければならない。本学ではあまり見られないが、これは近年多くの大学でも大きな問題として顕在化しているように、友人関係や集団になじめないことなどが原因で授業に積極的に臨めない学生がいることとも関連していると思われる。

前者の基礎学力向上のためには、リメディアル教育の充実などで解決していくが、後者の態度や言葉遣い、人間関係のスキルを身につけることは、大学と家庭とが協力して解決していかなければならない課題である。このため、本学では新入生対象の「入門ゼミ」に加え、日本語の知識と運用能力向上を目的とした「日本語検定試験」の実施により、これらの問題解決の一步を目指している。一方で、職員にも同様の検定を実施して自らが手本となるように努力を重ねている。

いずれにせよ、本学の建学の精神、教育目的達成のためには、このどちらも解決しなければならない。これらの課題が未解決の場合、その後の実習や資格取得、さらには就職活動時や就職してから後の問題として発生し、学生自身が夢見た職業としての目的を達成することが困難な状況を招く原因となる。このことを我々は大学と学生の将来の問題として重大に受け止め、教職員が一致した問題として解決していきたいと考えている。詳しくは学生指導の項目に述べるが、今後、全教職員が家庭との連絡を密にしながら、より真剣に取り組んでいかなければならない問題のひとつと考えている。

### 3 組織と構成

#### (1) 運営組織

##### ① 運営組織

平成 25 年度の専任教員はつぎの表のとおりである。

##### ○ 各学科の教員配置

こども学科
藤田 利久・伊藤 道雄・牛込 彰彦・小澤 和恵・稲垣 馨・安倍 大輔・加藤 房江・高橋 努・持田 京子・細田 香織・安村 由希子・浅井 広・入江 良英(特)・阿部 峰雄(特)・金子 恵美子(特)
以上 15 名(専任教員) 内 3 名特任教員(特)

教授会は、学則第 43 条に基づき、上記の中の専任教員をメンバーとして組織し、これに事務局長・各セクション事務職員も同席して、意見を述べるができるようにしている。これにより教職員間の情報共有を図ることができ、教員と事務局職員の意思疎通と業務がスムーズに遂行できていると考える。

教授会にはそれぞれの案件を検討・処理する委員会を下記の表のとおり設けている。これらの委員会の委員配置については、すべての教員ができるかぎり均等に担当することを基本とした。また、これら委員会には、原則として、学長も出席している。

この教授会の議事をスムーズに進行させるため、議題は事前にメールで教職員に配信し、事前に議題の理解と意見の準備が可能となるようにしている。

##### ○ 委員会一覧

教務委員会、学生委員会、図書館情報委員会、進路支援委員会、入試広報委員会、実習指導委員会、FD&SD 推進委員会(自己点検・評価委員会を含む)、特別支援教育委員会(子ども支援センター)
--

##### ② 成果と課題(点検・評価)

教員組織について、教員の職位と年齢のバランスを考えなければならない。同時に、教員数についても、科目に対する適正配置ができるようにと考えていかなければならないとの考えに基づき教員の新規採用を行った。このことにより、職位と年齢、そして科目担当のバランスもより適正に近づくものとなった。

教授会については、学長が議長となり、原則的に毎月 1 回(夏季休暇中 8 月は開催なし)開催され、必要が生じた場合には、臨時教授会を開催した。

この教授会は各委員会から提出された議案について審議と報告を行ったが、事前に各委員会で検討されたものであり、ほとんどの議案が異議なく了承された。質問や意見を求める場合もあったが、それらは確認するといった意味と内容であった。教職員間には感情的な摩擦もなく、良識ある大学人としての学生教育と研究に深く関わる議論がされ、教授会としての役割を果たしてきたと考える。

委員会は、昨年度同様、学生対応など突発的事項で日常的に繁忙を極める委員会と、比較的ルーティン中心の委員会とに分かれたものの、すべての教員が3委員会程度の委員を兼務するため、個々の教員の業務は多忙なものとなった。

本学の専任教員数が少ないため、各委員会委員長も兼務の形を取らざるを得ない状況であったが、委員長を各委員がサポートする形で業務を分担し、的確に対処されていた。これは、多くの委員会が定例委員会のほか、日常的にインフォーマルな情報交換を行うなど、情報や意見交換を密に行った結果であり、各委員会が円滑に運営され十分に機能したと言える。

しかし、あまりに日常の処理業務が集中し、マニュアル作成や新規事業などの発展的な業務が予定どおりに進まない委員会や、日常的業務処理に留まり、あまり積極的な活動が見えない委員会があったことは、大学サービスの向上と大学発展を見据えた場合、次年度に向けての反省事項であろう。

## (2) 学務分掌

### ① 専任教員とその職位

こども学科	
学 長：	藤田 利久
教 授：	伊藤 道雄・牛込 彰彦・小澤 和恵・入江 良英（特任）
准教授：	稲垣 馨
講 師：	安倍 大輔・高橋 努・持田 京子・安村 由希子・細田 香織・加藤 房江・金子 恵美子(特任)
助 教：	浅井 広

### ② 委員会の委員長

委員会名	委員長名
教務委員会	小澤 和恵
学生委員会	高橋 努
図書館情報委員会	牛込 彰彦
実習指導委員会	牛込 彰彦
進路支援委員会	安倍 大輔
入試広報委員会	小澤 和恵
FD&SD 推進委員会	安倍 大輔
特別支援教育委員会（子ども支援センター）	伊藤 道雄

### ③ 委員会の委員（◎は委員長）

委員会名	教員名
教務委員会	◎小澤 和恵・安倍 大輔・高橋 努
学生委員会	◎高橋 努・稲垣 馨・牛込 彰彦・細田 香織・安村 由希子・浅井 広
図書館情報委員会	◎牛込 彰彦・細田 香織・入江 良英
進路支援委員会	◎安倍 大輔・伊藤 道雄・持田 京子・安村 由希子・加藤 房江
入試広報委員会	◎小澤 和恵・持田 京子・加藤 房江・浅井 広
実習指導委員会	◎牛込 彰彦・伊藤 道雄・稲垣 馨・高橋 努・加藤 房江・浅井 広

FD&SD 推進委員会	◎安倍 大輔・小澤 和恵・持田 京子
特別支援教育委員会 (子ども支援センター)	◎伊藤 道雄・稲垣 馨・安村 由希子

#### ④ クラス担任 ( ) 内は副担任

クラス		1年	2年
乳幼児保育コース	A組	牛込 彰彦 (加藤 房江)	高橋 努
	B組	持田 京子 (安倍 大輔)	安倍 大輔
こども学コース	C組	浅井 広 (小澤 和恵)	小澤 和恵
	D組	伊藤 道雄 (高橋 勉)	安村由希子 (金子恵美子)

#### ⑤ 事務職員

本学の事務職員は、事務局長以下、専任職員 14 名で、庶務・教務・学生・進路支援・入試広報・実習指導をそれぞれに担当した。

係名	氏名
事務局長	大山 富一
シニアアドバイザー(入試・進路・地域連携)	佐藤 猛
庶務・経理担当	大澤 尚子
入試広報係	奥貫慶一郎・西山 理恵
教務係	相馬 萌・矢内美優*・寺田明美・田口宏美
学生係	田中 淳一・松原みゆき
進路支援係	中村 周
実習係	片山美冴・林 真麻

\*26年度途中退職

#### ⑥ 図書館職員

本学の図書館職員は、平成 26 年度に非常勤司書を採用し 2 名体制での運営を継続。

図書館司書	阿部峰雄
図書館事務	大木 美晴

#### ⑦ 成果と課題(点検・評価)

平成 26 年度も教職員の入れ替えが少ない年であった。少ない教職員がそれぞれの職務の責任者として担当している関係上、多少の戸惑いは見られたが、学生教育や研究活動を日常的に支援・推進する委員会やクラス担任、事務組織は順調に運営されたと考える。

委員会は前年度の教務委員会・学生委員会・図書館情報委員会・進路支援委員会・実習指導委員会・入試広報委員会に加えて、第三者評価の準備のため、FD&SD 推進委員会(自己点検・評価委員会を含む)の設置、子ども支援センター開設に伴う特別支援教育委員会の設置と、委員会の充実を図った。事務局では、各セクションに原則 2 名ずつ職員を配置し、十二分とは言えないまでも、学生や教員サービスにおいては、大きな支障をきたすことにはならなかった。事務職員以外では、新聞や雑誌で特色ある学食と掲載された学食はプロフェッショナルを配置するなどその内容の充実を図った。

教員は出勤日が週 4 日(他、みなし労働の研究日 1 日)で、担当授業コマ数を 8 コマ程度であったため、委員会や教育活動、学生指導にあたる傍ら、研究活動の時間も確保でき



たと考える。

教職員は組織の一員として、責任感を持って自己の職務を遂行する積極的な姿勢が見られ、さらに、公開講座や近隣の学校をはじめ、教育・保育諸機関の要請に応じて地域活動を積極的にを行うなどの取り組みがあったことは評価できる。

しかし、個々の教職員の慣例的な業務スタイルや考え方が業務への取り組み姿勢や量に影響していたことは改善の必要がある。改善のためには変化を恐れず、広い視野に立って考え、個々の経験を集約しながら新しい時代や社会的な環境に適した学生指導及び各種活動に積極的に取り組む運営組織と行動スタイルの確立が必要である。

一室にまとまった事務局はセクションによって業務繁忙期にズレがあるため、お互いのセクションが融通しあい、「考える事務作業」を遂行できる協力体制がとれていた。

### (3) 入学定員及び学生数

○ 入学定員・学生数一覧

(平成26年5月1日現在・単位：人)

学科・専攻		定員	1年	2年
こども学科	乳幼児保育コース	150	167	158
	こども学コース		6	4
合計		150	173	162

## 4 平成26年度学事日程

### (1) 学事日程

○ 学事日程一覧

前期		後期	
日付	行事	日付	行事
平成26年		9月29日	後期授業開始
4月1日～4日	前期補講期間(2年生)	10月4日	保護者会
4月4日	入学前オリエンテーション	10月10日	避難訓練
4月5日	平成26年度入学式	10月11日	AO入試面談、公開講座
4月7日	1年生オリエンテーション	10月17日	純真祭準備日
	補講日(2年生)	10月18日・19日	純真祭、進学相談会
4月8日	身体測定	10月20日～21日	秋研修日
4月9日・10日	学外研修(1年生)、補講日(2年生)	10月25日	研究セミナー
4月11日	前期授業開始	11月1日	推薦入試I期
4月12日	補講日	11月8日	補講日
4月19日	補講日	11月22日	補講日
4月25日	スポーツ大会	11月29日	補講日
4月26日	第1回オープンキャンパス	12月6日	推薦入試II期

## I 本学の概要

5月10日	補講日、保護者会	12月13日	AO入試面談、進学相談会、プレカレッジ
5月12日～6月7日	小学校教育実習（こども学コース2年）	12月29日	冬季休業
5月17日	補講日	～平成27年1月2日	
5月19日～6月7日	幼稚園教育実習（乳幼児保育コース2年）	1月5日	後期授業再開
5月24日・25日	第2回オープンキャンパス	1月10日	進学相談会、プレカレッジ
6月7日	公開講座	1月21日	AO入試面談、一般入試Ⅰ期
6月14日・15日	第3回オープンキャンパス	1月22日	補講
6月21日	補講日	1月23日	表現発表会リハーサル
6月28日	公開講座	1月24日	表現発表会
6月30日～7月14日	保育所実習（乳幼児保育コース2年）	1月26日～30日	後期試験期間
7月3日～7月5日	純真短期大学との合同授業	1月31日	進学相談会、プレカレッジ
7月4日	ディズニー研修（1年生）	2月4日	追再試験発表日
7月5日・6日	第4回オープンキャンパス	2月9日～10日	追再試験期間
7月12日	公開講座	2月12日～3月26日	春季休業
7月19日・20日	第5回オープンキャンパス	2月16日～27日	施設実習（乳幼児保育コース1年）
7月24日・25日	補講日	3月4日	一般入試Ⅱ期
7月26日	公開講座	3月5日	プレカレッジ
7月28日～8月1日	前期試験期間	3月6日	学位授与式予行日
8月2日・3日	第6回オープンキャンパス	3月7日	学位授与式
8月4日	AO入試面談	3月20日	AO入試面談、プレカレッジ
8月6日	追再試験発表日	3月25日～27日	春の学校見学会
8月13日～9月19日	夏季休業	3月27日	2年生オリエンテーション
8月21日・22日	追再試験期間	3月30日・31日	補講日
8月23日・8月24日	第7回オープンキャンパス		
8月24日	Home Coming Day		
8月25日～29日	前期補講期間		
8月30日	AO入試面談		
9月1日～4日	私立短期大学体育大会		
9月1日～16日	保育所実習（乳幼児保育コース2年）		
9月1日～19日	幼稚園教育実習（こども学コース2年）		
9月16日～18日	キャリアデザイン集中講義（1年）		
9月8日～12日	幼稚園教育実習（1年）		
9月13日	公開講座		
9月20日	AO入試面談		
9月27日・28日	第8回オープンキャンパス		

## (2) 成果と課題（点検と評価）

本年度より定員を120名から150名とした。173名の新入生を迎えるにあたり、教室や施設の整備を行い、基礎ゼミにあたる入門ゼミも1クラスを2つに分けて指導を行った。学生数の増加に対処できたと考えている。

教育のため、授業コマ数15コマ以上を確保した上で、保育所・幼稚園・小学校での実習、補講日の設定などで学事日程はかなり窮屈なものとなっているが、これも免許状と資

格の取得を目指す短期大学の宿命ともいえる。

地域参画と地域貢献という視点から、様々な行事を組んでいる。大学のみならず、学生にとっても、社会性を高め、視野を広げる機会となっている。

入学生に対しては、入学前にプレカレッジ（入学前教育）と入学前オリエンテーションを行い、入学式後には学外（合宿）研修と学内オリエンテーションを行った結果、スムーズに大学生活に入ることができた。

7月のディズニー研修は4年目となり大変有意義な機会となっている。今年度は純真短期大学との合同授業を兼ねて実施された。合同授業や埼玉私立短期大学との共同開催で行われるキャリアデザインの授業は、同年齢の他大学の学生との交流を図る良い機会となった。

純真祭（学園祭）は、昨年度同様、あまり寒さを感じないという季節的な要因と2年生の就職活動に大きな影響が出ない時期という点から、今年度も10月の2日間で行った。

学生に対する保護者の思いを大切に、大学と保護者の関係を密接にすることで学生生活を意義あるものしたいという考えから、今年度も春と秋に保護者会を開催した。保護者から本学の教育環境と指導体制に対するより一層のご理解を頂く機会であり、さらに大学と学生、保護者の関係づくりが深まることで、密な学生指導につながっていると考える。また同時に実施している個別面談、昼食懇談会も好評である。

定期試験のフィードバックと半期学習内容の定着という視点から、昨年度に引き続き14回目の授業後に試験期間を置き、試験期間後に15回目の授業を実施するスケジュールにした。しかしながら、残念なことに試験を終えた安心感からか欠席学生が目立ち、当初の目的を達成していない状況が見られたので、来年度は15回の授業後に定期試験を実施するスケジュールに戻すことにした。



## Ⅱ 入試と広報

### 1 入試

#### (1) 組織と運営

##### ① 入試に関する組織

###### (a) 入試広報委員会

入試に関する事項は、入試広報委員会によって審議した。

###### (b) 入試問題作成

本学では、一般入試において学力検査（国語）を実施している。また、社会人入試において作文を課している。問題作成については、国語科を担当する教員を中心として問題を作成している。

###### (c) 高等学校等への入試広報

高等学校等への広報活動として、在学生の出身校をはじめ、近隣の高等学校へ大学案内・学生募集要項等を持参し、進路指導部や高等学校3年生の担任と面会した。この活動には、入試広報事務担当者だけでなく、専任教員や職員も積極的に取り組んだ。

##### ② 入試業務

入試広報委員会と入試広報課の協力によって、以下の業務を行っている。各事項について教授会の承認を得る必要のあるものは、定例の教授会に原案をあげ、審議を経たのち決定されている。

###### ○ 入試広報業務一覧

###### ●入試の企画・運営

入試の種類の設定・入試日程（案）作成・指定推薦校（案）作成・入試選考基準（案）作成・学生募集要項作成  
大学案内作成・広報誌等作成・入試問題作成・入学願書受付・入試の実施・合否判定資料の作成・合格通知発送

###### ●広報活動

各種相談会・学校見学会（オープンキャンパスを含む）・募集資料の配布・ホームページ作成・高等学校における説明会・模擬授業・公開講座などの企画・運営、各種広報媒体作成

## (2) 平成 26 年度入試の特徴

### ① 入試の改善点

入試区分については、平成 26 年度から現状を鑑み、選抜方法を推薦入試・AO 入試・一般入試・社会人入試の 4 入試 5 区分とし、同窓生推薦・専門高校総合学科等推薦入試を取りやめた。

指定校への推薦基準となる評定平均値については、学校の偏差値や入学者の現況にあわせて一部見直しを行った。

### ② 入試の特徴

#### (a) 入試の動向

指定校推薦入試は、本学より指定された高等学校（中等教育学校を含む）を平成 27 年 3 月卒業見込みで、学業成績の条件を満たし、出身学校長から推薦される者を対象に実施するもので、目的意識と学習意欲の高い人材を求めた入試である。書類審査と面接にて総合的に評価し、推薦基準となる評定平均値については別に定めている。

公募制推薦入試は、2 回実施している。高等学校（中等教育学校を含む）を平成 27 年 3 月卒業見込み、及び平成 26 年 3 月高等学校（中等教育学校を含む）を卒業した者で、学業成績の条件を満たし、出身学校長から推薦される者を対象に、目的意識と学習意欲の高い人材を求めた入試である。書類審査と面接にて総合的に評価する。

一般入試は、2 回実施している。各コースとも学科試験「国語（古文・漢文を除く）」と面接を課し、書類審査を含め総合的に評価する。

社会人入試は、社会的経験を有する者で、将来、保育・教育・福祉に従事する事を目指しているか、同分野の学習に興味のある社会人を対象に、作文（800 字以上）と面接を課し、書類審査を含め総合的に評価している。平成 26 年度の入試においては、希望者がいなかった。

AO 入試は、7 回設定（実施は 6 回）している。まず、入学希望者が本学のアドミッションポリシーを理解した上で、担当者が約 20～30 分程度の面接を行う。面接内容は、入学希望者から本学の教育方針・授業内容・学校生活・就職状況等の質問を受け、本学から入学希望者の志望動機・学習意欲・将来の進路、優れた能力・活動についての質問を行う。本試験を行う前に進路相談会や AO 入試ガイダンスを行い、入学希望者と本学の相互理解を促し、出願・試験に至る入試である。

それぞれの入試における合否判定は、入試終了後、入試委員会、合否判定教授会を開催し公平かつ厳正に行われる。合否は、受験生及び出身学校長に通知し、電話・メール・FAX 等による問い合わせには応じていない。

## II 入試と広報

### (b) 応募者の動向

○ 本学志願者の推移

(単位:人)

年 度	応募者数
	こども学科
平成 22 年度	131
平成 23 年度	127
平成 24 年度	191
平成 25 年度	193
平成 26 年度	156

### (3) 平成 26 年度入試結果

○ 入試結果一覧

(平成 27 年 3 月 31 日現在・単位:人)

入試区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
指定校推薦入試	83	83	82	82
公募制推薦入試	2	2	2	1
一般入試	4	4	3	1
社会人入試	0	0	0	0
AO 入試	67	52	52	52
計	156	141	139	136

### (4) 募集要項

#### ① 募集要項の形式

A4 冊子形式とし、記述内容の充実を図った。

#### ② 選考方法

○ 選考方法一覧

入試区分		募集定員	推薦書	調査書	個人面接	学力検査等
推薦入 試	指定校	80	○	○	○	—
	公募制	10	○	○	○	—
一般入試		10	—	○	○	「国語」(古文・漢文を除く)
社会人入試		若干名	—	○	○	作文(800字以内)
AO 入試		50	—	※○	○	作文(800字以内)

※エントリーでは不要だが、出願では必要

## Ⅱ 入試と広報

### ③ 入試日程

#### ○ 入試日程一覧

入試区分		出願期間	試験日	合格発表日	入学手続 締切日
指定校推薦入試		平成 26 年 10 月 1 日 (水) ～10 月 22 日 (水)	11 月 1 日 (土)	11 月 6 日 (木)	11 月 28 日 (金)
公募制推薦入試	I 期	平成 26 年 10 月 1 日 (水) ～10 月 22 日 (水)	11 月 1 日 (土)	11 月 6 日 (木)	11 月 28 日 (金)
	II 期	平成 26 年 11 月 5 日 (水) ～11 月 26 日 (水)	12 月 6 日 (土)	12 月 11 日 (木)	1 月 9 日 (金)
一般入試	I 期	平成 26 年 12 月 15 日 (月) ～平成 27 年 1 月 9 日 (金)	1 月 21 日 (水)	1 月 26 日 (月)	2 月 18 日 (水)
	II 期	平成 27 年 1 月 26 日 (月) ～2 月 25 日 (水)	3 月 4 日 (水)	3 月 6 日 (金)	3 月 25 日 (水)
社会人入試	I 期	平成 26 年 12 月 15 日 (月) ～平成 27 年 1 月 9 日 (金)	1 月 21 日 (水)	1 月 26 日 (月)	2 月 18 日 (水)
	II 期	平成 27 年 1 月 26 日 (月) ～2 月 25 日 (水)	3 月 4 日 (水)	3 月 6 日 (金)	3 月 25 日 (水)

#### ○ AO 入試日程一覧

入試区分	エントリー期間	面接	出願許可 通知	出願期間	合格 発表日	入学手続 締切日
AO 入試	平成 26 年 7 月 14 日 (月) ～7 月 25 日 (金)	8 月 4 日 (月)	8 月 6 日 (水)	9 月 8 日 (月) ～ 9 月 19 日 (金)	9 月 25 日 (木)	10 月 24 日 (金)
	平成 26 年 8 月 8 日 (金) ～8 月 20 日 (水)	8 月 30 日 (土)	9 月 3 日 (水)			
	平成 26 年 9 月 1 日 (月) ～9 月 10 日 (水)	9 月 20 日 (土)	9 月 24 日 (水)	9 月 29 日 (月) ～ 10 月 10 日 (金)	10 月 16 日 (木)	11 月 14 日 (金)
	平成 26 年 9 月 22 日 (火) ～10 月 1 日 (水)	10 月 11 日 (土)	10 月 15 日 (水)	10 月 20 日 (月) ～ 10 月 31 日 (金)	11 月 6 日 (木)	12 月 5 日 (金)
	平成 26 年 11 月 24 日 (月) ～12 月 3 日 (水)	12 月 13 日 (土)	12 月 17 日 (水)	12 月 22 日 (月) ～ 1 月 9 日 (金)	1 月 15 日 (木)	2 月 13 日 (金)

## Ⅱ 入試と広報

	平成 26 年 12 月 19 日 (金) ～平成 27 年 1 月 9 日 (金)	1 月 21 日 (水)	1 月 26 日 (月)	1 月 28 日 (水) ～ 2 月 6 日 (金)	2 月 10 日 (火)	3 月 6 日 (金)
	平成 27 年 2 月 26 日 (木) ～3 月 10 日 (火)	3 月 20 日 (金)	3 月 20 日 (金)	3 月 24 日 (火) ～ 3 月 25 日 (水)	3 月 27 日 (金)	3 月 31 日 (火)

### (5) 成果と課題 (点検・評価)

今年度の入試は、定員を下回る結果となった。一昨年度、昨年度と続けて、AO 入試と I 期の推薦入試までで定員に達する状況があり、Ⅱ期の推薦入試 (公募制推薦入試) 以降の入試が大変厳しかった。そのような状況について、今年度の高校訪問やオープンキャンパスでの入試説明会などの機会に高校や受験生に話したことで、早い時期の AO 面談での出願許可人数を多少制限したことが、今までより厳しい入試の印象を与え、出願が控えられたと推測される。入学を希望する学生と本学が求める学生像のバランスを図り、定員確保を行う難しさを感じつつ、今後も厳正な入試体制の維持と共に、定員確保を目指した入試結果となるべく努力をしていきたい。

入試形態については、入試方法が複雑化したことで受験生に理解されにくい点が見受けられたので、今年度の入試から、同窓生推薦・専門高校総合学科等推薦入試を取りやめた。特に問題や混乱はなく、受験方法の選択と出願はわかりやすくなったと考えられる。

また遠隔地からの受験生に対し、受験前日の市内宿泊と入学金の免除という支援を今年度も同様に実施して、遠隔地からの受験負担軽減につなげている。

昨今 AO 入試受験者の基礎学力不足が問題になっていることから、今年度は、エントリーした受験者に対して、保育・幼児教育に関するテーマでの作文の課題を課すことにした。この課題によって、作文の文章表現力をみることが出来たと共に、保育・幼児教育に対する意欲や関心を知る参考にもなった。

## 2 広報

### (1) 組織と運営

学生の受け入れに関する広報活動は、以下の内容で入試広報部を中心に全教職員で行った。

- 広報活動一覧

## II 入試と広報

- ・大学案内・入試ガイドブック・学生募集要項・ホームページ・看板の作成
- ・受験生や高等学校への窓口業務（大学案内・募集要項・入試問題などの配布・入試に関する問い合わせへの応答等）と  
学校見学の案内など・受験雑誌および業者媒体 web ページへの広告掲載・各種相談会・模擬授業への教職員派遣・資料請求対応・取材対応

### (2) オープンキャンパス

#### ① 日程と内容

平成 26 年度は、以下の日程で計 15 回のオープンキャンパスを実施した。内容は、学科の説明・体験授業・個別進学相談・キャンパス見学・学食体験などである。

##### ○ オープンキャンパス実施日程一覧

- ①：平成 26 年 4 月 26 日（土） ②：5 月 24 日（土）、25（日） ③：6 月 14 日（土）、15 日（日） ④：7 月 5 日（土）、6 日（日） ⑤：7 月 19 日（土）、20 日（日） ⑥：8 月 2 日（土）、3 日（日） ⑦：8 月 23 日（土）、24 日（日）  
⑧：9 月 27 日（土）、9 月 28 日（日）

##### ○ オープンキャンパス実施内容詳細

	日 時	プログラム
第 1 回	平成 26 年 4 月 26 日(土)  9:30～受付開始  10:00～15:00	1 開会：学科・入試説明等 2 体験授業（1 時間目：11:00～11:40 2 時間目：11:50～12:30） A：「幼稚園・保育園の基礎講座」 B：「話し上手・聞き上手」 C：楽しい音楽体験～手遊びしたり楽器を鳴らそう 3 学食体験 4 なんでも相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） * 終了後、自由解散
第 2 回	5 月 24 日(土) 25 日(日)  9:30～受付開始  10:00～15:00	1 開会：学科・入試説明等 2 体験授業（1 時間目：11:00～11:40 2 時間目：11:50～12:30） A：「エンカウンターグループ体験」 B：「お弁当をつくってピクニック」 C：「ドキドキ・ワクワクピアノ講座」 ピアノ個人レッスン（1 人：20 分） 3 学食体験 4 なんでも相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） * 終了後、自由解散

Ⅱ 入試と広報

<p>第3回</p>	<p>6月14日(土) 15日(日)</p> <p>9:30~受付開始</p> <p>10:00~15:00</p>	<p>1 開会：学科・入試説明等 2 体験授業 (1時間目：11:00~11:40 2時間目：11:50~12:30)</p> <p>A：「子どもが楽しめるレクリエーションを体験！」 B：「脳って不思議！」 C：「ドキドキ・ワクワクピアノ講座」</p> <p>ピアノ個人レッスン(1人：20分) リピーター講座(スマイル部)</p> <p>3 学食体験 4 なんでも相談・キャンパス見学・アパート見学(希望者のみ)</p> <p>* 終了後、自由解散</p>
<p>第4回</p>	<p>7月5日(土) 6日(日)</p> <p>9:30~受付開始</p> <p>10:00~15:00</p>	<p>1 開会：学科・入試説明等 2 体験授業 (1時間目：11:00~11:40 2時間目：11:50~12:30)</p> <p>A：「アイ・コンタクトの素晴らしさ」 B：「発達障がいについて知ろう」 C：「季節と行事-七夕を楽しもう」</p> <p>リピーター講座「実習指導室からの話」 保護者対象懇談会「学生相談から見えること」</p> <p>3 学食体験 4 なんでも相談・キャンパス見学・アパート見学(希望者のみ)</p> <p>* 終了後、自由解散</p>
<p>第5回</p>	<p>7月19日(土) 20日(日)</p> <p>9:30~受付開始</p> <p>10:00~15:00</p>	<p>ウェルカム・コンサート</p> <p>1 開会：学科・入試説明等 2 体験授業 (1時間目：11:00~11:40 2時間目：11:50~12:30)</p> <p>A：「作って遊ぼうパネルシアター」 B：「沐浴体験体験」 C：「園だよりをつくろう」 D：「ドキドキ・ワクワクピアノ講座」</p> <p>リピーター講座「先輩せんせーい」 保護者対象懇談会「先生とはやりがいのある仕事です」 ピアノ個人レッスン(1人：20分)</p> <p>3 学食体験 4 なんでも相談・キャンパス見学・アパート見学(希望者のみ)</p> <p>* 終了後、自由解散</p>

Ⅱ 入試と広報

<p>第 6 回</p>	<p>8月2日(土) 3日(日)</p> <p>9:30～受付開始</p> <p>10:00～15:00</p>	<p>1 開会：学科・入試説明等</p> <p>2 体験授業（1時間目：11:00～11:40 2時間目：11:50～12:30）</p> <p>A：特別応援「やさしさと愛で人は育つ」 ～ハープの調べにのせて～</p> <p>B：「紙芝居の演じ方」</p> <p>C：「子どもと遊べるおもちゃを作ろう」</p> <p>D：「ブラインドウォークにチャレンジ」</p> <p>リピーター講座「進路指導室からの話」</p> <p>3 学食体験</p> <p>4 なんでも相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ）</p> <p>* 終了後、自由解散</p>
<p>第 7 回</p>	<p>8月23日(土) 24日(日)</p> <p>9:30～受付開始</p> <p>10:00～15:00</p>	<p>1 開会：学科・入試説明等</p> <p>2 体験授業（1時間目：11:00～11:40 2時間目：11:50～12:30）</p> <p>A：「(1,2年生対象) 保育士・幼稚園の先生ってどんな仕事？」</p> <p>B：「息をあわせてワン・ツー・スリー！！」</p> <p>C：「和紙染体験」</p> <p>D：「ドキドキ・ワクワクピアノ講座」</p> <p>ピアノ個人レッスン（1人：20分）</p> <p>リピーター講座「先輩せんせーい」</p> <p>保護者対象懇談会「今だから純真・育てたい学生像」</p> <p>3 学食体験</p> <p>4 なんでも相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ）</p> <p>* 終了後、自由解散</p>
<p>第 8 回</p>	<p>9月27日(土) 28日(日)</p> <p>9:30～受付開始</p> <p>10:00～15:00</p>	<p>1 開会：学科・入試説明等</p> <p>2 体験授業（1時間目：11:00～11:40 2時間目：11:50～12:30）</p> <p>A：「心理アセスメント体験」</p> <p>B：「手作りおもちゃを作ろう」</p> <p>C：「ドキドキ・ワクワクピアノ講座」</p> <p>ピアノ個人レッスン（1人：20分）</p> <p>リピーター講座「面接試験の受け方」</p> <p>リピーター講座「大学生活なんでも Question!」</p> <p>保護者対象懇談会「お嬢さんの将来について一緒に考えます」</p> <p>3 学食体験</p> <p>4 なんでも相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ）</p> <p>* 終了後、自由解散</p>

② 参加状況



Ⅱ 入試と広報

○ オープンキャンパス参加状況一覧（単位：人）

平成 26 年実施結果（出願率 60%目標）

実施回数	実施日	こども学科					複数回										
		延べ人数 (高校生・保護者)		1.2 年生	個別 相談 者数	初回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	8 回	9 回	10 回		
春の 見学会	平成 26.3.26 (水)	33	11	7	24	11	※4月からの新学年でカウント										
	平成 26.3.27 (木)	26	8	3	17	25											
	平成 26.3.28 (金)	12	6	0	8	12											
	計	71	25	10	49	48											
1	平成 26.4.26 (土)	28	8	0	15	22	6										
2	平成 26.5.24 (土)	28	11	0	15	18	7	3									
3	平成 26.5.25 (日)	45	15	0	15	32	13										
4	平成 26.6.14 (土)	49	24	0	12	35	11	1	2								
5	平成 26.6.15 (日)	36	13	1	24	21	9	7									
6	平成 26.7.5 (土)	29	12	0	17	10	9	4	5	1							
7	平成 26.7.6 (日)	33	18	1	13	14	9	7	2	1							
8	平成 26.7.19 (土)	48	27	2	23	12	20	8	4	3	1						
9	平成 26.7.20 (日)	68	23	10	27	27	21	11	6	2	1						
10	平成 26.8.2 (土)	57	27	4	29	26	11	9	6	5	1						
11	平成 26.8.3 (日)	58	29	23	19	32	7	8	4	2	4	1					
12	平成 26.8.23	85	32	44	11	57	13	10	3	1	1	1					

## II 入試と広報

	(土)														
13	平成 26.8.24 (日)	73	38	36	13	40	8	6	7	6	5	1			
14	平成 26.9.27 (土)	39	20	14	9	17	4	10	4	3		1			
15	平成 26.9.28 (土)	32	13	5	9	10	5	4	3	3	2	2			
合計		779	335	150	300	421	153	87	47	27	16	6	2	0	0

### ③ 成果と課題（点検・評価）

オープンキャンパスは、高校生や保護者に本学を理解して頂ける絶好の機会と考えている。平成 26 年度のオープンキャンパスの開催日については、昨年度の実績を基に検討し決定した。

学科説明、入試説明、体験授業、模擬授業、学食体験、キャンパス見学、なんでも相談などを実施し、本学教職員と学生スタッフで対応している。一人ひとりを大切にするといい本学の良さを、来学された高校生や保護者にも感じていただけるように、教職員はもちろん学生スタッフも親切、丁寧な対応を心がけている。

オープンキャンパスも回を重ねるごとに、複数回の参加者（リピーター）が増えてくるため、別プログラムを置き、毎回の学科説明や入試説明などの重複を避けるという対応をしている。また卒業生を招いての講演や保護者対象懇談会、在学生との懇談会などの様々な企画を行い、本学の特色を幅広く理解していただくよう工夫している。

なんでも相談では、受験生一人ひとりに対応し、本学により興味を持ってもらえる貴重な機会と捉えている。よりスムーズな相談を目指し、可能な限り高校訪問を行った教職員が相談を担当するという配慮を行った。

どの回においても、オープンキャンパス当日の朝、教職員、学生スタッフでの打ち合わせを行い、終了時は同様に全員が集まって振り返りの反省会を行っている。そこで出た様々な意見を次回に活かすよう心がけているため、回を追うごとに充実してきているようである。

なお、オープンキャンパス参加者述べ人数は、昨年度が 807 名に対し、今年度は 779 名ということで、4.5%減少した。オープンキャンパス参加人数は入学出願者数につながるもので、なお一層の動員工夫と広報を検討する必要がある。

### (3) その他の広報活動

#### ① 高等学校への訪問

本学では開学以来、県内はもとより隣接県の高等学校を中心に高校訪問を行っている。訪問の目的は、本学の教育理念や取組・入学試験での選考方法、卒業後の進路などについて

て、高等学校に理解して頂くことである。平成 26 年度も、全教職員を各地区に分担し、春期、夏期、秋期、冬期と高校訪問を行った。春期の訪問では、指定推薦校を中心に訪問を行った。夏期は、高等学校の三者面談が終了した時期に訪問し、秋期は、推薦入学試験の願書受付が始まる前に、オープンキャンパスや学校見学などに来ていただいた高校生の出身校を中心に訪問を行った。冬期は、推薦入学試験や AO 入学試験合格者の高校に対して、お礼の挨拶とプレカレッジの案内及びその時期以降の入試（一般入試，AO 入試）についての案内を行った。

### ② ホームページ

大学案内パンフレットとならんで、ホームページもまた本学に関する情報を受験生や一般の方へ提供する媒体として重要な役割を担っている。特にホームページは、最新の情報を提供できるということにおいて、パンフレットとは異なる利点がある。ホームページは「埼玉純真短期大学の今」を発信できるものとして位置付けている。具体的には、授業紹介、ピアノレッスン動画、教職員や学生ブログのアップなど、役に立つ情報の提供とともに、大学や学生が行っている活動や、それを通して何を感じているのかをリアルタイムに知ることが出来る内容となっている。

### ③ ウェブサイトへの掲載

本学のホームページ以外に、教育関係者を介してインターネット上に本学の状況等を公開している。平成 26 年度は 10 社と契約を行い、資料請求やオープンキャンパスへの申し込み等を可能にしている。ウェブサイトへの掲載による効果は、他大学を検索中に本学の取り組みや取得可能な資格・免許状等について、より多くの対象に目に留めてもらう機会として利用可能な点である。この取組により資料請求者の居住地域が広範囲になった。

### ④ ガイダンス・模擬授業・キャンパス見学会

毎年埼玉県を中心に、茨城県・群馬県・栃木県等の高等学校を会場とした進学相談会やガイダンス、模擬授業に積極的に参加している。進学相談会やガイダンスに参加することで、本学を志望する生徒に対して、直接個々のニーズや様子をその場で捉えながら柔軟に説明ができています。また、模擬授業は、本学教員の教育への取り組みや姿勢、入学後に学ぶ内容について触れ、理解してもらえるよい機会となっている。

随時キャンパス見学も受け入れており、オープンキャンパス以外に本学へ直接来校する受験生や保護者に対して、個別にキャンパス見学や相談を実施し、希望があれば授業への参加や学食体験にも対応している。

### ⑤ 広報誌作成

本学の学校行事や授業、学生の活動等に関する広報誌として「Junshin News Letter」を発行している。平成 26 年度は 3 回発行した。この広報誌は、在学生と保護者をはじめ、オープンキャンパスや進学ガイダンス参加者、高校や地域の各機関などに配布している。

⑥ プレカレッジ

推薦入試や AO 入試での合格者は入学までの時間が長いため、入学までの意識や意欲、モチベーションが下がらないように、入学前教育としてプレカレッジを実施している。

実施概要と内容は、以下のとおりである。

○ プレカレッジ概要

<p>・日程</p> <p>必修科目 平成 27 年 1 月 10 日 (土)・1 月 31 日 (土)</p> <p>選択科目 平成 26 年 12 月 13 日 (土)・平成 27 年 1 月 10 日 (土)・1 月 31 日 (土)・3 月 5 日 (木)・3 月 20 日 (金)</p> <p>特別講演 平成 27 年 1 月 24 日 (土) 表現発表会開催 (羽生市産業文化ホールにて)</p> <p>・履修方法 必修科目について、1 月 10 日 (土)、1 月 31 日 (土) のどちらか都合の良い日に出席する。</p> <p>選択科目について、12 月 13 日 (土)・平成 27 年 1 月 10 日 (土)・1 月 31 日 (土)・3 月 5 日 (木)・3 月 20 日 (金) は、それぞれ受講を希望する日に出席する。</p>
---

○ プレカレッジ日程及び内容一覧

実施日	1 時限目 10:30～11:30 2 時限目 11:40～12:40 3 時限目 13:30～14:30			
平成 26 年 12 月 13 日 (土)	選択「相談援助」 (高橋講師)	選択「こどもと文化 ～行事を楽しむ (クリスマス)～」 (持田講師)	選択「弾き歌いと ピアノレッスン」 (小澤教授他)	
平成 27 年 1 月 10 日 (土)	必修「建学の精神を理解する」 ※保護者参加可 (藤田学長)	必修「保育・教育実習入門 ～ “夢をかなえる初めの一歩”～」 (牛込教授)	選択「保育者に求められる 日本語表現」 (細田講師)	
1 月 24 日 (土)	特別講座 表現発表会 (13:00～16:20) 開催場所：羽生市産業文化ホール・大ホール			
1 月 31 日 (土)	必修「建学の精神を理解する」 ※保護者参加可 (藤田学長)	必修「保育・教育実習入門 ～ “夢をかなえる初めの一歩”～」 (牛込教授)	選択「幼稚園・保育園の 基礎知識」 (浅井助教)	
3 月 5 日 (木)	選択「特別支援教育～困 る子ではなく、困ってい る子です～」 (伊藤教授)	選択「保育実習指導 ～ペーパーサートにイメー ジを膨らませて～」 (加藤講師)	選択「弾き歌いと ピアノレッスン」 (小澤教授他)	選択「保育原理入門 ～保育記事から～」 (入江教授)
3 月 20 日 (金)	選択「心理学入門 ～こころの世界を知ろう」 (稲垣准教授)	選択「子どもにとって遊びって何？」 (安倍講師)	選択「保育内容(人間関係) 指導法～子どもの成長と人 とのかかわり～」(金子講師)	

#### (4) 成果と課題（点検・評価）

オープンキャンパス以外の広報活動として行っている高等学校への訪問や模擬授業、進学ガイダンスは、本学教職員ができる限り担当高校を決めて訪問することで、高校側との信頼関係を築くことを重視した。

本学を広く理解してもらうためには、ホームページや広報紙「Junshin News Letter」は大変重要である。ホームページについては、常に新しく魅力ある情報を発信できるような体制を整え、多くの教職員、学生がブログを掲載した。ホームページへのアクセス数も増え反響も大きい。広報誌「Junshin News Letter」についても、高校や高校生、在學生、保護者に配布して、本学への理解を深めていただいている。

入学前教育（プレカレッジ）は 8 年目を迎え、合格内定者からはもちろん、高等学校からも理解と評価を得られている。合格者に対して入学前の事前教育を行うことは、入学に対する意識づけのみならず、学力低下を防ぐ対策にもなっている。シラバスにあわせて、課題とノートをワークブックにして、取り組みやすい形にした。今後も、学生の状況を把握しながら、内容の充実を図っていきたい。

## Ⅲ 教育活動

### 1 教育課程

#### (1) 教育課程の編成

本学において授与する学位は短期大学士であり、取得可能な免許状・資格は次のとおりである。

○ 学科別授与称号及び免許状・資格証の名称一覧

学科名	教育課程	称号・免許状・資格証
こども学科	卒業課程	短期大学士（こども学）
	教員養成課程 教員養成課程 保育士養成課程 司書教諭課程 社会福祉主事任用資格 レクリエーション・インストラクター資格 ピアヘルパー受験資格	小学校教諭二種免許状 幼稚園教諭二種免許状 指定保育士養成施設卒業証明書 司書教諭課程修了証書

こども学科では、子どもに関する専門分野の知識を授け、向上心に溢れる優れた人格と協調性豊かな人材の育成を目的としている。本学科における教育課程は教養教育科目及び専門科目をもって編成されている。教育における質を保持しながら、保育・教育の専門職を養成する本学の教育目的を達成するために必要な授業科目を開設し、専門科目に偏ることのないようにバランスよく、体系的なカリキュラム編成をしている。

#### (2) 成果と課題（点検・評価）

「変化する時代の要請と求められる大学像、専門職像に対応した人材育成」を目指したカリキュラムになるよう作成している。ほとんどの科目を半期で完結させる Semester 制にしたことによって、履修計画の見直しが行いやすくなり、不合格科目があった場合でも、卒業後に半期の科目等履修が可能となるなど、リカバリーが早期にできるようになっている。

レクリエーション・インストラクター資格やピアヘルパー受験資格は、本学学生にとってそれほど負担もなく付加価値をつける資格・免許となっている。

## 2 時間割編成と履修指導

### (1) 時間割編成

#### ① 時間割編成

乳幼児保育コースにおいては、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格の取得が可能になるように、またこども学コースにおいては、小学校教諭二種免許状・幼稚園教諭二種免許状及び司書教諭資格が取得可能となるように編成をしている。また、小学校課程の科目については、模擬授業などが効果的・効率的に行えるように、1, 2年生合同で受講できるような編成とし、その科目については隔年開講としている。

40名程度のクラスごとに時間割を組むことを基本とし、「日本語表現」「英語コミュニケーション」の授業では、レベル分けテストを行い、30名以下のクラスにして時間割編成を行っている。

#### ② 成果と課題（点検・評価）

司書課程がなくなり、時間割が編成しやすくなった。各クラス、空き時間が平等に最小限となるように、効率的な時間割になっている。

### (2) 履修指導

#### ① 履修指導

4月のオリエンテーションにおいて、教務委員と教務事務担当者によって学年別に履修説明が行われ、さらに、授業の選択方法と免許状及び資格の取得方法などについてクラス担任からも指導を行った。最終的な履修指導と履修登録の指導に関しては、1年生はクラス指導が可能な「入門ゼミⅠ」において、2年生はゼミにあたる「保育実践演習」の時間においてそれぞれの担任が行った。

卒業要件単位の取得状況把握のため、昨年度作成した「卒業要件単位チェックリスト」を活用している。また、履修登録と同時に「免許状・資格の取得希望調査」を提出とし、クラス担任・教務委員と教務事務担当者が全学生の取得希望の免許状・資格と履修状況を確認して必要な指導を行っている。さらに教務事務担当者は随時、学生に対し個別の履修指導を行った。

#### ② 成果と課題（点検・評価）

新入生に対しては、入学前オリエンテーションから始まり、学外研修と学内オリエンテーションでの機会を利用して、履修説明と指導の時間を充分に取ることが出来た。さらに最終的な履修指導と履修登録をゼミの時間で行うことで、履修の確認と履修登録期間遵守

### Ⅲ 教育活動

がなされつつあるが、今年度は数人の学生が履修登録に誤りがあり、それぞれの対処に混乱が生じた。履修管理は個人の責任であるが、2年間で、卒業と希望の資格・免許取得に至るよう履修指導の徹底をさらに心がけたい。

クラス担任・教務委員・教務事務担当者との連絡体制が整っており、年度を超える時点での申し送りの徹底が図られているので、再履修等の指導はスムーズに行われている。

## 3 授業実施状況

### (1) 授業科目の履修者

#### ① 前期

(単位：人)

授業科目の履修人数(名)	(教養教育科目) 教養科目	専門教育科目	司書教諭資格に関する専門科目	その他の科目	計
0	0	0	0	0	0
1-9	0	4	3	0	7
10-19	1	13	0	0	14
20-29	21	2	0	0	23
30-39	0	42	0	0	42
40-49	21	54	0	0	75
50-59	1	0	0	0	1
60-69	1	0	0	0	1
70-79	1	0	0	0	1
80-89	0	0	0	0	0
90-99	0	0	0	0	0
100-109	0	0	0	0	0
110-119	0	0	0	0	0
120-129	0	0	0	0	0
130以上	0	0	0	0	0
計	46	115	3	0	164



### Ⅲ 教育活動

#### ② 後期

(単位：人)

授業科目の履修人数 (名)	(教養教育科目) 教養科目	専門教育科目	司書教諭資格に関する専門科目	その他の科目	計
0	0	1	0	0	1
1-9	0	5	2	0	7
10-19	2	15	0	0	17
20-29	23	2	0	0	25
30-39	3	38	0	0	41
40-49	0	40	0	0	40
50-59	0	0	0	0	0
60-69	0	0	0	0	0
70-79	0	0	0	0	0
80-89	0	0	0	0	0
90-99	0	0	0	0	0
100-109	0	0	0	0	0
110-119	0	0	0	0	0
120-129	0	0	0	0	0
130以上	0	0	0	0	0
計	28	101	2	0	131

#### ③ 成果と課題（点検・評価）

入学者の増加のため、1科目あたりの履修人数が多くなってしまふ場合が多くみられた。1年生の基礎ゼミにあたる「入門ゼミ」では、22名クラスでの編成にしたり、語学系の科目の「日本語表現」と「英語コミュニケーション」では30名以下の編成にしたりと、できる限りの工夫は行った。さらにきめ細やかな指導が必要な科目については、今後も適切な編成について検討していきたい。

選択の教養教育科目では、履修登録まで人数が読めないところがあるため、50名を数名超える授業ができてしまった。

#### (2) 授業の開講・休講及び補講の状況

### Ⅲ 教育活動

#### ① 授業時数

平成 26 年度の授業は、厚生労働省の通達に基づき、前期・後期ともに 15 回開講された。

#### ② 休講の状況

##### (a) 前期

(単位：科目)

教育課程の区分	休講回数別授業科目数										計
	10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	
教養科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	16
専門科目	0	0	0	0	0	1	1	4	9	20	35
司書教諭に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	1	1	4	9	36	51

##### (b) 後期

(単位：科目)

教育課程の区分	休講回数別授業科目数										計
	10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	
教養科目	0	0	0	0	0	0	0	0	3	16	19
専門科目	0	0	0	0	0	0	5	7	23	36	71
司書教諭に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
その他の科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	5	7	28	52	92

前期・後期ともに保育所実習及び幼稚園・小学校教育実習のために休講となった授業はこの表には含まない。

#### ③ 補講の状況

##### (a) 前期

(単位：科目)

教育課程の区分	補講回数別授業科目数										計
	10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	
教養科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	16
専門科目	0	0	0	1	0	0	5	4	5	20	35
司書教諭に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	1	0	0	5	4	5	36	51

Ⅲ 教育活動

(b) 後期

(単位：科目)

教育課程の区分	補講回数別授業科目数										
	10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	計
教養科目	0	0	0	0	0	0	0	0	5	15	20
専門科目	0	0	0	0	1	2	5	5	26	32	71
司書教諭に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
その他の科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	1	2	5	5	33	47	93

前期・後期ともに保育所実習及び幼稚園・小学校教育実習のために補講となった授業はこの表には含まない。

④ 成果と課題（点検・評価）

休講となった授業は必ず補講を行い、前期・後期ともに、すべての授業において15回以上の授業が実施されている。

(3) 授業履修者の問題状況

① 授業欠席調査該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	欠席要注意授業科目数別該当者数										
				10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	4	1	3	4	6	6	3	16	13	17	73
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	4
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	1	0	1	0	1	1	1	2	5	36	48
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計				5	1	4	4	7	9	4	18	20	54	126

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	欠席要注意授業科目数別該当者数										
				10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	1	6	8	8	4	27	23	77
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	3	2	2	0	4	7	6	7	9	28	68
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計				3	2	2	1	10	15	14	11	38	53	149

Ⅲ 教育活動

② 受験無資格者調査該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	受験無資格科目数別該当者数											
				10 以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業 学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	4
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				0	0	0	0	0	0	0	2	0	3	5	

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	受験無資格科目数別該当者数										
				10 以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計
卒業 学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4	5
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	4
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				0	0	0	0	0	2	1	0	2	4	9

③ 再試験該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	再試験科目数別該当者数										
				10 以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計
卒業 学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	2	2	8	20	32
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	0	1	0	2	4	31	38
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
計				0	0	0	0	0	1	2	4	12	53	72

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	再試験科目数別該当者数										
				10 以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計
卒業 学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	0	0	4	1	6	29	40
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				0	0	0	0	0	0	4	1	6	33	44

④ 追試験該当者数

Ⅲ 教育活動

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	追試験科目数別該当者数											
				10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	4
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	3
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				0	0	0	0	1	0	0	2	1	3	7	

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	追試験科目数別該当者数											
				10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4	6	
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	
計				0	0	0	0	0	0	1	0	2	5	8	

⑤ 成果と課題（点検・評価）

学則に「各授業科目について出席すべき時間数の3分の2に達しない者は、その授業修了の認定を受けることができない」との定めがある。授業の出席回数不足による定期試験受験無資格者をなくすために、毎日授業担当教員から教務課に欠席状況を報告し、それを教務課が集計して、すべての学生の全科目の欠席状況を全教職員が共有できるパソコン上のフォルダで管理している。これによって、学生の出席状況を日々把握し、授業担当者及びクラス担任から出席状況に問題のある学生に対して指導を行うことができ、出席回数不足による受験無資格者を減少させている。

例年通りの再試験該当者がいるが、各科目の学習を到達させるために必要な措置と考える。

(4) 免許状・資格取得状況

① 免許状・資格課程履修者数

(単位：人)

卒業学年・非卒業学年	学科・専攻		学年	司書教諭資格	小学校教諭二種免許状	幼稚園教諭二種免許状	保育士資格	免許・資格を取得しない者	人数(実数)
卒業	こども学科	乳幼児保育コース	2年	-	-	152	152	0	154

### Ⅲ 教育活動

		こども学コース	2年	4	4	4	-	0	4
	小計			4	4	156	152	0	158
非卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	1年	-	-	167	167	0	167
		こども学コース	1年	5	6	6	-	0	6
	小計			5	6	173	167	0	173
合計				9	10	329	319	0	331

#### ② 免許状・資格課程の履修組み合わせ別履修者数

(単位：人)

免許・資格の 組み合わせ	卒業学年			非卒業学年			合計	
	こども学科		小計	こども学科		小計		
	乳幼児 保育 コース	こども 学 コース		乳幼児 保育 コース	こども 学 コース			
小学校教諭二種	-	0	0	-	0	0	0	4
幼稚園教諭二種	2	0	2	0	0	0	2	
保育士	2	-	2	0	-	0	2	
小学・司教	-	0	0	-	0	0	0	318
幼稚・小学	-	0	0	-	1	1	1	
幼稚・保育	150	-	150	167	-	167	317	
小学・幼稚・司教	-	4	4	-	5	5	9	9
無免許・無資格	0	0	0	0	0	0	0	0
計	154	4	158	167	6	173	331	

注) 表中の表記は以下のように省略する。

小学：小学校教諭二種免許状      幼稚：幼稚園教諭二種免許状      保育：保育士資格      司教：司書教諭資格

#### ③ 成果と課題（点検・評価）

今年度、無免許、無資格で卒業した学生はおらず、教員免許状や保育士資格の両方あるいはいずれかを取得する割合は100%である。そのうち約97%（昨年度96%）の学生が、2つ以上の資格・免許を取得している。このことから、免許状や資格取得に対して学生が意欲的であることがうかがえ、入学時の所期の目的を果たして卒業していると言えよう。

#### (5) 教育実習・保育実習・介護等体験

##### ① 実習等の位置づけと目標

### Ⅲ 教育活動

こども学科は、その教育課程に幼稚園教諭養成課程・保育士養成課程がおかれ、関係科目を履修し単位を取得することにより、こども学コースでは、小学校教諭二種免許状及び幼稚園教諭二種免許状が取得できる。一方、乳幼児保育コースでは、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格が取得できる。

これらの免許状・資格を取得するためには、以下のような実習が必修となる。

#### ○ 実習内容一覧

免許状・資格	実習内容
小学校教諭二種免許状	小学校における教育実習および介護等体験
幼稚園教諭二種免許状	幼稚園における実習
保育士資格	保育所及び施設における実習

本学では、1年次に施設実習および幼稚園前期（基本）実習、2年次に幼稚園後期（応用）実習、保育所実習、小学校教育実習、介護等体験などが組み込まれるが、いずれもこれらの実習は次のような位置づけがなされる。

まず、大学で学んだ理論を教育や福祉の現場で自ら体験し検証することである。これは、理論と実践とを関係づけ、学習の成果を現場において試すことによって新たな課題を見つけ出すことである。次に、現場に触れることで現状を把握し、造詣を深めながら、自らの将来像を見つめることである。

## ② 実習等の実施状況

各実習に関する指導は事前および事後の授業を中心に行われた。

まず、事前指導において、小学校・幼稚園・保育所・施設等の実際的な理解を図る一方、実習指導案・実習日誌・記録・実習ノートなどの作成指導を中心として、教育・保育現場等で必要とされる実践的な技術を習得させた。そして、実習中は各実習先へ専任教員が巡視を行い、実習先への挨拶とともに、学生の様子を把握し、対面による指導・助言等を行った。実習後は、学生一人ひとりと面談を行い、評価表などを参考にしながら、個人の実態に応じた指導・助言を行った。

### (a) 小学校教育実習

平成 25 年度の「初等教育学演習」（小学校実習の事前指導を目的とした授業）と平成 26 年度の「実践研究（小学校）」（事前指導）を通して、小学校実習における心構えや諸注意、またサービスの理解等を教授した。更に、授業計画の立て方等については、実際に模擬授業を行い互いに検証し、より良くするための方策を考える等、実践的な教授技術の養成を行った。

平成 26 年度は、2 年生が 4 名だった。個々によって能力や意識の差はあったものの、教育実習においてはそれぞれ頑張ることが出来た。3 名は、A 評価と高評価であった。実習中は、担当教員が研究授業を参観し、反省会に出席した。実習後には、学生一人ひとりと面

### Ⅲ 教育活動

談を行い、個人の実態に応じた指導・助言を行った。

#### ○ 小学校教育実習概要

実習期間	実習生数（単位：人）	実習園数（単位：校）	実施学科・学年
平成26年5月12日～6月6日	4	4	こども学コース2年

注) 日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。

#### (b) 幼稚園教育実習

実習を行うためには、1年次に「幼児教育者論」「教育原理」「幼児教育課程論」の履修と単位取得が必要となっている。1年次の「実践研究【幼稚園】(前)」の授業では、実習園の選定や交渉に際して事前指導を行い、初めての实習である「前期(基本)実習」に向けて、幼稚園教育実習の意義や具体的内容、心構え、サービスの諸注意、日誌の書き方、提出物の提出方法等の指導を行った。「後期(応用)実習」終了後は、それぞれの課題に繋がる評価の伝達を行った。

26年度後半には、1、2年生が集まって実習の実際についての情報交換を行った。1年生はこの機会に、実習期間の具体的な活動の様子や日誌のまとめ方、準備物や心構え等について事前に学ぶことが出来る。

2年次の実習では事前指導の段階において、1年次での実習の振り返りを基に「後期(応用)実習」での各自の自己課題を設定させた。また、責任実習についての事前指導として、児童文化財の作成と実践、指導計画の立案、具体的場面での保育方法の理解等を個々の状況に応じて行わせた。さらに、保育現場での人間関係における不安を軽減するために、教職員との関わり方などを説明した。

「後期(応用)実習」への参加許可は、1年次の「前期(基本)実習」と「施設実習」の取り組みやその他の授業評価によることを学生に説明し、実習の事前事後指導への取り組みの態度、園との関係、地域における私生活上の留意事項などについて、繰り返し指導した。

実習終了後は担当教員が個別に面談を行い、実習園の評価表を基に実習を振り返り、反省点から自己課題を明らかにすることで、次の保育所保育実習の課題設定へとつながるよう指導した。

#### ○ 幼稚園教育実習概要

	実習期間	実習生数（単位：人）	実習園数（単位：園）	実施学科・学年
前期 (基本)	平成26年9月8日～9月13日	169	133	乳幼児保育コース1年 こども学コース1年
後期 (応用)	平成26年5月19日～6月7日	151	121	乳幼児保育コース2年
	平成26年9月1日～9月22日	4	4	こども学コース2年

注) 日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。



(c) 保育所保育実習

実習への事前事後指導は、前期 15 回、後期 15 回を確保することが出来た。特に後期の 15 回の中で、実習先からの実習評価踏まえた上での面接指導ができじっくりと実施することが出来たことは、本人の将来への課題や展望を把握する上で大きな効果があったと考えられる。また、今年度は、学生が実習で学んだことを振り返るとともに、後進に伝えるという意図を持った、「実習伝え合い」を実施した。その準備などにも後期の授業を有効に使うことができた。昨年度からの懸案事項であった、9月の後半実習に対する事前指導の授業回数の確保であるが、今年度は、後期授業の中から、数回を9月の実習前に実施することができ、後期実習に対する事前指導に対する時間を前年よりも多く確保することができた。事前指導においては保育所保育指針を参考に、保育所の位置づけや活動内容といった理論的な内容の理解を図る一方、指導案の作成や実習ノートの記録の仕方といった具体的な内容についても指導を行った。

実習中は、電話での個別相談や巡回指導を通じて状況を把握し、指導を行った。本年度は事後指導の時間を十分に確保出来たことから、時間的な余裕を持って実習を振り返ることが出来た。また、保育所からの実習評価をもとに個人面接を行い、実習での反省点や今後の課題を明確にすることが出来た。

○ 保育所保育実習概要

	実習期間	実習生数 (単位：人)	実習園数 (単位：園)	実施学科・学年
前半	平成 26 年 6 月 30 日～7 月 14 日	148	129	乳幼児保育コース 2 年
	平成 26 年 9 月 16 日～9 月 30 日	1	1	
	合計	149	130	
後半	平成 26 年 9 月 1 日～9 月 16 日	143	125	乳幼児保育コース 2 年
	平成 26 年 10 月 16 日～10 月 30 日	1	1	
	平成 26 年 10 月 20 日～11 月 4 日	5	4	
	合計	149	130	

注) 日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。

(d) 施設実習

本学において「施設実習」は、1 年次の観察実習を中心とする「幼稚園実習 (前期) (基本)」の次に行われる初めての長期の実習である。施設実習は、「幼稚園実習」・「保育所実習」の二つとは異なり、原則として大学が実習先として決定した施設に学生を紹介し、宿泊で実習を行っている。ただし、遠方より来学している学生や、学生本人が強く希望した場合は、自己開拓した施設で実習することも例外的に認めている。実習巡視においては、専任教員 12 名が、県内及び、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県、千葉県、東京都

### Ⅲ 教育活動

の施設を訪問した。

また、保育実習Ⅲ（施設）については、履修学生がいなかったため実施していない。

#### ○ 施設実習概要

##### 保育実習Ⅰ（施設実習）

実習期間	実習生数（単位：人）	実施施設数 （単位：施設）	実施学科・学年
平成27年2月16日～2月28日	157	72	乳幼児保育コース1年

注1) 日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。

#### (e) 介護等体験

こども学コースにおいて、小学校教諭二種免許の取得を希望する学生に対する介護等体験事前指導は、前年度の平成25年度後期に集中授業で実施した。講義においては社会福祉施設、養護学校の概要、役割、機能等についての理解を深めるとともに、実際にブラインドウォークの体験や、車いす等の操作や介助の方法を学ぶことにより、具体的な介護・支援の基本的部分についての取り組みにも努めた。

介護等体験の体験実習については、平成26年10月6日から平成26年10月17日の間の5日間に社会福祉施設にて、平成26年10月30日・11月1日に埼玉県立行田特別支援学校において4名が体験実習を行った。

特別支援学校および社会福祉施設の実習先は、群馬県社会福祉協議会ならびに埼玉県社会福祉協議会の配属に基づき特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間を実施した。これらの実習は、短期間の体験ではあったが、それぞれの学生が明確な目的を持って体験に取り組んでいた。

この介護等体験で、学生たちは支援が必要な生徒や施設利用者の方と接することにより、コミュニケーションの取り方など新たな課題を持つことができた。今後は、実際の介護や支援方法について等、実技授業・社会福祉援助技術演習授業の充実を図っていかねばならない。

### ③ 成果と課題（点検・評価）

小学校実習に関しては、昨年に引き続き5月に4週間の実習を実施した。実習時期が5月に移動してから2年目ということもあり、教職員、学生も慣れ、スムーズな実施となった。

平成26年度は、学生が実習で学んだことを振り返るとともに、後進に伝えるという意図を持った、「実習伝え合い」を実施した。施設実習に関する伝え合いを12月に1回、幼稚園、保育所、小学校に関する伝え合いを1月に実施し、合計2回の実施となった。施設実習は、毎年実習先がほぼ同じということもあり、同一施設で実習を経験した2年生とこれから実習を経験する1年生でグループを作ることができたので、伝え合いの内容も濃いも

のとなり、効果が上がったと言える。これに対し、幼稚園や保育園は、同一施設での実習が少なく、グループを作ることが困難であった。来年度は、特に幼稚園、保育所に対する伝え合いのためのグループ作りに工夫を持たせることが必要である。

## (6) 授業内容と教育方法の工夫・研究

### ① 授業内容と教育方法の工夫・研究

各教員は、学生に教育者・保育者として必要な知識のみならず、実践において必要な諸能力を身につけさせるために、教育内容や教育方法および教材の工夫を行っている。

そのため授業方法としては、従来型の板書に頼るのではなく、パワーポイントを活用し、写真やイラストを組み込んだ資料をプロジェクターで投影するなどして、授業の効率化とともに学生が理解しやすい授業を行っている。

また、教員が一方的に知識を伝達するといった一方向の講義中心の授業ではなく、学生が事前に学習した内容や新聞記事なども活用し、これらをもとに学生同士が話し合いを行うなど、演習形式によって学生自らが学び、理解していく授業を行っている。さらに学生の積極的な授業参加を促すために、事前学習を課したり、グループワークや学生が発表する場を積極的に設けたりしている。

卒業後、幼児教育という責任の重い仕事にあたる本学の学生の場合、現場にスムーズになじめる心構えを持ち、仕事に直結した知識や技術を学ぶことが必要である。

このため授業内容を学生に理解させ、定着させるために、保育・教育現場等で活躍している外部講師を招き、現場をより身近にリアリティを持って感じられる授業を行っている。また学生自身が体験し授業で学んだことに対してさらに考察を深められるよう、キャンパスを離れ実際の幼児教育現場などでの学外授業も実施している。

### ② 成果と課題（点検・評価）

今年度も、各教員がそれぞれの専門性を活かし、日頃の研究成果を授業にフィードバックすることで、授業をより魅力的なものとする努力がなされている。また、教授方法においても、学生が学習内容を理解しやすいように、視覚に訴え、体験させることなど授業方法に工夫を加えることなどで、常に現場における実践とのつながりを意識した授業が行われた。

入学してくる学生の特性やニーズはわずかではあるが毎年のように変化している。このことを理解し、今後とも各教員は学生に最適な授業ができるように、自身の研究と教材研究・授業研究を続ける必要がある。

そのためにも、幼児教育現場での研究活動はもちろん、他大学の授業内容や実施方法にも興味と関心を持ち、学内では教員同士での授業参観や授業実践検討会の開催などで、常に授業展開の進歩と発展を目指し、今後も大学全体の教育力の向上を図っていかねばならない。

## (7) 「学生による授業評価アンケート」の実施とその集計結果

### ① 実施経緯

「学生による授業評価アンケート」は、本学の学生が授業に対して求めていることを把握し、授業内容・運営方法等の様々な改善を図ることによって、学生の学習意欲や学習効果の向上を目指すものである。授業内容・授業方法・授業に対する満足度等に関して学生の声を聞き、今後の教育活動を改善し、教員と学生の相互理解と協力関係を豊かにする一助として、今年度も以下の要領で実施した。アンケート用紙は、授業形態によって、用紙 A（講義・演習）と用紙 B（実験・実習・実技）を選択するようにしている。

#### ○ 「学生による授業評価アンケート」実施要領

1	アンケート調査の所轄は教務係とする。
2	対象科目について <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 調査対象科目及び時期                     <ul style="list-style-type: none"> <li>(a) 対象科目：全科目（半期科目及び通年科目）</li> <li>(b) 科目種類：講義・演習・実習・実技</li> <li>(c) 実施時期：前期及び後期の定期試験直前あるいは最終授業</li> </ul> </li> <li>(2) 調査実施手順について                     <ul style="list-style-type: none"> <li>(a) 教務係において実施要領及びアンケート用紙を準備</li> <li>(b) 調査実施予定日までに、担当教員へアンケート用紙を配布する。</li> <li>(c) 担当教員は、実施要領（別紙）を見ながら方法を説明し、実施する。</li> <li>(d) 回収後、アンケート用紙は教務係において保管</li> </ul> </li> <li>(3) 調査結果の集計について                     <p>教務係において保管するアンケート用紙は、担当教員別にファイルして担当教員の閲覧に供するようにすると共に、同係において集計処理する。</p> </li> <li>(4) 調査結果の公表について                     <p>集計処理した調査結果は対象科目の担当教員に通知し、その結果に対しての感想や改善策を提出してもらう。</p> </li> <li>(5) アンケート内容について                     <p>授業評価にとって重要なアンケートの質問事項は、数回にわたり審議を行って決定した。その結果、講義・演習用及び実験・実習・実技用の次のような二通りのアンケート用紙が用意されることになった。</p> </li> </ul>

### ② 集計結果

#### (a) 学生の授業への取組について

##### ○ 集計結果（前期）

評価 質問	1	2	3	4	5	未記入	無効
1	61.4%	20.9%	11.2%	3.5%	1.7%	1.3%	0.0%

### Ⅲ 教育活動

2	61.4%	30.0%	6.1%	0.7%	0.2%	1.7%	0.0%
3	45.0%	26.5%	16.4%	5.9%	4.8%	1.4%	0.0%

#### ○ 集計結果（後期）

質問	評価						
	1	2	3	4	5	未記入	無効
1	47.9%	24.6%	16.4%	7.6%	2.2%	1.2%	0.0%
2	62.2%	30.6%	5.6%	0.5%	0.1%	1.0%	0.0%
3	51.3%	27.9%	15.1%	2.7%	2.1%	0.9%	0.0%

注)

- ・項目1「1：0回・2：1回・3：2回・4：3回・5：4回以上」
- ・項目2「1：はい・2：まあまあ・3：どちらともいえない・4：あまり取り組まなかった・5：いいえ」
- ・項目3「1：はい・2：まあまあ・3：どちらともいえない・4：あまり取り組まなかった・5：いいえ」

#### (b) 授業内容について

#### ○ 集計結果（前期）

質問	評価						
	1	2	3	4	5	未記入	無効
4	64.7%	24.8%	6.5%	2.1%	0.5%	1.4%	0.0%
5	66.1%	23.8%	6.7%	1.8%	0.4%	1.2%	0.0%
6	70.2%	21.8%	5.3%	1.2%	0.3%	1.2%	0.0%
7	72.8%	19.2%	5.2%	1.2%	0.4%	1.2%	0.0%
8	68.8%	21.0%	6.8%	1.7%	0.4%	1.3%	0.0%
9	66.3%	23.2%	7.1%	1.2%	0.8%	1.3%	0.0%
10	66.8%	21.3%	6.3%	1.7%	0.5%	3.5%	0.0%

#### ○ 集計結果（後期）

質問	評価						
	1	2	3	4	5	未記入	無効
4	69.6%	23.2%	4.6%	1.0%	0.4%	1.2%	0.0%
5	70.8%	22.2%	4.9%	1.1%	0.2%	0.9%	0.0%
6	72.6%	20.5%	5.2%	0.6%	0.2%	0.9%	0.0%
7	73.3%	20.2%	4.5%	0.9%	0.2%	0.9%	0.0%

### Ⅲ 教育活動

8	70.4%	21.7%	5.1%	1.0%	0.3%	1.5%	0.0%
9	70.8%	21.6%	4.8%	1.0%	0.4%	1.5%	0.0%
10	71.0%	19.7%	4.6%	1.1%	0.4%	3.2%	0.0%

注) 1：思う 2：まあまあ思う 3：どちらともいえない 4：あまり思わない 5：思わない

#### ③ 成果と課題（点検・評価）

「学生による授業評価アンケート」は、専任教員はもちろん、非常勤教員にもできるだけ協力をいただき、全科目を基本として前期・後期末に実施している。実施にあたっては、学生がありのままを評価しやすいように、学生がアンケートを書く際、授業担当者は席をはずし、代表学生が回収、封緘して提出させている。

集計は教務課が行い、その結果は各教員に配布される。教員は担当科目の集計結果と学生の自由記述をもとに「授業評価アンケート結果に対するコメント」を提出することで、学生の授業評価を参考にしながら、今後の授業改善に活かしている。また「学生による授業評価アンケート」の集計結果と、教員による「授業評価アンケート結果に対するコメント」は、1冊のファイルにまとめ、図書館に置き、教員も学生も自由に閲覧できるようにしている。

ここに掲載されている集計結果は全体の平均であるため、細かい点検と評価はできないが、授業内容の評価において、昨年度より全般的に数字を上げている。数年に亘る「授業評価アンケート結果に対するコメント」を続ける中で、授業改善につながっていることがうかがえる。今後は、数字の結果だけにとどまらず、教科の特性にあわせた授業改善の検証方法を考えていきたい。

資料：授業評価アンケート調査A・B

学生による授業評価アンケート調査用紙

用紙 A (講義・演習)

履修年度	曜日・時限	科目名	実施日	担当教員
年度(前・後)			月 日	

この授業アンケートは、授業担当者が皆さんとともに、授業を改善し、充実させることを目指して実施するものです。皆さんの記入内容が授業の成績評価に影響を与えることはありませんので、率直にお答えください。

**※アンケートはこの用紙に記入後、マークシートにも自分の選んだ数字をマークしてください。**

〔Ⅰ〕 授業への姿勢について該当する項目に○を付けてください。

質問1 何回欠席したか。 [1] 0回 [2] 1回 [3] 2回 [4] 3回 [5] 4回以上

質問2 熱心に授業に取り組んだか。

[1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ

質問3 自主的に授業時以外で予習や復習、あるいは発展的な学習、関連した学習などをしたか。

[1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ

〔Ⅱ〕 授業内容について該当する項目を○で囲んでください。

[1] 思う [2] まあまあ思う [3] どちらともいえない [4] あまり思わない [5] 思わない

質問4 授業の内容がまとまっていて、よく理解できたか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問5 授業の内容が興味深く、関心が持てたか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問6 教員の熱意が感じられ、充実したか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問7 教員の話し方や声の大きさが適当で聞き取りやすかったか。

[1] [2] [3] [4] [5]

質問8 授業の進め方が適切であったか。

[1] [2] [3] [4] [5]

質問9 教材(テキスト・視覚教材・板書・配布資料など)・教具(設備使用)などが適当であったか。

[1] [2] [3] [4] [5]

質問10 授業内容は満足するものであったか。

[1] [2] [3] [4] [5]

質問11 この授業に出て具体的にどんなものが得られたかを書いてください。

( )

質問12 この授業をさらに良くするためにはどうしたら良いと思われるかを書いてください。

( )

〔Ⅲ〕 この授業について意見・感想・指摘などを書いてください。(必須)




学生による授業評価アンケート調査用紙

用紙 B (実験・実習・実技)

履修年度	曜日・時限	科目名	実施日	担当教員
年度 (前・後)			月 日	

この授業アンケートは、授業担当者が皆さんとともに、授業を改善し、充実させることを目指して実施するものです。皆さんの記入内容が授業の成績評価に影響を与えることはありませんので、率直にお答えください。

**※アンケートはこの用紙に記入後、マークシートにも自分の選んだ数字をマークしてください。**

〔I〕 授業への姿勢について該当する項目に○を付けてください。

質問 1 何回欠席したか。 [1] 0回 [2] 1回 [3] 2回 [4] 3回 [5] 4回以上

質問 2 熱心に授業に取り組んだか。

[1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ

質問 3 自主的に授業時以外で予習や復習、あるいは発展的な学習、関連した学習などをしたか。

[1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ

〔II〕 授業内容について該当する項目を○で囲んでください。

[1] 思う [2] まあまあ思う [3] どちらともいえない [4] あまり思わない [5] 思わない

質問 4 実技・実習の指導が的確で理解しやすかったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問 5 授業の内容が興味深く、関心が持てたか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問 6 教員の熱意が感じられ、充実したか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問 7 教員の話し方や声の大きさが適当で聞き取りやすかったか。  
[1] [2] [3] [4] [5]

質問 8 授業の進め方が適切であったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問 9 教材 (テキスト・視覚教材・板書・配布資料など) ・教具 (設備使用) などが適切であったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問 10 授業内容は満足するものであったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問 11 この授業に出て具体的にどんなものが得られたかを書いてください。

( )

質問 12 この授業をさらに良くするためにはどうしたら良いと思われるかを書いてください。

( )

〔III〕 この授業について意見・感想・指摘などを書いてください。(必須)




## IV 学生生活

### 1 学生の動向

#### (1) 入学・卒業・留年・退学・休学の状況

##### ① 平成 25 年度入学生

(単位：人)

学科・専攻		入学者数	在学者数	卒業者数	留年者数	退学者数	除籍者数	休学者数
こども学科	乳幼児保育コース	156	--	151	1	4	0	1
	こども学コース	4	-	4	0	0	0	0
合計		160	0	155	1	4	0	1

##### ② 平成 26 年度入学生

(単位：人)

学科・専攻		入学者数	在学者数	卒業者数	留年者数	退学者数	除籍者数	休学者数
こども学科	乳幼児保育コース	167	158	-	2	5	1	1
	こども学コース	6	6	-	0	0	0	0
合計		173	164	-	2	5	1	1

#### (2) 学生の動向

平成 26 年度は定員 150 名に増やし、その結果、今年度の入学者は 173 名と、昨年以上の入学者があった。

1 学年を例年通りの 4 クラスにすると 1 クラス 40 名を超えたことから、1 クラスを①②と 2 つに分け、それぞれ担任をつけてより少人数での指導に取り組んだ。2 学年は、1 学年から引き続き 4 クラス編成と、13 名程度を基本とするゼミを編成し、クラス担任はクラス全体指導を行い、ゼミの担当教員は、ゼミ生の日常の学習・生活面から実習・就職を含めて卒業まで指導・助言を行うものとした。このように、できるだけ細やかな指導・助言を心がけているが、進路変更や対人関係何度の理由で休学や退学者が数人出ている。

全体的には、目的意識を持って積極的に、かつ前向きに所期の目的の達成に向けて頑張る学生が多く、皆一様に勉強熱心であるといえる。

#### (3) 成果と課題（点検・評価）

昨年度の入学者が定員を超えたことを受け、今年度定員を 150 名に増やした。そのこと

により、昨年を上回る入学者数になった。女子のみの「こども学科」単科に絞り、学生全員が同じ目的を共有し、学生がお互いに協力しながら、学びへの取り組みができるようになったことが、評価されてきている結果であろう。さらに、本学が目的として掲げる「社会に求められる保育者・教育者を目指す」と一致した意識を持ち、教職員や学生が、ともに授業やボランティア活動などの充実した教育活動や社会活動などを通して地域社会に認められてきていることも、入学希望者の増加となった要因と考える。また、待機児童の増大に伴う保育士不足が叫ばれる社会的状況が追い風になったとも考えられよう。

ここ数年入学希望者が10名に届かない小学校課程の存続の是非を判断しなければならぬ状況となり、次年度は募集停止をせざるを得ないと言える。

一方退学者や休学者が依然として出ていることが、今後の大きな課題である。学生に問題が生じた場合、教授会において学生の動向が報告され、全教員が共通理解のもとに適切な学生指導が行われるような体制は整っているものの、いまだ十分とはいえないと考えている。あわせて、入学前の進路選択の段階において、適正を考えてもらえるような機会を探る工夫の必要も考えていきたい。

近年、入学以前から問題を抱えている入学者が増えており、入学者の個別面談などを通して問題を発生前に把握し予防的な対応を行うとともに、問題が発生した場合にも出来る限り迅速に対応していくことを進めたい。昨今は学生が抱える問題も多様化し、経済的な問題や友人関係、精神面での問題に加え、家族の問題までもが学生の日常生活に影響を与えている。このため学生へのアプローチのみでは解決できない場合も多く、保護者を交えた適切な支援や対応のあり方について考えなければならない。

教育活動は人と人の真摯な態度や地道で継続した行動の積み重ねであると考えている。この意識と態度で「教育は人格と人格の触れ合いから生まれる活動である」と教職員全員で再認識し、今後の学生教育に取り組んでいかなければならない。

## 2 クラス担任制

### (1) クラス担任制の現状

入学後の物理的環境や人的環境など様々な周辺の変化に不安を抱え、大学生活へのスムーズな移行に困難を伴う学生が年々増加する傾向にある。本学ではこれらの学生に対応するため、クラス担任制と入学前教育を取り入れている。

今年度の1年生は、1クラス40名を超えたため、①②と2つに分け、それぞれに担任において、より少人数指導できる体制にした。

2年次においては、1年生に引き続き4クラスの編成で担任ももちあがりとなったが、実質的な担任業務は、ゼミに当たる「教職実践演習」および「保育実践演習」の担当者が当たった。クラス担任とゼミ担任と連携しながら学生指導にあたるようにした。

担任業務は、生活面・学習面における学生の把握と指導である。出席に関しても担任が出席状況を確認し、本人への指導と家庭への連絡協力の依頼等をしている。また、効果的な指導ができるよう担任が担当する「入門ゼミ」を1年次に置いている。1週間に一度は必ずクラス単位で集まり、授業自体の目的はもとより、担任と担当学生の情報交換や意志の疎通を図る機会を持っている。定期的に会う機会を持つことは学生の状況の把握と、学生の不安を取り除くことに役立った。クラス成員間の人間関係とともに学級担任との人間関係も構築でき、個に応じた指導体制の礎となった。

## (2) 成果と課題(点検・評価)

初年次教育の重要性が叫ばれる中、本学でも「入門ゼミ」の導入や学生個々のファイル管理などを取り入れ、個に応じた学生対応に取り組んでいる。その中心にあり欠かせない制度がクラス担任制であり、その効果を発揮している。学生は何かしらの不安を抱えた時、誰に相談して良いのかがわからないと不安を更に大きくする。そこで担任制を置くことにより、大学内では常に担任が傍にいてサポートしてくれるという、安心感を持つことができた。また、1年生に対しては個を把握するために定期的な個人面談も取り入れており、きめ細やかな指導に役立っている。

学生に問題が生じた場合は、クラス担任やゼミ担当教員は学年主任や学生部長、教務部長、学生相談室相談員、そして学長と情報を共有し、早い段階での個に応じた対応を心がけている。また、学生の動向は教授会において毎月報告され、教職員間の共通理解が図られている。教職員が必要な場合は自由に閲覧可能な学生ファイルの活用は、情報共有に大きな力を発揮している。

近年、学生の抱える問題も多様化している。それに対する支援や対応のあり方をさらに組織的に行うための検討を、今後も継続する必要があると考える。

## 3 学外における研修

### (1) 実施概要

平成26年度の学外での研修は、4月の宿泊を伴う学外でのオリエンテーションと、7月のディズニーアカデミーでのホスピタリティについての研修の2つが行われた。

まず学外でのオリエンテーションは、国立女性教育会館(埼玉県比企郡嵐山町)で1泊2日の日程で実施された。これから学生生活をスムーズに送るため学外で寝食を共にすることを通じて、新しい友人と交流し、また学生と教職員との親睦を深めることも目的とした。全体集会では国立女性教育会館の果たして来た意義や役割について学んだ。その後、シンポジウムでは幼稚園・保育所・施設担当の教員が2年間の学びについて説明をした。夕食

#### IV 学生生活

後の各クラスに分かれてのクラス集会では、アイスブレイクやレクリエーション活動を行った。更にスポーツ大会が4月末に実施されるので、各クラスに補助に入っている学生会の2年生の説明を受けながら、スポーツ大会委員を含むクラス委員の選出を行った。

平成26年度の学外研修は、このような趣旨で以下のプログラムに従って実施され、1年生173名、2年生14名、教職員11名が参加した。

##### ○ こども学科学外オリエンテーションプログラム

平成26年4月9日(水)		平成26年4月10日(木)	
時間	内容	時間	内容
10:20	集合 羽生駅西口	6:30	起床・洗面
10:30	出発 (貸し切りバス) 羽生IC～	7:30	朝食(本館食堂)
11:30	国立女性教育会館 着	8:30	部屋の清掃・片付け
12:00	昼食(本館食堂)	9:00	部屋の鍵の返却
13:00	研修1 国立女性教育会館について	9:30	研修5 クラス集会 2年間の学びについて
13:30	開会の集い	12:00	昼食(本館食堂)
14:10	研修2 シンポジウム 「現場に生かす純真での学び」	13:00	研修6 レクリエーション(体育館)
18:00	夕食	15:00	閉会の集い
19:00	研修3,4 クラス集会 アイスブレイク クラス委員決め	16:00	出発 (貸し切りバス)
21:00	入浴・自由時間・就寝	16:40	熊谷駅着(経由)
		17:30	羽生駅西口着
			解散

次に、ディズニーアカデミーの研修は東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートと東京ディズニーリゾートで実施した。当日は以下のプログラムに従って実施され、学生173名と教職員11名が参加した。

東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートを会場として、東京ディズニーランドおよび東京ディズニーシーで実際に働いているキャスト(スタッフ)がゲスト(来場者)に対して、どのようなことに配慮しながら接しているのかを、「ホスピタリティ」という視点から学んだ。午後のワークショップでは、実際にパーク内で「ホスピタリティ」を生かしてキャストがどのようにゲストと接しているかを体験しながら学んだ。

##### ○ こども学科学外研修プログラム

平成26年7月4日(金)	
時間	内容
9:45	集合 東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾート
10:00	ホスピタリティ研修
12:00	昼食

13:00	ワークショップ
17:00	解散

## (2) 成果と課題（点検・評価）

近年は入学前のプレカレッジを通じて事前に知り合っている学生も少なくないが、授業や行事は基本的にクラス単位で行われるため、このようなクラスで活動する宿泊の学外研修を行うことでクラスの友人との親交を深め、その後の大学生活をスムーズに過ごすための一助になっている。また本年度より取り入れた、各実習担当教員によるシンポジウムでは、これから2年間での学びがどのように実際の現場で活かされていくのかを知ることができ、見通しを持って学生が授業に臨むことができることが期待される。

また本年度も学生会に所属する2年生がクラス担任の補助として学外研修に参加したが、研修をスムーズに行うことができたのに加え、1年生が間近に2年生の活動の様子を見ることができ、自分たちも大学で様々な経験を積みこのように成長して行くことができる、という良いロールモデルとなっている。

7月に行われたディズニー研修で「ホスピタリティ」を学ぶことは、対人援助を主とする職業に就くということを考えると、非常に有益な学びであると言える。そして本学の学園訓である「気品」「知性」「奉仕」を身につけることの意義を改めて考える良い機会になっている。

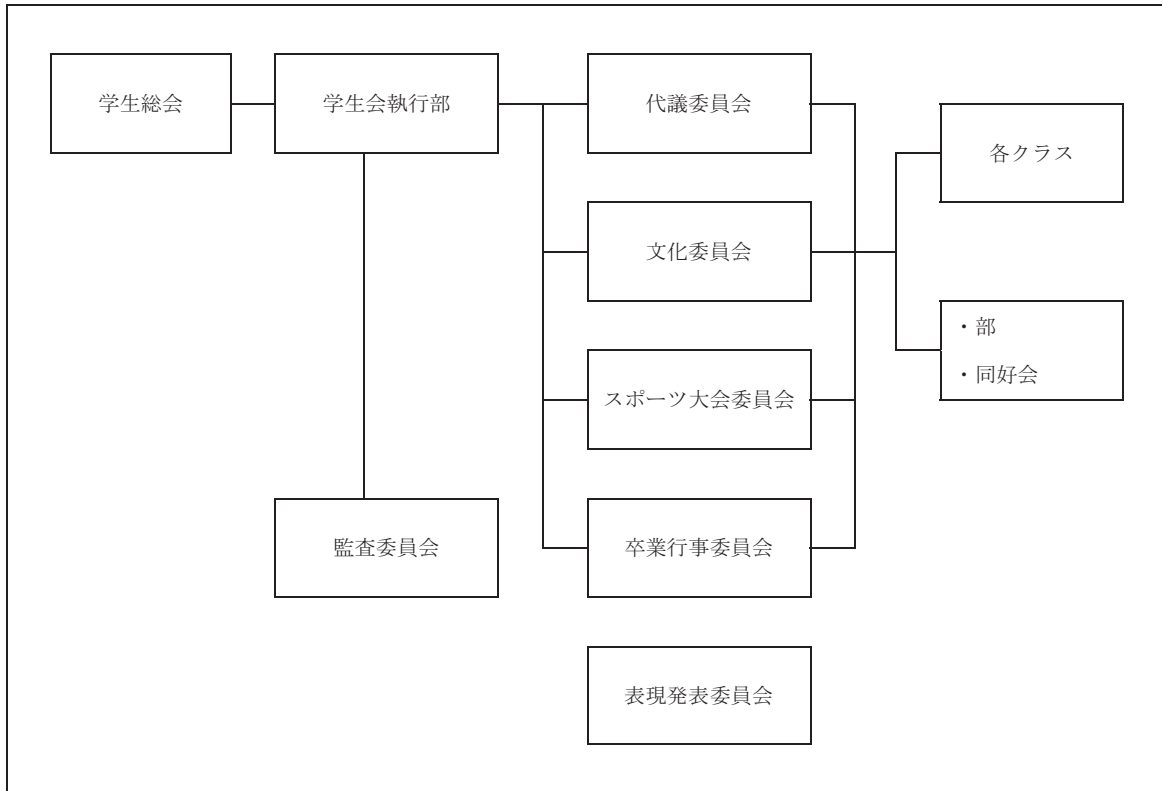
## 4 課外活動

### (1) 学生会

本学の学生会は、本学の教育精神を旨とし、学生生活の向上と充実をはかるために組織された自治組織であり、全学生が会員として加入する。また学生会執行部は、会長1名・副会長1名・書記1名と有志の学生により構成され、代議委員会・文化委員会・スポーツ大会委員会・卒業行事委員会の運営にあたっている。また、新たに表現発表委員会を組織し、毎年1月に開催される表現発表会を運営していくこととなった。

執行部をはじめとするそれぞれの委員会は、学生部長（学生委員会委員長の教員）・学生委員会委員（教員）・事務局の学生係から指導・助言を受けながら、執行部を中心に主催行事等の企画・運営を行っている。

○ 学生会組織



**(2) 学生会主催行事**

**① 学生会オリエンテーション**

学生会では、年度当初に行われる学外研修期間内に、学生会執行部が中心となり新入生を対象にした学生会オリエンテーションの時間を運営・実施している。

内容としては、学生会組織の説明、スポーツ大会や純真祭の説明、クラス役員の選出や研修の補助などを行った。特に4月に開催されるスポーツ大会の競技内容の説明や、エントリー方法などについて、スポーツ大会委員長を中心に説明を行った。

大学生活のイメージがまだ漠然としている新入生にとって、こうした新2年生が中心となって企画・実施されたオリエンテーションが行われることや補助をしている姿を見ることは、本学の学風に親しみを持ち、これからの学生生活に期待を抱かせるきっかけを得る機会になっている。また、新2年生にとっては最終年度における意識の高まりと責任感を促す機会でもあり、今後も継続して行きたいと考える。

**② スポーツ大会**

スポーツ大会は、新入生歓迎とスポーツを通してクラスの結束を強めるのみならず、学生と教職員の交流を深めることも目的として実施されている。企画・運営は学生会執行部が中心となり、各クラブの部長や代表者、各クラスから選出されたスポーツ大会委員と協

力して準備を進めた。学年が始まったばかりの4月に開催ということで、学生生活のペースがつかめない中、短期間で準備を行わなければならない、学生の負担は大きかったと思われる。しかし、クラスごとに準備を進め、クラス旗のコンテストやクラブ紹介などを通して、競技に参加するだけでなく、クラスメイトや担当教員と協力しながら大会を盛り上げることを体験するという、保育者・教育者を目指す本学の学生にとっての貴重な体験となっている。

### ③ 純真祭

純真祭は、学生会執行部、各クラスから選出された文化委員が中心となり企画・運営されている。特に地域に根ざした大学を掲げる本学にとっては、大学のみならず地域との協力を得ながら行われる、学生会主催行事の中でも最も規模の大きい行事である。学生委員会の教職員が学生会執行部の活動をサポートしているが、あくまで学生主体で企画・運営が行われている。

教職員の助言やサポートを得ながら準備を進め、個々の学生がそれぞれに純真祭との関わりを持つことで、達成感を得られる行事となった。

#### ○ 学生会主催行事及び学生会執行部が参加した行事一覧

月	行事名
4月	入学式・学外研修（新入生オリエンテーション）・健康診断、スポーツ大会
4月～9月	オープンキャンパス
10月	純真祭
11月	ゆるキャラサミット補助
12月	第1回 学生総会
1月	第11回 表現発表会
2月	平成26年度 リーダー研修会
3月	平成26年度 第31回 学位授与式、謝恩会

### (3) クラブ活動

本学の部活動は学生主体の自主的な課外活動であり、一覧にあるようにスポーツ系、文化系とその活動は多彩である。各部の活動を円滑に行うため、各部の部長や代表者がクラブ委員会を組織し、学生会執行部と連携しながら、適宜、クラブ委員会の会議を開いている。クラブ委員会では、学生会予算の中から各部に配分される予算の作成や決算の報告を行っている。

また、スポーツ系の部では、例年8月に開催される全国私立短期大学体育大会に参加しているが、今年度は東京都で開催された全国高校総体の関係で9月開催となり、1年生のみの参加となったが、バレーボール部がBブロックで準優勝を果たしている。



#### IV 学生生活

平成 23 年度からは、バレーボール部・バスケットボール部が山村学園短期大学との交流試合を開催しており、県内大学との更なる交流を深めている。

##### ○ 部・同好会一覧

分類	クラブ・同好会名
スポーツ系 (9)	バレーボール・バスケットボール・フットサル・バドミントン・フィットネス・テニス・卓球・ソフトボール・なで run
文化系 (5)	Music Lovers・軽音楽・茶道・スマイルサークル・漫画・アニメ研究部

### (4) ボランティア活動

本学は地域における各種活動を積極的に展開しており、学生の地域ボランティア活動も活発に行われている。ボランティア活動の対応は、専任の職員により一元管理され、外部からのボランティア派遣要請を受付け、学生への周知のための掲示及び諸連絡を行っている。

また、授業科目の中に「ボランティア概論」「ボランティア実習」の 2 科目があり、多くの学生が履修している。ボランティアを行う学生には、「ボランティア参加願」及び「ボランティア活動の記録」の提出を義務付けており、これらの提出書類は「ボランティア実習」科目の評価に活用され、あわせてボランティア保険の適用にも使用されている。

平成 26 年度の実施された、学生による主なボランティア活動は、以下の通りである。

- |                      |              |
|----------------------|--------------|
| ※ キヤッセこどもまつり         | 羽生市キヤッセ羽生    |
| ※ むじなもん学寮 in かわまた    | 羽生市川俣公民館     |
| ※ 特別支援学校夏祭り          | 埼玉県立行田特別支援学校 |
| ※ 三田ヶ谷小学校夏休み合宿       | 羽生市立三田ヶ谷小学校  |
| ※ 災害訓練ウォーク           | 羽生青年会議所      |
| ※ サマースクール            | 羽生市立川俣小学校    |
| ※ あゆみ学園祭             | 児童養護施設あゆみ学園  |
| ※ 世界キャラクターさみっと in 羽生 | 羽生市キャラクター推進室 |
| ※ 保育ボランティア           | 各地の保育園、幼稚園   |

### (5) 研修活動

#### ① リーダー研修

2 年生および 1 年生の学生会役員で研修会を開催した。概要および日程は以下のとおりである。

##### ○ リーダー研修の概要



IV 学生生活

期日：平成 27 年 2 月 24 日～25 日（2 日間）
場所：学食
参加者：学生会 1, 2 年生メンバー
目的：平成 27 年度スポーツ大会および純真祭についての話し合い

○ リーダー研修日程

	2 月 24 日（月）		2 月 25 日（火）	
	テーマ	内容	テーマ	内容
10 ～	集合 新年度体制 の発表	委員長等 テーマ設定 種目検討 時間配分 クラス委員の役割について 競技ルールについて 施行部の役割分担	集合 スポーツ大会 について	
12	昼食休憩		昼食休憩	
13	スポーツ大会について (途中、休憩あり)		今後の予定について	学位授与式について
14				学外研修について
15				春の学校見学会 健康診断について OC について
16	本日のまとめ 明日の予定 解散		本日のまとめ 解散	

**（6） 成果と課題（点検・評価）**

平成 26 年度も、新入生歓迎の目的としてスポーツ大会を 4 月に開催した。1 月から 3 月にかけて施設実習が行われるなど、学生生活の困難な中ではあるが、短期間で準備を行い、新入生の親睦の場となるよう、新 2 年生の団結力が発揮できた。

全国私立短期大学体育大会については、バレーボール部・バスケットボール部が参加した。A ブロックに昇格したバレーボール部は 1 次リーグで敗退したが、バスケットボール部は、B ブロック 3 位の好成績を残すことができた。

平成 23 年度から参加している「世界キャラクターサミット in はにゅう（旧ゆるキャラ

サミット in 羽生)」では、今年度も 2 日間で 72 名の学生がボランティアとして参加し、パンフレットの販売やスタンプラリーの補助を行った。

10 月に開催した「第 31 回純真祭」においては、あいにくの雨模様の中、500 名近い来場者を迎えることができた。クラスごとの発表など様々な催しを行ったが、保護者等への発表時間の周知が遅れてしまい、多少の混乱をきたしている。今後の大きな課題である。また、不審者の対応など警備体制の見直しも必要となってきた。

「学位授与式」については、式典・謝恩会会場をさいたま市内のホテルでの開催としてから 4 回目となり、卒業生一人ひとりにゼミ担当教員から学位記を手渡す形式も安定してきた。これまで課題であった、学位記授与の写真が撮影できるようにスペースを設けるなどの工夫については、事前の案内もあり比較的スムーズに行えた。しかし、スペースが狭いなどの問題点も残っているため、今後さらなる工夫が必要である。

今年は、昨年同様に午後からの開催を実施したが、学生の流れや、謝恩会への誘導などスムーズに行えたと思われる。着替えの時間等調整のため 1 時間の余裕を見込んでいたが、式典が長引くことをもう少し考慮する必要があるが、概ね成功といえよう。

## 5 学生生活への配慮・支援

### (1) 奨学金

本学では、学生の経済的支援として毎年 4 月に行われるオリエンテーションにおいて、日本学生支援機構の奨学金申込みと利用説明会を行っている。そのほか、希望者には「あしなが育英会奨学金」ならびに「交通遺児育英奨学金」を紹介している。また、平成 21 年度から「福田敏南記念育英学生」を新たに創設し、経済的な理由で修学困難な学生、児童養護施設からの進学生への支援制度を充実させた。なお、本学で利用できる奨学金等の概要は以下のとおりである。

#### ○ 奨学金等一覧

名 称	概 要
福田敏南記念育英学生 (3 名)	埼玉純真短期大学初代学長福田敏南氏を記念して、子女の教育活動を経済的側面から援助し本学がめざす有為な人材育成を図ることを目的として、入学金を除く納入金の減免を行う制度である。
日本学生支援機構奨学金 (1 種 : 27 名) (2 種 : 98 名)	経済的な理由により就学困難な学生に対し、奨学金の貸与を行っている。学生の多様なニーズに合わせ、奨学金制度の充実や申請手続きの改善、また、奨学金に関する情報提供が行われている奨学金である。

あしなが育英会奨学金 (0名)	1967年、あしなが育英会の「遺児と共に歩む」運動が始まり、保護者等が病気や災害により死亡した学生や、後遺症のために働けなくなってしまった家族を対象にした奨学金である。
交通遺児育英奨学金 (0名)	自動車等の交通機関による事故で死亡、または後遺症のため働くことができなくなってしまった保護者等に変更、経済的に援助する奨学金である。

\* ( ) は今年度の採用者数

## (2) 健康管理

身体の健康は、充実した学生生活を可能にする基礎であり、また学習を行う土台である。本学では学生の健康管理ならびに健康維持のために次のような措置をとっている。

### ① 保健室

学内の保健衛生と救急措置を目的として保健室を設置しているが、急に身体の変調をきたしたときや負傷の場合には、事務室に申し出て同室を利用するなどの処置を受けさせるよう努めている。

### ② 定期健康診断

毎年1回4月に学生の定期健康診断を実施している。検査項目は、身体測定・内科検診・胸部レントゲン撮影である。そしてこの健康診断の結果、要注意または要治療の者については、できるだけ速やかにその旨を本人または保護者に通知している。

飲酒・喫煙については、本学の学生の多くは未成年であることから、法を遵守することを理解させるだけでなく、年度当初のガイダンスにおいて、健康に及ぼす影響を説き、学業に専念できる健全な生活の維持への理解を得るように努めている。特に学生の喫煙については、保育者・教育者として児童と係わることを念頭に、学生の健康と他への迷惑を考慮し、禁じている。

## (3) 保険制度

本学では、学内外で行われる授業及び実習中、学内におけるクラブ活動や学生の自主的活動中、登下校等において、学生が不慮の事故によって傷害を負った時に補償される「学生教育研究災害傷害保険」に、入学時に全員が加入し、学生事務担当者が管理している。

## (4) 学生専用アパート

本学の学生の多くは埼玉県及び隣接県からの自宅通学生であるが、遠隔地からの入学生や家庭の事情により自宅外通学を希望する学生のために、民間委託の形態で学生用アパー

トを設けている。

また、これらのアパート等に居住する学生のために、年 2 回、教職員も参加する「自宅外通学生懇親会」を開催している。懇親会は、学生同士の親睦をはかることを第一の目的とし、1 人暮らしの悩みや苦労をお互いに話したり、先輩の体験談やアドバイスが聞けたりする機会となっており、1 人暮らしの不安を解消し今後の充実した学生生活の一助となっている。

今年度もアパートに不審者が出没するなどの被害が発生したため、防犯灯やカメラの設置などの対応をとった。また羽生警察との連携を密にすることで、早期解決を目指している。

## (5) 通学の状況

本学の学生の居住地・出身地は、埼玉県下を中心に、栃木県、群馬県、茨城県などの近隣諸県から東北・信越の諸県に及んでいる。近隣諸県の自宅などから通学している多くの学生は、羽生駅まで JR 高崎線・宇都宮線や東武伊勢崎線、秩父鉄道などを利用し、羽生駅からはスクールバスを利用している。バスの運行時間の関係で、徒歩や自転車で通学している学生も少なくない。またアパート等に居住している学生や羽生市内に居住する学生は、徒歩や自転車で通学している。

通学に際して自転車を利用する場合には、学内の所定の駐輪場を利用し、学生本人が責任をもって管理することになっている。原動機付自転車もこれに準ずるが、自動二輪車（オートバイ）については、人命に係わる事故の危険度が高いので、通学の手段としては禁止している。自動車通学に関しては、「学内自動車駐車場利用規程」を設けて学内駐車場の利用を認めている。

○ 駐輪場および駐車場の利用状況一覧

(単位:人)

自動車駐車場	90
--------	----

## (6) 学生相談室

学生相談室及び学生カフェは、学生生活上の悩みに直面する学生に対し、カウンセリングを中心とした専門的支援を行うことを通して、学生の成長を支えるために設置されている。本学の学生相談室では、心理・性格、心身の健康を始めとするさまざまな相談に応じているが、学生のプライバシーを守りながら、一人ひとりを尊重し個性を伸ばし可能性を探す手伝いを心がけている。本年度の概況は以下のとおりである。

○ 学生相談室の概況

相談員：稲垣 馨 (准教授)

相談場所：学生相談室及び学生カフェ

相談日時：月曜日から金曜日までの間、相談員の在室時間帯に相談活動を行っている。学生カフェは昼休みのみ。

相談体制：個人面接およびグループ面接。必要に応じて、保護者・学内教職員・医療機関との連携を取っている。

主訴別来談者実数：本年度の来談者実数は 56 名で、学生相談の利用が 52 名、電話相談が 2 名、学生カフェの利用が 2 名であった。

主訴内容は次のとおりであった。（括弧内はのべ相談者数）

心理・性格（18）・心身の健康（15）・人間関係（家族・友人・教員・その他）（18）・履修・勉学・就職（5）

本年度の相談件数は 56 件で、学生カフェの利用が 2 件、電話相談が 2 件、相談室利用が 52 件であった。昨年度と比較した場合、全体で約 2 割減となった。2 割減の理由は昨年度同様に、学生が利用する飲食可能な設備が充実・拡張したことにより、居場所の選択肢が増えたことと、ここ数年の傾向として、学生全体のメンタルヘルスが向上していることが推測される。主訴は友人関係のトラブル、親子関係、進路の悩みなどであったが、虐待や DV など、深刻な問題は見られなかった。

今年度目立ったこととしては、対人関係の悩みを抱えて相談に訪れた学生に発達障害が疑われたことであった。認知の歪みやコミュニケーションスキルの乏しさが、いじめや無視などの状況として本人に認識されていた。単純に対人関係の悩みとしてとらえる前に、本人が発達障害の傾向を有しているため、対人関係の問題として認識されているのではないかという視点で対応する必要がある。

相談員としては担当の授業時間も含めて、青年期の成長・発達に有用な心理教育を行うことで、学生のその時々ニーズに応じた対応（発達支援）を心がけた。

## （7） 成果と課題（点検・評価）

遠方から本学に入学した学生はもちろん、自宅から通う学生であっても友人関係や学習など様々な悩みや問題を抱えるケースが少なくない。そのため学生相談室でのカウンセリングを利用したり、担任やゼミ担当教員に相談する学生が増えている。特に学生専用アパートで暮らす学生に対しては月 1 回程度巡視を行うとともに、半期に一度、自宅外懇親会を開き、一人暮らしにおける不安の解消に努めている。

また、個々の学生ニーズに適切に応えられるよう、教員間の情報交換や情報共有を行うとともに、教職員が一体となって支援できる体制をより一層固めることが今後必要であろう。

## V 就職と進学

### 1 進路支援

#### (1) 就職指導

##### ① 進路支援委員会の基本方針

本学の進路支援は職員と専任教員、特にゼミ担任と連携しながら、大学全体で学生の就職・進路の支援を行っている。具体的には、今年度は金曜日の5限に「キャリアガイダンス」の時間を設け、原則として毎月1回の一斉指導をした。一斉指導が行われる以外の金曜日の5時限の時間は、進路支援担当の教員が履歴書作成のアドバイスや面接試験の個別指導を行った。またオフィスアワー等を活用し、進路支援担当教員やゼミ担当の教員が進路相談や履歴書作成の指導、面接試験の指導、礼状の作成の指導などを、学生の個性や求人先の実情を考慮しながら行った。本学では、幼稚園実習・保育所実習を行った実習先に就職する学生も少なくないので、各実習指導と連携しながら、これまでの幼稚園・保育所との関係性を大切にしながら指導している。

##### ② 平成26年度年間就職指導計画

###### ○ 平成26年度就職指導年間計画一覧（平成26年度卒業生対象）

期 日	ガイダンス内容
平成26年4月18日	進路希望調査票の記入
5月9日	卒業生を招いた講演会・実習中の就職活動について
6月13日	求人票の見方・公務員情報について
6月20日	群馬県統一試験・栃木県の幼稚園の合同説明会について
7月18日	夏休み中の過ごし方について
9月26日	合同就職説明会
10月10日	就職活動のすすめ方について
11月14日	これからの就職活動について・内定後について
12月12日	あいう園浦和美園保育園による講演
平成27年1月16日	卒業生を招いての講演会・春休みの過ごし方
随 時	履歴書作成、就職活動（連絡・見学等）相談、模擬面接等

###### ○ 平成26年度就職指導年間計画一覧（平成27年度卒業予定者対象）

期 日	ガイダンス内容
平成26年11月28日	履歴書作成について・今後の取り組みについて

##### ③ 就職指導内容

2年生に対しては、第1回キャリアガイダンスでその段階での希望を「進路希望調査票」に記入させた。進路支援希望調査票は進路支援担当事務がゼミ毎に管理し、進路支援部の教員ならびにゼミ担

当教員が学生の個性や適性に沿った指導ができるようにした。

また実習先から就職についての話をいただいた場合の対応や各地域の就職活動に対する指導など、キャリアガイダンスの中で時期や地域に応じた指導を適宜行なった。

昨年度作成した「キャリアサポートブック」を本年度も2年生全員に販売し、学生一人ひとりが主体的に就職活動に臨むことができるよう指導するとともに、教員による就職指導の質を確保した。

#### ④ 就職関連諸会合への参加

平成26年度も埼玉県をはじめ各県で開催される就職関係の情報交換会や連絡会等に、進路支援担当事務職員ならびに専任教員が参加した。こうした諸会合に参加することで、地域の幼稚園・保育所・施設を取り巻く状況の変化や学生に求められる資質などを把握し、学生指導に生かすことができた。

また私立幼稚園の採用において統一試験を実施している群馬県、幼稚園での就職を希望する学生に対して合同説明会を実施している栃木県など、独自の取り組みを行っている地域に就職を希望する学生に対して、日程やその内容をできるだけ早く学生に伝えることで、学生が事前に十分な準備を行うことができた。

## (2) 平成26年度就職状況

### ① 就職決定状況

○ 平成25年度卒業生進路一覧

(平成27年3月31日現在・単位：人)

進路決定者数 一覧	幼稚園		54
	保育所		74
	施設		5
	小学校		2
	学童保育室		3
	その他企業等		7
	小計	A	145
	未就職		1
	<b>就職希望者</b>	B	146
	<b>就職決定率</b>	A/B	99.3%
	進学・編入学・留学希望	b	7
	進学・編入学・留学決定者	a	5(4年制大学編入1、科目等履修生4)
	就職および進学希望者	B+b	153
	<b>進路決定者</b>	A+a	150
	<b>進路決定率</b>	A+a/B+b	98.0%
就職・進学等 以外	家事手伝い等	C	4
<b>卒業生合計</b>		A+a+C	157



② 就職先等内訳及び就職先一覧

	就職内定先			
小学校	行田市立中央小学校, 熊谷市立江南北小学校			
こども園	認定こども園はなぶさ, みふみ認定こども園			
幼稚園	足利くるみ幼稚園 岩舟幼稚園 川越双葉幼稚園 さかえ幼稚園 三和幼稚園 第二ひかり幼稚園 豊春幼稚園 ひかり幼稚園 本庄幼稚園 宮原幼稚園 やなぎ幼稚園	愛宕幼稚園 大山幼稚園 北本みなみ幼稚園 幸手さくら幼稚園 しま幼稚園 玉岡堯舜幼稚園 虹ヶ丘幼稚園 ふじおか幼稚園 まこと幼稚園 明和幼稚園 吉川ムサシノ幼稚園	荒川幼稚園 桂愛幼稚園 楠エンゼル幼稚園 佐野みのり幼稚園 静林幼稚園 ちくみ幼稚園 東別所幼稚園 フレーベル幼稚園 まつたけ幼稚園 森の詩幼稚園 老本幼稚園	伊奈はなぞの幼稚園 かみたの幼稚園 鴻巣幼稚園 さわき幼稚園 大東幼稚園 秩父ふたば幼稚園 東盛幼稚園 ホザナ幼稚園 三田幼稚園 八千代ひかり幼稚園 菁莪幼稚園
保育所	あいう園美園浦和美園駅前保育園 安中市立松井田第二保育園 牛ヶ谷保育園 太田保育園 加須保育園 キッズガーデンかわせみ くわの実保育園 小鳩保育園 白鳩保育園 聖マリア保育園 新里保育園 ひまわり保育園 休泊保育園 星の子幼児園 南流山聖華保育園	あおぞら保育園 伊奈ゆたか保育園 エンゼル家庭保育室 大增のぞみ保育園 川妻保育園 きむら保育園 けやきの森保育園 境いずみ保育園 すくすく園 世良田保育園 西新井聖華保育園 百間保育園 ふじあく保育園 みつまた保育園 みなみ保育園	旭保育園 稲荷町保育園 邑楽町立中央保育園 大宮みぬま保育園 北泉保育園 行田小羊チャイルドセンター 江東区塩浜保育園 湘南台もりのこ保育園 スダナ保育園 そうか草花保育園 花園保育園 フェアリーキッズ保育園 双葉保育園 緑の詩保育園 三芳元氣保育園	足利両野保育園 岩槻保育園 おおたけ保育園 おひさま保育園 喜多見こどもの家 さららの杜西台小規模保育園 五霞保育園 しらこぼと保育園 清恵保育園 第九保育所 浜町保育園 深谷保育園 保育園アミ・クレイシェ みどりの丘保育園 鷺宮保育園
施設等	あいう園美園放課後児童クラブ 草加元気っ子クラブ	大宮ゆめの園 東光乳児院	共愛会	吉見学園

(3) 成果と課題 (点検・評価)

平成 26 年度卒業の学生においては、企業を希望していた 1 名は在学中に進路を決めることができず卒業後も継続して就職活動を行うことになったが、その他の保育職希望の学生については全員が就職することができた。

そうした成果の要因としては、進路支援委員会とゼミ担当教員が連携しながら、毎週金曜日に定期



的に開催しているキャリアガイダンスでの一斉指導と進路支援担当教員ならびにゼミ担当教員による個別指導を軸とする、きめ細かい指導を行ってきた成果であると確信している。

また本年度は初めての試みとして合同就職説明会を開催した。毎年、幼稚園・保育所・施設から多くの求人を頂いているが、合同説明会をきっかけに学生がより積極的に就職活動に臨むことができたと同時に、園や施設がどのような人材を求めているのかについて情報交換の機会にもなった。参加いただいた園・施設からも「学生と直接話すことができて良かった」、「また来年も参加したい」と好評を頂いたので、来年度も継続して開催したい。

来年度は本年度よりも更に学生数が増えるため、キャリアガイダンスや合同就職説明会などを通じて学生の就職活動を支援していくと同時に、これまで通りゼミ担当の教員と進路支援委員会との連携を図り、学生一人ひとりの適性や性格を考慮した指導を行っていききたい。

## 2 進学

### (1) 編入学

平成 26 年度も本学を卒業後、4 年制大学に編入学を希望する学生がいた。4 年制大学への編入学を希望する学生に対しては、これまでの学びとの関連性や卒業後の進路などを熟慮した上で編入先や学部を選択するように指導した。また志願書作成の指導や筆記試験対策・面接対策を個別に行なった。

(平成 27 年 3 月 31 日現在・単位：人)

編入学	東京福祉大学教育学部教育学科	1
-----	----------------	---

### (2) その他の進学

本学においてまずは卒業に必要な単位の取得を優先した学生においては、卒業後に科目等履修生として資格・免許に必要な授業を受講している。

(平成 27 年 3 月 31 日現在・単位：人)

進学	本学科目等履修生	4
----	----------	---

### (3) 成果と課題（点検・評価）

編入学および進学希望の学生は、少ないながらも毎年希望者がいる。学校間の単位互換には注意が必要なため、学部・学科選びについては事前に学生と十分な相談を行っている。そのため試験対策を含め出来るだけ早く学生の希望や動向を把握し、指導が計画的に行われるように心がけたい。

## 3 卒業生への支援

本学では毎年、卒業生が本学を訪れ、同級生や教職員と交流する「ホームカミングデー」を開催している。平成 26 年度は 8 月 24 日（日）に開催し、約 80 名の卒業生の参加があった。今年度も同窓生名簿に掲載されている全卒業生に案内を送り、リカレントの機会としてワークショップの時間を設けた。今年度は、おもちゃコンサルタントマスターの武田真理恵先生に講師を務めて頂き、木のおも

ちやや科学おもちゃといった、保育におけるおもちゃの活用についてのワークショップを行った。ワークショップ後には学生食堂およびカフェテリアで懇親会を行った。

ワークショップは、普段あまり聞くことのできない内容ということで興味を持って聞いていた卒業が多かったが、やはり就職したばかりの卒業生は、不安や悩み事を教職員に聞いてもらいたいという思いの方が強かったようで、来年度はその点を検討課題としたい。

## VI 教員の研究活動及び社会的活動

### 1 研究活動

#### (1) 研究活動の概要

本学教員は、日々の講義や実習指導等の教育活動やそれに伴うさまざまな校務に従事する一方で、それぞれの専門分野の領域の研究活動、講演、制作活動においても意欲的に取り組んでいる。「埼玉純真短期大学研究論文集」をはじめ、その他の雑誌、著作や講演、制作等の形で発表された本年度の教員の成果の一端は以下の通りである。

#### (2) 専任教員の研究業績

○ 研究業績一覧

専任教員名	研究業績
浅井 広	<p>【執筆】 『幼稚園実習』責任実習における「制作」の事前指導に関する一考察—学生が実習指導者から受けた助言を手掛かりに— 埼玉純真短期大学研究論文集第7号, pp.1-10(共著). 『保育における子ども文化』 わかば社, 2014.</p>
安倍 大輔	<p>【執筆】 『子どもが自由にのびのびと遊び、安心して成長していくために』 日本子どもを守る会「子ども白書」2014年版, 本の泉社, 2014,p.98-100.</p>
伊藤 道雄	<p>【執筆】 『IV交流及び共同学習の現状と課題～インクルーシブ教育システム構築を推進する～』 発達障害白書 2015年度版, 日本発達障害連盟編 明石書店,2014,p.88～89. 『小出進先生を偲んで～本物の生活を学んだ一年～』 生活中心教育研究 No.25 日本生活中心教育研究会紀要,2015, p.29～30. 『「知的障害教育」と生きる力～本物を、生で、まるごとの教育を・ごっこ遊びからの脱却～』 特別支援教育研究 NO683, 東洋館出版,2014, p28.</p>
稲垣 馨	<p>【執筆】 『新しい心理学へのアプローチ』, 保育出版社, 2014, p.35-43, p.55. 『困難を抱えた子どもの育ちに対する子どもカルテの導入と包括的支援システムの構築』平成25年度成果報告書 科学研究費基盤研究(c)</p>

VI 教員の研究活動及び社会的活動

	研究課題番号：24500915，文部科学省，2014.
入江 良英	<p><b>【執筆】</b></p> <p>『「臨床発達人間科学」(エンパワーメント)の基本的視座構築のために—主に、「特別な才能をもつ発達障害児の問題(2e,twice exceptions)」を通じて「社会病理」・「社会福祉」・「特別支援」について再考する 若年女性のための「福祉教育」について』埼玉純真短期大学研究論文集第7集,2014.</p> <p>『「研究ベース型高等教育」の再興—学習支援と図書館の役割について 初年次教育と研究の融合』 埼玉純真短期大学研究論文集第7集,2014.</p> <p><b>【研究発表】</b></p> <p>『未来からの保育原理について』 全国保育士養成協議会第53回研究大会 2014.</p> <p>『臨床的社会学の基本的視座構築のために』 日本社会理論学会,2014.</p>
牛込 彰彦	<p><b>【執筆】</b></p> <p>『子どものけが』 実践保育シリーズ健康,一藝者,2014,pp131~142.</p> <p>『実習における学生の自己評価と実習評価の関係』 埼玉純真短期大学研究論文集第8号,2015.</p> <p>『第4期 子ども大学はにゅう』を開催して』 埼玉純真短期大学研究論文集第8号,2015.</p> <p><b>【研究発表】</b></p> <p>『実習における学生の自己評価と実習評価の関係 2』 全国保育士養成協議会第53回研究大会,2014.</p>
小澤 和恵	<p><b>【演奏活動】</b></p> <p>独奏『ノクターン op.48-1:ショパン』, サロンコンサート 加須市ギャラリー野と花,2014</p> <p>共演『リベルタンゴ: ピアソラ作曲/デュエットウ編曲』 不動岡高等学校卒業生によるガラコンサート, パストラルかぞ小ホール, 2014</p> <p>共演『リベルタンゴ: ピアソラ作曲/デュエットウ編曲』 『大きな古時計: ワーク作曲/デュエットウ編曲』 全国大学教育学会関東地区学会研究会, 汐留ベヒシュタインサロン, 2015.</p>
加藤 房江	<p><b>【研究発表】</b></p> <p>『保育所の伝承行事における世代間交流の実践報告』 全国保育士養成協議会第53回研究大会,2014</p>
金子 恵美子	<p><b>【執筆】</b></p> <p>『教育支援センター(適応指導教室)における不登校児童生徒支援の現状—教室規模による活動内容,成果,課題の相違—』 埼玉純真短期大学研究論文集第7号, 2014, p.43-50.</p> <p>『6章 不登校経験者のその後の適応に関する考察—通信制高校卒業生への質問紙調査から—』, 科学研究費報告書「不登校経験者への進路指導と卒業後に求められる支援—ひきこもり防止の観点を加えて—」(研究代表 伊藤美奈子), 2014, p.116-123.</p>

VI 教員の研究活動及び社会的活動

	<p>『A 定時制高校生の学校享受感、登校を規定する要因の検討』 奈良女子大学臨床心理相談センター紀要, 2015, p.15-22.</p> <p>『不登校経験のある高校生のレジリエンス育成と学校適応の質的研究ー通信制 K 高校パフォーマンスコースに焦点づけてー』 環太平洋大学研究紀要第 9 号, 2015, p.285-296.</p> <p><b>【研究発表】</b></p> <p>『定時制高校における生徒の変化ー不登校経験に着目してー』 日本生徒指導学会第 15 回鳴門大会, 2014.</p> <p>『パフォーマンス活動が高校生の学校生活への適応に及ぼす影響ー通信制 K 高校の実践からー』 日本教育心理学会第 56 回総会 (神戸), 2014</p>
藤田 利久	<p><b>【執筆】</b></p> <p>『“相手を思いやる” ことこそヒューマンスキルの源』 ヒューマンスキル研究(22), 2014, p.85-89.</p> <p>『「就職指導と検定内容」 秘書サービス接遇教育学会研究集録 第 20 号, 2014, p.48-62 .</p>
持田 京子	<p><b>【執筆】</b></p> <p>『「幼稚園教育実習」 責任実習における「制作」の事前指導に関する一考察： 学生が実習指導者から受けた助言を手掛かりに』 埼玉純真短期大学研究論文集第 7 号,2014, p. 1-10.</p> <p>『「子どもの歌の絵からの検討：4 歳児から小学 3 年生の「かえるの合唱」の図式より』 埼玉純真短期大学研究論文集第 7 号, 2014, p.61-71,73-76.</p> <p>『幼児の「言葉の音やリズムに伴う身体性の動き」と「音楽的構築」』 日本音楽教育メディア学会研究紀要 1,2015.p.24-30.</p> <p><b>【研究発表】</b></p> <p>『歌の図式からみた幼児の音楽の捉え方』 日本乳幼児教育学会 第 24 回大会,2014</p>
安村 由希子	<p><b>【執筆】</b></p> <p>『学習障害の読解の問題を予防するための指導法の効果に関する研究』 文部科学省科学研究助成金若手研究 (B) 平成 25 年度成果報告書, 研究課題番号：247307720001, 文部科学省, 2014.</p>

(3) 専任教員の所属学会

○ 所属学会一覧

氏名	所属学会
浅井 広	日本保育学会, 関東教育学会, 野外文化教育学会
安倍 大輔	日本体育学会, 日本スポーツ社会学会, 日本子ども社会学会 日本体育, スポーツ政策学会

## VI 教員の研究活動及び社会的活動

伊藤 道雄	日本LD学会,特殊教育学会
稲垣 馨	日本心理臨床学会,日本精神分析学会,日本質的心理学会,日本乳幼児教育学会,日本学生相談学会
入江 良英	日本教育社会学会,日本社会学史学会,日本社会理論学会,日本発達障害学会
牛込 彰彦	日本神経科学学会,日本生理学会,日本薬学会,日本赤ちゃん学会
小澤 和恵	全国大学音楽教育学会,日本音楽療法学会,日本ダルクローズ音楽教育学会
加藤 房江	日本保育学会
金子 恵美子	日本教育心理学会,日本カウンセリング学会,日本心理臨床学会・ 日本生徒指導学会,日本学校教育相談学会,日本遊戯療法学会
高橋 努	日本社会福祉学会,日本高齢者虐待防止学会,立正社会福祉学会(評議員) 日本介護福祉学会
藤田 利久	秘書サービス接遇教育学会
細田 香織	日本国語教育学会,人文科教育学会
持田 京子	日本保育学会,日本乳幼児教育学会,日本音楽教育学会,日本音楽メディア教育学会
安村 由希子	日本LD学会,日本コミュニケーション障害学会,日本発達障害支援システム学会

## 2 社会的活動

短期大学教員の職務の第一は学内における教育および研究であるが、その他にそれぞれの専門を活かして、学外の地域社会においてさまざまな形で貢献することも職務のひとつである。本学においても、多くの教員がそれぞれの専門領域において、地域社会に講師・助言者等として貢献している。本年度の実施状況および各種団体の所属の一端は以下の通りである。

### (1) 講師・助言者等の実施状況

#### ○ 講師等実施状況一覧

氏名	活動
浅井 広	親子で綿菓子機を作ろう 講師 埼玉純真短期大学公開講座 埼玉純真短期大学 2014-7.
	相談員 羽生市教育委員会巡回相談 羽生市立岩瀬小学校 2015-1.
	幼稚園・保育園の基礎知識 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 2015-1.
	相談員 羽生市教育委員会巡回相談 羽生市立村君小学校 2015-2.

VI 教員の研究活動及び社会的活動

<p>安倍 大輔</p>	<p>「キャリアデザイン研修会」レクリエーションプログラム担当 埼玉県短期大学協会 2014-9. 「スペシャリストに学ぶ」レクリエーションプログラム担当 誠和福祉高等学校 2014-10. 「『遊び』を通して育む子供の力」, 平成 26 年度子供の情操を育む大人の関わり推 進講座, 埼玉県立総合教育センター, 2014-11</p>
<p>伊藤 道雄</p>	<p>「発達に障害のある子の教育相談～相談員の心得と配慮すること～」さいたま市教育委員会教育相談員・指導員研修会 さいたま市立教育研究所 2014-5 「発達障害やいじめ・不登校などの現代的課題」埼玉大学教職員キャリアサポートセミナー ソニックシティ埼玉大学大宮カレッジ 2014-6 「授業のユニバーサルデザイン～子どもが生き生きとする授業展開～」さいたま市立東宮下小学校校内研修会 さいたま市立東宮下小 2014-7 「子どもを支援する」さいたま市立植竹小学校学習支援ボランティア講演会 植竹小学校 2014-7 「教育相談の充実を目指して～発達障害のある児童生徒への支援～」羽生市教育研究会教育心理相談研究部研修会 埼玉純真短期大学平成 2014-8 「個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成の仕方」埼玉県立総合教育センター特別支援学級担当者育成研修会 埼玉県立総合教育センター2014-8 「発達障害のある児童生徒の理解と支援の在り方」加須市立教育センター研修会 パステル加須 2014-8 「授業のユニバーサルデザイン」越谷市立大沢北小・新栄中合同夏季研修会 越谷市立教育センター 2014-8 「一人一人を大切に作る指導のあり方」埼玉県立行田特別支援学校人権教育公開講座講演会 行田特別支援学校 2014-8 「教育相談・発達障害支援の在り方について～事例より～」羽生市立岩瀬小学校校内研修会 羽生市立岩瀬小学校 2014-8 「どの子ども学校の子・みんなが資源・みんなで支援」さいたま市立西原小学校校内研修会 さいたま市立西原小学校 2014-8 「授業のユニバーサルデザイン」さいたま市立日進小学校校内研修会 さいたま市立日進小学校 2014-8 「発達障害等の理解と支援の仕方」行田市キラキラサポーター（特別支援に係る補助員）研修会 行田市産業文化会館 2014-9 「発達に障害のある生徒の理解と支援～事例研修から～」進修館高等学校校内研修会 埼玉県立進修館高等学校 2014-9 「特別な配慮を要する生徒の理解と支援」鴻巣高等学校校内研修会 埼玉県立鴻巣高等学校 2014-11 「発達に障害のある子どもの理解と支援」埼玉北地区幼稚園研究協会研修会</p>

VI 教員の研究活動及び社会的活動

	<p>鷺宮西コミュニティーセンター2014-11</p> <p>「通常の学級において配慮を要する生徒の指導について」羽生市立羽生東中学校校内研修会 羽生市立羽生東中学校 2014-12</p> <p>「発達障害の理解と支援」 鴻巣女子高等学校校内研修会 埼玉県立鴻巣女子高等学校 2014-12</p> <p>「今後の特別支援教育の在り方」さいたま市教育研究会特別支援教育部大宮地区研修 さいたま市立大宮小学校 2015-1</p> <p>「特別支援学級経営と校内推進体制」羽生市立須影小学校校内研修会 羽生市立須影小学校 2015-1</p> <p>「ユニバーサルデザインの視点に立った授業改善」行田市立行田中学校校内研修会 行田市立行田中学校 2015-1</p> <p>「特別支援教育を推進すると校内体制」羽生市立三田ヶ谷小学校校内研修会 羽生市立三田ヶ谷小学校 2015-1</p> <p>「発達障害のある児童の指導と保護者理解」羽生市立村君小学校校内研修会 羽生市立村君小学校 2015-2</p> <p>「特別支援学級を生かした校内推進体制」行田市立行田中 内研修会 行田市立行田中学校 2015-3</p> <p>指導助言 埼玉県特別支援教育研究会研究協議会「日常生活・遊びの指導」分科会さいたま市立大宮小学校 2014-8</p> <p>第4回埼玉純真短期大学研究セミナー特別支援学級・通級指導教室・特別支援学校分科会指導助言者「専門性を生かした指導」2014-10</p> <p>指導助言北埼玉特別支援教育研究協議会 行田市地域文化センター 2015-1</p> <p>「障害のある人との係わりから学ぶ生き方～川田昇～」埼玉純真短期大学公開講座 2014-6</p> <p>「アイコンタクトの素晴らしさ」埼玉純真短期大学オープンキャンパス 2014-7</p> <p>「先生とはやりがいのある仕事です」埼玉純真短期大学オープンキャンパス 2014-7</p> <p>「困る子ではなく困っている子です」埼玉純真短期大学プレカレッジ 2015-3</p> <p>相談員、埼玉県教育委員会巡回相談 埼玉県立熊谷高等学校定時制 2014-6</p> <p>相談員、埼玉県教育委員会巡回相談 埼玉県立鴻巣女子高等学校 2014-6～2015-1</p> <p>相談員、埼玉県教育委員会巡回相談 埼玉県立進修館高等学校 2014-6・8</p>
--	---



VI 教員の研究活動及び社会的活動

<p>稲垣 馨</p>	<p>「母という病」、公開講座講師，埼玉純真短期大学公開講座，2014-6.  「特別支援教育職員研修会 発達障害の二次的な障害」，講師，羽生西中，2014-7.  「高等学校 将来につながる指導の在り方」，基礎講座講師，埼玉純真短期大学研究セミナー，2014-10.  「乳幼児期の子育て」講師，須影保育園おしゃべりタイム（子育て支援），2014-12.  「高校における発達障害の理解」，講師，埼玉県特別支援教育教職員研修会，熊谷高校，2015-1.  「発達的に幅広い層の生徒を受け入れるための支援」，講師，平成 26 年度共生社会を支える特別支援教育推進事業に係る第 3 回地区特別支援コーディネーター研修会，熊谷，2015-2.  「平成 26 年度 共生社会における特別支援教育事業 スクールクラスター報告会」研修会講師，羽生市，2015-2.  「こころの不思議 心理学入門」，講師，埼玉純真短期大学プレカレッジ，2015-3.  相談員、埼玉県教育委員会巡回相談 埼玉県立熊谷高等学校定時制 2014-9～2015.3</p>
<p>入江 良英</p>	<p>「ドイツ語入門」，埼玉純真短期大学市民公開講座 埼玉純真短期大学 2014-6.</p>
<p>牛込 彰彦</p>	<p>「心身の調和 ～漢方と自律訓練法」，埼玉純真短期大学市民公開講座 埼玉純真短期大学 2014-10.  相談員 羽生市教育委員会巡回相談 羽生立北小学校 2015-2.  相談員 羽生市教育委員会巡回相談 羽生立新郷第二小学校 2015-2.  保育・教育実習入門 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 2015-1.  保育・教育実習入門 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 2015-1.</p>
<p>小澤 和恵</p>	<p>1 曲弾ければあなたもピアニスト 講師 埼玉純真短期大学公開講座 2014-7.  1 曲弾ければあなたもピアニスト発表会 講師 埼玉純真短期大学公開講座 2014-10.  弾き歌いとピアノレッスン 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 2014-12.  弾き歌いとピアノレッスン 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 2015-3.</p>
<p>加藤 房江</p>	<p>「保育実習指導 ～ペーパーサートにイメージを膨らませて～」，埼玉純真短期大学プレカレッジ，埼玉純真短期大学 2015-3.  「幼稚園・保育所・認定こども園の基礎知識」，羽生第一高等学校，2014-10.  「幼稚園・保育園の先生になろう」，(株)本庄第一高等学校，2015-2.</p>
<p>金子 恵美子</p>	<p>埼玉県教育委員会特別支援教育巡回支援（進修館高等学校）  羽生市教育委員会巡回相談 羽生市立羽生南小学校 2014-12.  羽生市教育委員会巡回相談 羽生市立川俣小学校 2015-2.  「こんな時どうする？～子どもへの対応方法を考えよう～」，埼玉純真短期大学市民公開講座，2014-6.  「保育内容（人間関係）指導法～子どもの成長と人とのかかわり～」，埼玉純真短期大学プレカレッジ，2015-3.</p>

VI 教員の研究活動及び社会的活動

高橋 努	地域で暮らす3～高齢者・障害者の権利擁護を考える～ 講師 埼玉純真短期大学 公開講座 2014-7 . 講演「特別支援教育の視点による通常学級における支援」 羽生市特別支援教育巡回 支援 羽生市立南中学校 2015-1. 相談員 羽生市特別支援教育巡回支援 羽生市立新郷第一小学校 2014-11. 相談援助 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 2015-3.
藤田 利久	建学の精神を理解する 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 2015-1. 建学の精神を理解する 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 2015-1.
細田香織	「子どもと発達と絵本」「絵本の楽しみ方」, 「子ども読書活動推進計画」に基づく 講座, 行田市立図書館, 2014-12 「絵本の読み聞かせ」, 道徳の授業の一環 (絵本を通して自己理解を深めるとともに 他者理解する), 茨城県立結城第二高等学校, 2014-12
持田京子	東京都板橋区 保育園巡回指導員 羽生市教育委員会巡回相談員 羽生市社会教育委員

(2) 専任教員の諸団体への所属状況

○ 諸団体への所属状況一覧

氏名	所属団体
安倍 大輔	日本子どもを守る会常任理事
伊藤 道雄	埼玉県障害児就学支援委員会委員 さいたま市就学支援委員会委員長 羽生市立小中学校就学支援委員会委員 埼玉県特別支援教育巡回支援員 羽生市特別支援教育巡回支援員 埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園学校評議員 さいたま市立日進小学校 学校評議員 埼玉大学附属特別支援学校 学校評議員 日本生活中心教育研究会 会員 埼玉県立特別支援学校就労支援総合推進事業就職支援アドバイザー 全日本特別支援教育研究連盟編雑誌「特別支援教育研究」編集委員 授業のユニバーサルデザイン研究会 会員
稲垣 馨	日本精神分析協会研修生 羽生第一高校 学校評議員 九州臨床心理士ネットワーク (KCPN) 会員 Nobody's Perfect 日本センター (認定ファシリテーター)

## VI 教員の研究活動及び社会的活動

牛込 彰彦	NPO 法人脳の世紀推進会議会員・社会福祉法人「共愛会」第三者評価委員
小澤 和恵	羽生市女性会議会長・羽生市人権教育推進協議会理事・羽生市人権推進協議会役員 埼玉県立進修館高等学校評議員
加藤 房江	羽生市子ども・子育て支援会議委員 2014-4~
金子 恵美子	羽生市いじめ問題調査審議会委員
高橋 努	立正大学社会福祉学部同窓会（代議員）、日本社会福祉士会、日本社会福祉士会埼玉県支部、埼玉県介護支援専門員協会、介護福祉・教育・実践研究会（大妻女子大学）
藤田 利久	日本私立短期大学協会 理事 関東私立短期大学協会 理事 埼玉県私立短期大学協会 理事・副会長 羽生市学びあい夢プロジェクト協議会 副議長 実務技能検定協会 理事（社会福祉法人）共愛会 理事
細田 香織	Nobody's Perfect 日本センター（認定ファシリテーター）
持田 京子	羽生市社会教育委員 文京学院大学研究会(菖蒲)会員 埼玉音楽療法愛音会員

### （３） 他大学等の非常勤講師等の兼務状況

#### ○ 学外兼務状況一覧

氏名	学外兼務先
安倍 大輔	浦和大学総合福祉学部 非常勤講師、立教女学院短期大学 非常勤講師、鹿児島大学 非常勤講師、上尾中央看護専門学校非常勤講師
加藤 房江	大泉保育福祉専門学校 非常勤講師、
金子 恵美子	東京家政大学 非常勤講師、慶應義塾大学教職課程センター 非常勤講師
高橋 努	学校法人服部学園服部栄養専門学校 非常勤講師、大妻女子大学 非常勤講師
持田 京子	千葉敬愛短期大学 非常勤講師、東京福祉大学 非常勤講師

## 3 成果と課題（点検・評価）

短期大学の教員は、教育活動はもとより研究活動も並行して行わなければならない。このため本学では教員に1年ごと、著作・論文執筆・学会発表の中で、いずれか1本の著作・論文、または1回の発表を最低限の義務として課している。また、教員のこのような研究活動は、学生教育に還元できなければならないと考えている。この点から見ても本学教員の研究活動に関しては、それぞれの教員が専門分野で著作・論文執筆・講演活動等に意欲的に取り組んでおり、それを学生教育に還元している。

また、本学が目指す地域に根ざした短期大学における任務のひとつに地域社会への貢献が挙げられる。この点においても本学の教員は高等学校をはじめとする学校評議員や地域行政の役員として、ボランティア活動や地域社会活動にも積極的に参加している。

## VII 地域貢献活動

### 1 活動の概要

本学は地域連携を重視し、地域の短期大学（コミュニティーカレッジ）としての役割を標榜して、教育活動を行っている。

平成 22 年に、羽生市教育委員会の協力のもと、「羽生市学びあい夢プロジェクト」を立ち上げた。これは市内にある、本学をはじめ、県立学校 5 校（高等学校 4 校、特別支援学校 1 校）、中学校 3 校、小学校 11 校のほか、私立幼稚園、公私立保育園、児童養護施設などの教育機関が連携し、教職員、学生・生徒・児童や保護者などが、相互に交流し、教育の質を高めようと発足したものであり、本学の地域貢献活動推進の源となっている。

本年度、地域貢献への取り組みをさらに加速させるために、羽生市との間で「地域連携協定」を、県立高等学校 2 校との間で「高大連携協定」が、それぞれ新たに締結された。

羽生市との間で、今回、新たに「羽生市と埼玉純真短期大学との地域連携協力に関する協定書」を平成 26 年 11 月に調印した。これまでの文化・教育・福祉の分野での協力のほか、まちづくりや産業振興などについても協力の幅を広げてほしいとの要望もあり、包括的な地域連携の協定を結ぶことになった。

また、平成 26 年 12 月に埼玉県立誠和福祉高等学校と、平成 27 年 2 月に埼玉県立進修館高等学校と、それぞれ「高大連携に関する協定書」を調印した。これは、高等学校に在籍する生徒の資質の向上にむけて、本学と高等学校が協力するとともに、双方の教員の交流を通じて、教育の質の改善を目指すもので、地域の教育力向上に寄与するものと考えている。

大学としての地域貢献の主な取り組みのうち、従来から実施していた事業としては、以下のものがある。

- ① 「市民公開講座」42 講座の開催（受講者 313 名）
- ② 「子ども支援センター」の幼児・児童・生徒相談事業
- ③ 第 4 回「特別支援教育・発達障害研究セミナー」の開催
- ④ 羽生市内の全小中学校を対象とした特別支援教育巡回相談事業への教員の派遣
- ⑤ 羽生市特別支援教育担当教員及び支援員の研修への講師派遣
- ⑥ 羽生市立羽生南小学校、三田ヶ谷小学校 1 年生の「大学 1 日入学」の実施
- ⑦ 羽生市立川俣小学校、三田ヶ谷小学校の児童の宿泊合宿への学生の協力
- ⑧ 羽生市須影保育園の子育て支援「おしゃべりタイム」への教員派遣
- ⑨ 羽生市教育委員会との共同事業である第 4 期「子ども大学はにゅう」の実施

- ⑩ 埼玉県教育委員会から委嘱された、埼玉県立高等学校 3 校への巡回相談事業への教員の派遣
- ⑪ 「世界キャラクターさみっと in 羽生」への教職員・学生ボランティアなどの協力
- ⑫ 県立羽生水族館を会場として実施している「じゅんしん幼稚園」の開催 など

「子ども支援センター」事業については、文部科学省の「平成 24 年度 私立大学教育研究活性化設備整備事業」に採択され、地域の発達障害を含む学習や生活上のつまずきを抱える児童・生徒などの相談を行うもので、相談員には本学教員が当たっている。本年度相談件数は 12 件で、相談内容も年齢も多岐にわたっている。

第 4 回「特別支援教育・発達障害研究セミナー」は、「子どもの思いに寄り添う～発達障害のある子の教育・子育てに学ぶ～」のテーマで、東洋英和女学院大学平田先生の基調講演のほか、「保育園・幼稚園」「小学校・中学校」「音楽」「高等学校」「特別支援学級・特別支援学校・通級指導教室」の 5 分科会が開催され、地域の教職員、保護者など 312 名が参加した。

「子ども大学はにゅう」の活動は 4 年目を迎え、小学校 4 年生から 6 年生が大学に通学し、大学教員の講座を受講することによって、その知的好奇心を刺激する学びの機会を提供することを目的としている。4 年間で 152 名の児童が参加している。

今年度から、新たに「羽生ロータリークラブ」が、子ども大学の運営に参加し、「はにゅうの産業と歴史を知ろう」というテーマで、寄付講座を提供していただいている。

また、本年度からの新たな取り組みとしては、以下のものがある。

- ① 羽生市立第 7 保育所幼児の大学訪問受け入れ

## 2 成果と課題（点検・評価）

このように、本学の地域に密着した地域貢献活動は、年々その活動内容が拡充し、教職員はもとより、学生も積極的に参加するなど、地域の教育機関はもとより、行政、産業などの各機関から高く評価されている。

今後、地域連携活動の分野がこれまで以上に多角化してゆくことが要求され、これまでのように一部の教職員、学生ではなく、より全学的な取り組みが必要となってくる。そのため、教員については、その専門性を生かした分野での地域活動をさらに拡大する必要が求められている。また、学生については、「子ども学」を学ぶ本学の特色を軸にした地域貢献活動を、全員参加で展開できるよう、あらゆる場を通じて啓蒙して行く必要がある。

## VIII 図書館

### 1 図書館の基本方針

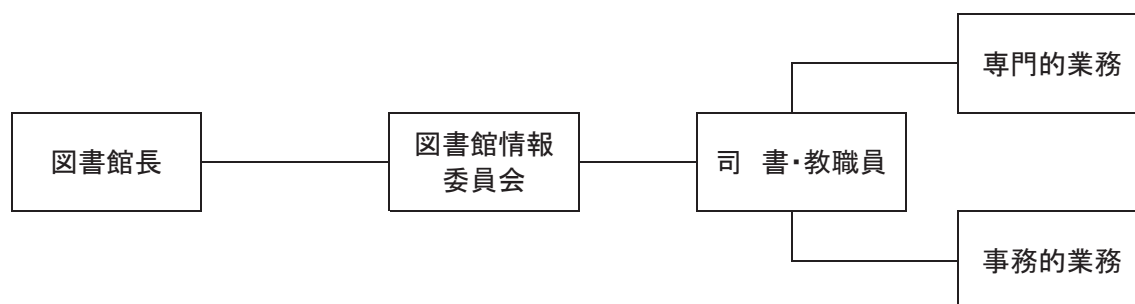
本学は、設立趣旨にあるように、埼玉の県北で地域の女子教育に貢献することを目的としている。それは、女性の自立と社会的貢献に向けた専門教育の場となることをめざしたものである。図書館はそのような本学の目的実現の追求に寄与する方向での充実を意図している。

図書館では、開学以来、学科構成に合わせた選書を行ってきた。現在は、こども学科に関連する保育・幼児教育・特別支援教育関連の資料や絵本、紙芝居などの児童書に重点を置いた収集を行い、学生・教職員からのリクエストにも積極的に応えて、蔵書の充実を図っている。

### 2 組織と運営

図書館長は、図書館の管理および運営を統括し、全学的な連絡調整を行っている。また、図書館の運営を円滑にかつ大学や学科の教育方針に即応したものにしていくため、館長をはじめ、専任・特任教員から選出された委員と図書館司書で構成される「図書館情報委員会」を組織し、図書館の運営、図書館資料の購入計画、購入文献の選定、図書館の利用に関する事項などについて協議している。

通常の業務は図書館司書および教職員があたっている。本学図書館の場合、図書館司書が、情報サービス、目録作成・管理などの図書館の専門的業務、ならびに教職員が一般的な事務的業務を行っている。



図書館の基幹業務は、コンピュータ化されるに至っていないので、予算管理、発注受入、図書整理、貸出返却、利用統計、蔵書点検に至るまでの業務を手作業で行わざるを得ない状況である。なお、蔵書検索については、コンピュータによる簡易目録とカード目録を併用して運用している。



### 3 施設・設備及び情報サービス

#### (1) 施設・設備

本学図書館は昭和 58 年 4 月に開館し、総面積は 266.2 平方メートルで、一階は 147.6 平方メートル、二階は 118.6 平方メートルである。一階は書架および司書室、二階は閲覧室および参考図書室として使用している。

蔵書数(図書・視聴覚資料)は 51,347 点(平成 27 年 3 月 31 日現在)である。なお、ほとんどの外国書は、104 サーバ室のスペースの一部を書庫として使用し、ここに別置している。この書庫は閉架式のため、自由に利用することはできない。

一階の書庫は、開架方式を採用しているため、利用者は自由に書庫へ入り利用できる。大型本、新聞のバックナンバーなどは集密書架に排架している。また、ブラウジングコーナーを設けている。

二階は閲覧室で、閲覧席 46 席(スツール 10 脚含む)を設置し、閲覧室の周囲には参考図書、学術・専門雑誌、視聴覚資料を排架して、利用に供している。

在籍学生数は、1 年 168 名、2 年 161 名、全学年 329 名(平成 27 年 3 月 25 日現在)である。学生一人あたりの蔵書数は約 156 冊、平成 26 年度の受入冊数は 3.3 冊である。

#### (2) 情報サービス

図書館の業務は、図書館利用者である学生および教職員に対する図書館資料の提供が中心的業務である。主なサービスは次のとおりである。

所蔵調査を求める学生や教職員に対しては、要求文献のおおよその NDC (Nippon Decimal Classification=日本十進分類法)を判定し、当該排架場所を案内して探索させ、該当文献を探しあてたならば、二階の閲覧室またはブラウジングコーナーで閲覧してもらう。

所蔵の有無が不明瞭な場合には、蔵書検索システム(OPAC=Online Public Access Catalog)、または書名目録・著者名目録等のカード目録での検索を案内する。そして該当文献が発見できたならば、閲覧室で利用してもらう。

##### ① レファレンス・サービス

文献調査などの参考調査依頼を来館者から受けたときは、図書館司書室またはカウンターに排架している参考図書を使用するなどをして回答する。しかし、利用者が自分で調査を希望する場合には、調査ツールを提供して調べてもらう。例えば、簡単な事実調査、新規購入図書の価格、出版社等の情報である。

##### ② 館外貸出とコピーサービス

学生への館外貸出の冊数・期間は、10冊・2週間以内として、実習などで必要な場合には返却期限を延長するなどの特別貸出を行っている。なお、教職員への館外貸出の冊数は20冊、期間は1ヵ月以内としている。コピーサービスについては、著作権法第31条に従い、予め文献複写申請をしてもらい、館内資料に限り許可している。本学図書館で所蔵していない資料については、図書館間相互利用による複写文献あるいは現物の取寄せで対応し、他の図書館を利用できるように照会サービスも行っている。

### ③ 視聴覚資料

図書館サービスにおける文献資料の情報源は、主に図書や雑誌であるが、DVD、CD、CD-ROMなどの視聴覚資料の収集が必要不可欠でもある。保育・幼児教育や一般教養として必要な視聴覚資料を購入して利用に供している。

二階閲覧室には、DVD・CD／ビデオ一体型の再生装置と液晶13型ディスプレイを設置し、館内でのCD、DVD、ビデオテープ等の視聴が可能である。

### ④ 情報検索システムの利用

コンピュータで蔵書を簡易に検索できるシステム（Simple-OPAC：OPAC社）を活用している。

## 4 所蔵点数と年間受入状況

### (1) 所蔵点数

#### ① 蔵書数

蔵書数は、平成27年3月31日現在で、51,347点である。そのうち和書は44,428冊、外国書は4,793冊、視聴覚資料2,126点である。

#### ② 学術雑誌所蔵数

購読している学術雑誌のタイトル数（平成26年度）は次のとおりである。なお、一般雑誌は除く。

○ 学術雑誌タイトル数

和雑誌：51点	外国雑誌：6点
---------	---------

#### ③ 視聴覚資料所蔵点数

視聴覚資料の受入点数（平成27年3月31日現在）は次のとおりである。

○ 視聴覚資料の受入点数

視聴覚資料：2,126点
--------------



## VIII 図書館

内 訳	
DVD	502 点
ビデオテープ	988 点
カセットテープ	265 点
CD	262 点
CD-ROM	74 点
スライド	35 点

### ④ 除籍数

平成 26 年度は、和書 992 点の除籍を行った。

## (2) 年間受入状況

平成 26 年度の資料別受入状況は、図書 1065 冊、視聴覚資料 12 点で、合計 1,077 件である。これを学生 1 人あたりの受入件数で算出すると、約 3.3 件(受入件数/学生数)となる。

○ 受入状況の内訳 (平成 25 年度)

受入種別	冊数・点数	
図 書	合計 1,065 冊	
	和 書	1,065 冊
	外国書	0 冊
視聴覚資料	合計 12 点	
	DVD	12 点
	ビデオテープ	0 点
	CD	0 点
	CD-ROM	0 点
	カセットテープ	0 点
図書+視聴覚資料	合計 1,077 件	

## 5 利用状況

### (1) 入館者数

平成 26 年度の年間入館者数は 3,763 人(教職員 208 人、学生 3,555 人)、1 日平均入館者数は 17.0 人(年間入館者数/開館日数)である。学生 1 人あたりの年間入館回数は約 11.0 回(学生年間入館者数/学生数)である。学生所属別の入館者数と利用比率は次のとおりである。

## VIII 図書館

○ 学生所属別入館者数および学生 1 人あたりの利用回数（科目履修生等を除く）

	こども学科	
1 年	2214 人	13.3 回
2 年	1341 人	8.5 回

### （2） 館外貸出

館外貸出については、先述のとおり、学生、教職員によって貸出期間が異なる。通常の期間、学生は 1 人 10 冊までで 2 週間以内である。教職員は 1 人 20 冊までで 1 ヶ月以内となっている。ただし、夏休み等の長期休暇および保育・幼稚園実習、施設実習等の場合は特別長期貸出を認めている。

○ 学生貸出冊数（括弧内は一人あたりの平均貸出冊数）

	こども学科	
1 年	1,500 冊（9.0 冊）	
2 年	2,627 冊（16.7 冊）	

平成 26 年度の教職員の館外貸出冊数は、436 冊である。

### （3） その他の業務

#### ① 参考業務

平成 26 年度のレファレンス受付数（クイックレファレンスを含む）は、3,208 件である。

#### ② 文献複写

図書館内に設置しているコピー機の平成 26 年度の利用は、次のとおりである。

○ 学内文献複写の申請人数と枚数

	人 数	枚 数
学内文献複写	295 人	2,526 枚

なお、図書館に設置しているコピー機は、著作権法第 31 条による図書館資料の複製のため、館内資料の複製に限定して許可している。

#### ③ 相互利用

平成 26 年度の図書館間の相互利用の内訳は、次のとおりである。

○ 相互利用の受付・依頼件数

	受 付	依 頼
文献複写	0 件	0 件
現物貸借	0 件	0 件

## 6 研究紀要

### (1) 埼玉純真短期大学研究論文集

#### ① 第8号

平成26年10月に原稿募集を行い、平成27年3月31日に刊行した。

## 7 成果と課題（点検・評価）

平成26年度は、かねてからの課題であった「除籍」と「システム導入による蔵書管理」に着手した。除籍については、和書992点対象とした。購入から30年を経た資料の中から、統計資料など、古いものを中心に除籍を行った。また、蔵書管理については、システムの導入とそれに付随するバーコード等の導入がある。本年度は、バーコードの導入を行い、来年度にシステムの導入を計画している。蔵書管理をシステム化することにより、図書に関する統計資料の作成や、貸出業務の簡略化が期待される。

選書に関しては、図書館情報委員を中心に広く教職員、学生に呼びかけて実施している。本学の子ども学科単科という特性上に見合った、教育・福祉・保育専門書の充実を図っている。今年度は特に絵本・紙芝居・児童図書を増やした。また、多くの学生に図書への関心を持たせるという観点から、本年度も読書感想文コンクールを実施した。本年度1年生については、演習「入門ゼミ」における課題として、1年生全員が参加した。

図書館の環境作りとして、入口ドア前に学生図書委員による推薦図書の展示コーナーを設置した。一例として、季節に合わせた「冬のおくりもの」のタイトルを決め、それに合わせた図書を紹介した。学科の特性上、絵本が中心になったが、雰囲気づくりという点で効果を挙げた。

来年度は、蔵書管理のシステム化の実現に向けた環境整備を実施する予定である。

## IX 校地・施設・設備

### 1 校地及び校舎面積

#### (1) 概要

本学は広大な関東平野の北部埼玉県羽生市にあり、利根川を境にして、すぐ北側は群馬県、北東側は栃木県、東側は茨城県の県境に位置し、関東地方全体から見れば、地理的にはほぼ中心をなす場所に存在する。政治・経済の中核である東京へも、1時間強の時間で出られることもあり、文化・観光都市の散在する関東北部地方に挟まれ、いたって恵まれた環境にある。

校地面積は短期大学設置基準(2,400 m<sup>2</sup>)の約14.57倍の広さを有する34,970 m<sup>2</sup>、そこに校舎は7,064 m<sup>2</sup>、運動場8,059 m<sup>2</sup>、その他の土地19,847 m<sup>2</sup>がある。校地内には屋外体育施設としてグラウンド(一周300m)が設けられており、学生、および来客者用駐車場(111台)、自転車置場が設置されている。研修棟の1階部分にある食堂の南側はテラスとなっており、ベンチ、テーブルが備えられている。

学内東側には、体育用具入れ、テント収納入れなどのために利用されている倉庫がある。

校地総面積(大学専用校地)	34,970 m <sup>2</sup>
校舎	7,064 m <sup>2</sup>
運動場	8,059 m <sup>2</sup>
その他	19,847 m <sup>2</sup>

#### (2) 成果と課題(点検・評価)

本学の校地、及び校舎の現況面積は設置基準を満たしているが、設置基準と対比すると校舎は必要面積に対して6.33倍、校地は14.57倍の面積を有している。校舎との比較では校地がより多く基準面積を上回っており、かなり余裕のある校地を有している点が特徴的である。

大学周辺は、国道沿いの開発の動きが活発にみられる。ただし、開発にはある程度の時間を要する。そのために、大学の周りはまだいたるところ昔と変わることなく農地が広がり、都会よりこの地を訪れる人々は、時間が止まったような安らぎを得ることが出来る。そういった意味では、本学の立地条件は恵まれており、都会の喧騒から離れて、じっくりと教育・研究に取り組むことの出来る、優れた教育環境を備えていると言えよう。また、緑地部分が校地の20%を占める現状からも、情操環境としては貴重かつ最適であると自負で

きる。

## 2 施設及び設備

### (1) 概要

本学校舎は管理棟・研究棟・学習棟・研修棟・体育館から構成されている。管理棟は、昨年7月の事務室集約化移設に伴い、旧事務室スペースを大部屋として、または個別(3区分け)にも使用可能な多目的室として改装を行った。合わせて同棟を無線LAN化し、プロジェクター利用などでペーパーレス会議が可能なインフラを整えている。管理棟にはそのほか学長室・応接室・会議室・保健室等が設けられている。管理等に接続する形で研究棟があり、1階・2階部分は図書館、3階・4階・5階は教員研究室となっている。低層階の多い本学の校舎にあって唯一5階建てのこの建物は本学のモニュメント的存在である。

2階建ての学習棟は、普通教室、演習室、大講義室、小児栄養実習室、リズム音楽室、ピアノレッスン室(20室)、事務室、パソコン教室、学生会室等から構成され、学習棟正面入口から各教室へ通じる廊下に、連絡事項伝達のための掲示板が設置されている。

ICT活用による教育環境整備について、昨年度末に講義環境の大幅改善を行った。文科省の補助金も活用し、各教室にプロジェクター・スクリーンの設置を行い、黒板との使用比較においてもよりビジュアル性を向上させ、講義時間の有効活用と内容の理解度の向上に寄与できるようにした。更に、パソコン教室全機を含めて学内全パソコンのソフト更新(Windows XPから7)を行い、快適性と安全性を向上させた。

喫食インフラの改善としては、よりバラエティに富んだ美味しい食事提供を目指して、学生食堂厨房の改造・改装及び食堂内へのパーゴラ設置、椅子・テーブルの新規追加を含めた再レイアウトを実施した。また26年3月には、学生増への対応と憩いの場の増設、及び学生のマナー教育のための実践ルームとして、旧理科教室を教養実践教室としてレストラン風にリニューアルを行った。さらに食堂とカフェテリアのインターロッキング部及び他の連絡通路に風雨よけ等を整備し、環境・居心地改善を行った結果、学生にとって快適な環境を整備することが出来た。

県条例への対応も含めて、以下の通り、文科省補助金も活用して学内連絡通路のバリアフリー化工事を行い、環境改善に寄与出来た。

- ① 学習棟(事務室)と研究棟(図書館)連絡通路
- ② 管理棟(旧事務室)と研究棟(図書館)連絡通路
- ③ 研修棟(木工教室)と学習棟(チューターズルーム)連絡通路

学習棟の東側に位置する3階建ての研修棟は、1階部分が学生食堂・絵画工作室・教養実践教室(兼食堂)・陶芸室、2階部分が普通教室・中講義室、3階部分が普通教室・和室が

それぞれ設置されている。また今年度中は未完成ではあるが、3階の和室と302教室を「保育実践実習室」としてリニューアル工事を行い、沐浴実習などが十分に出来るように設備・備品を整えつつある。あわせて教職員FD・SDミーティング及び来客等の打ち合わせ、食事などの場所として旧絵画工作準備室を「スタッフルーム」としてリニューアルした。また本学の教室の暖房は灯油暖房が中心であり、暖房機本体及び配管も30年以上経過し劣化していたことから、先の東日本大震災の反省に基づき不測の事態に備えて、今年度より3年計画でガス暖房化への設備替えを計画し、その1年目として、3階建の研修棟を中心に工事を行った。

棟名称	階数	延床面積 (㎡)
学習棟	2	2,459 ㎡
研修棟	3	1,773 ㎡
研究棟	5	766 ㎡
管理棟	1	641 ㎡
体育館	1	934 ㎡
その他	—	491 ㎡
校舎延床面積合計		7,064 ㎡

## (2) 保守・管理体制

平成26年度に実施した主な保守点検は、以下の通りである。

浄化槽、電気設備、ガス器具、消火器、自動火災報知機、非常用設備、冷暖房設備、危険物（地下タンク）、電話交換機、ピアノ調律

## (3) 成果と課題（点検・評価）

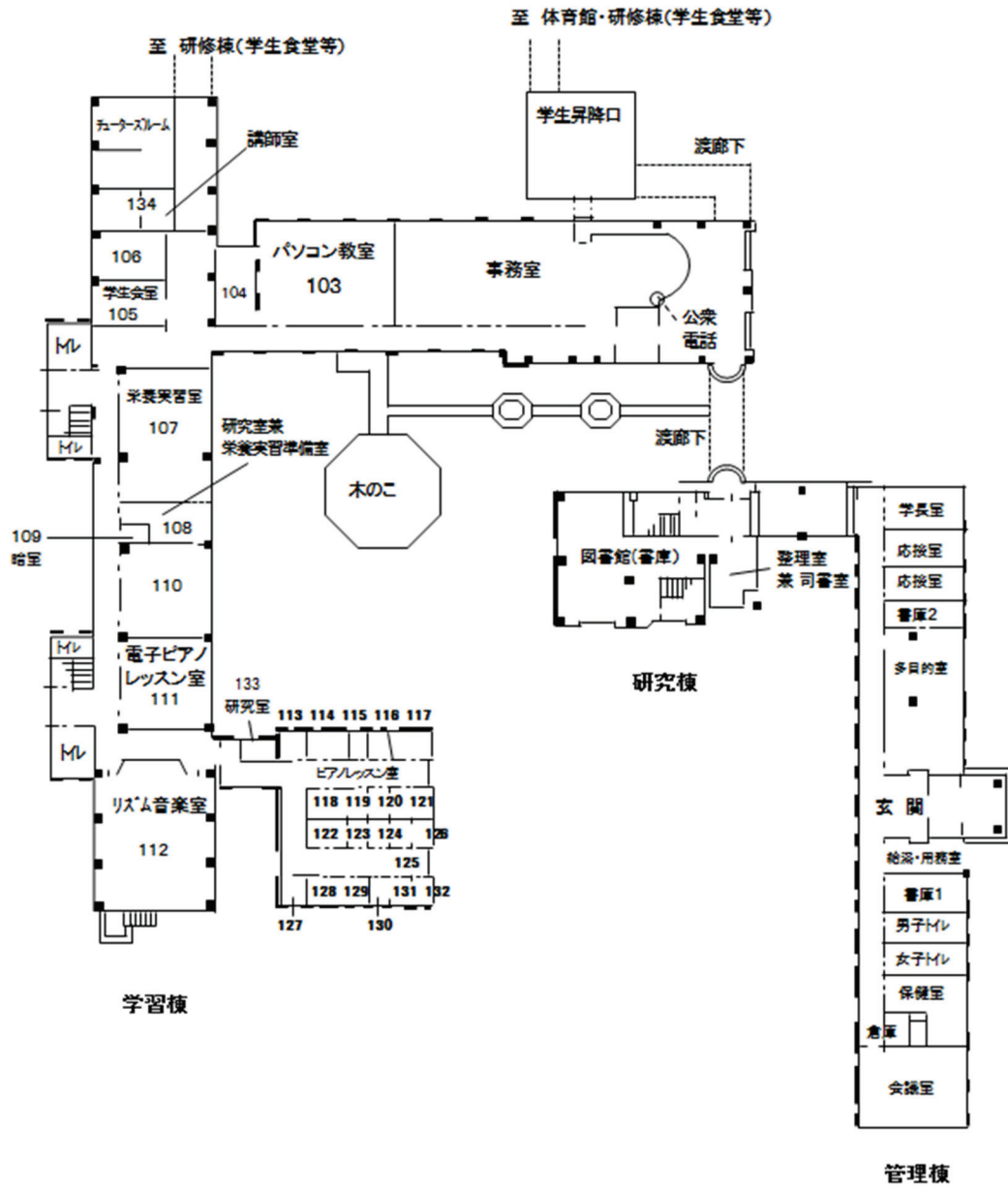
本学の施設設備は、開学以来約30年を経過していることから、様々な部分で老朽化が目立つ状態になっている。こうしたなか、学生の安全を最優先に考え、各種法律・条例等に基づき、基準に合った業者により、滞りなく点検を実施し、問題点があれば即刻対応をしている。

今年度も引き続き、施設のより効率の良い使用を目指して、教室の集約化を図っている。これにより、学生の移動距離の短縮と、各種エネルギー消費の軽減等に効果があったものと考えている。

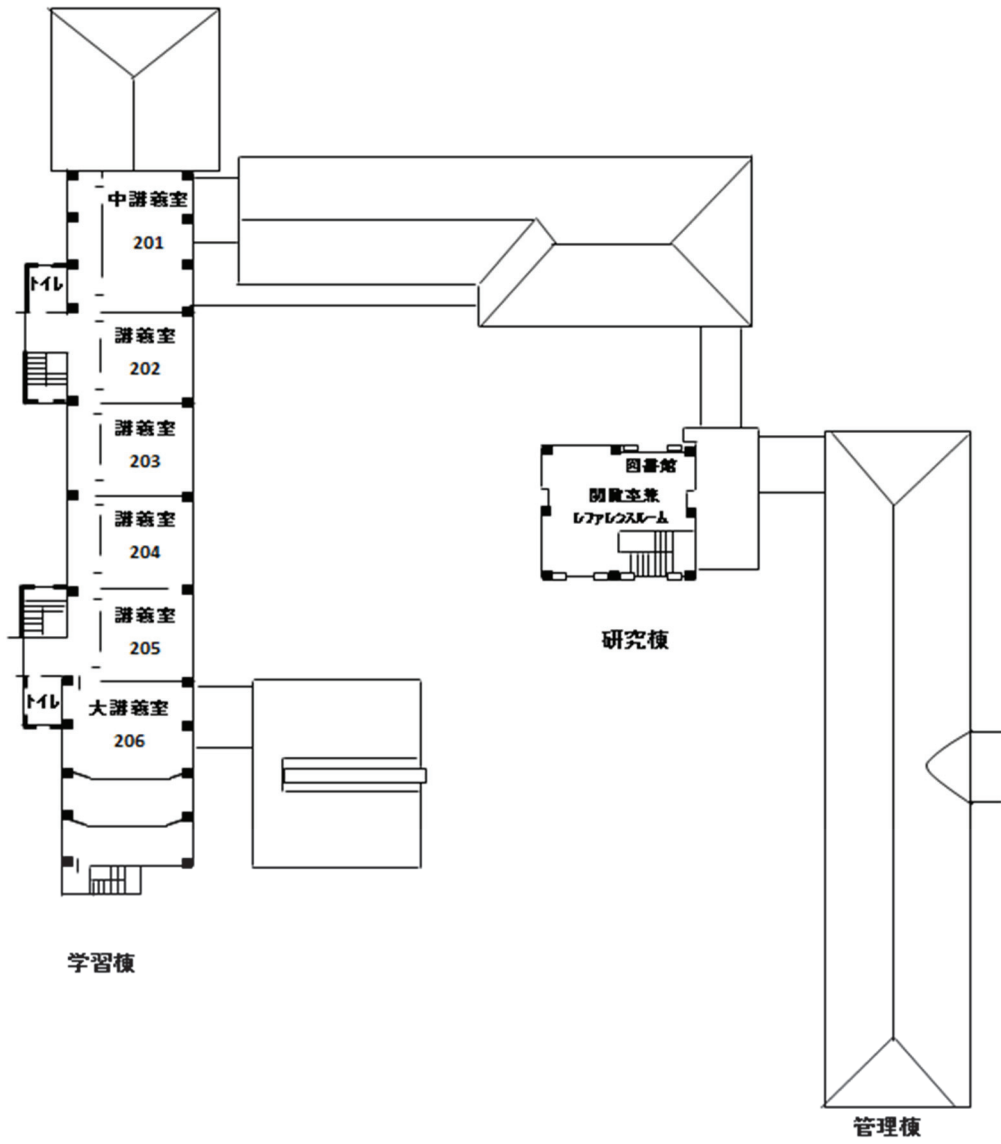
また、本年度も快適に学ぶための環境改善施策を継続実行中である。

### 3 学内見取図

#### 1階 平面図

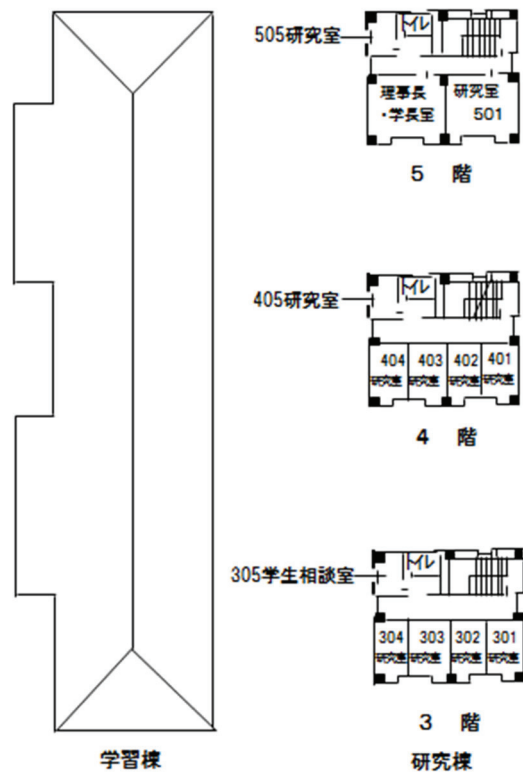


2階 平面図

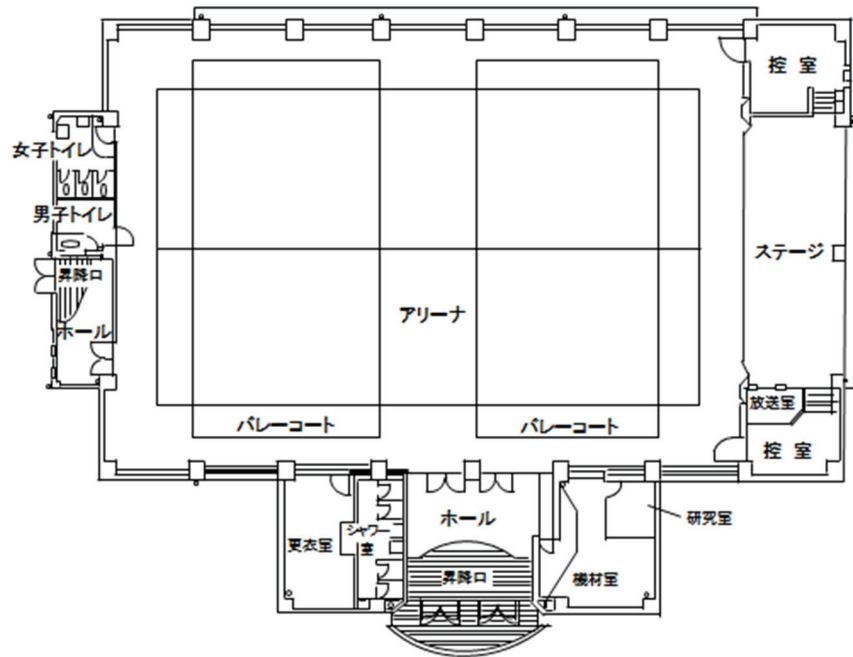




3・4・5階 平面図

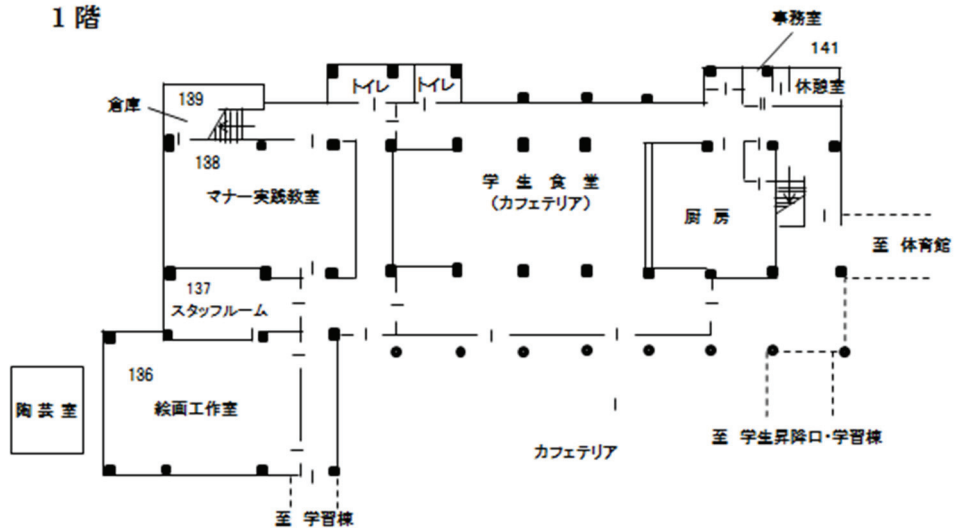


体育館 平面図

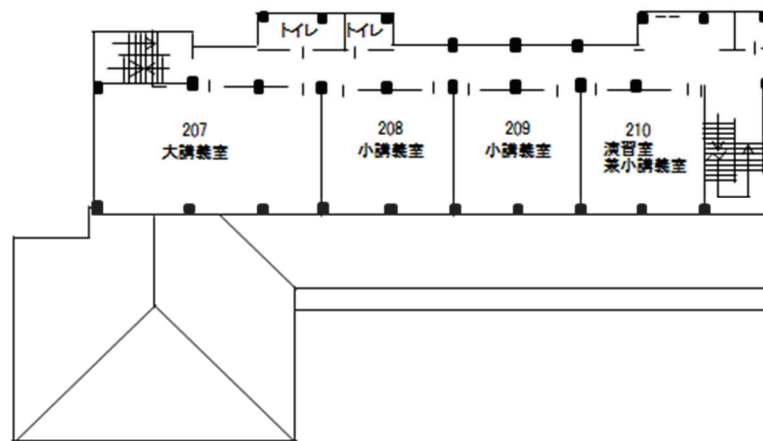


研修棟 平面図

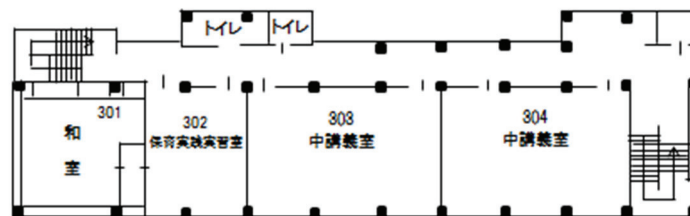
1階



2階



3階



## X 教授会・委員会等

### 1 教授会

#### (1) 教授会

##### ① 開催日程及び主な審議事項

○ 教授会内容一覧

開催日	審議事項	報告事項
第1回定例教授会 平成26年4月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> <li>・既修得単位の認定</li> <li>・学校行事の授業コマ数読み替えについて</li> <li>・部活動について</li> <li>・自宅外学生顔合わせについて</li> <li>・自宅外懇親会について</li> <li>・幼稚園後期／応用実習に対する実習審査について (乳幼児保育コース2年生・子ども学コース2年生)</li> <li>・保育所実習に対する実習審査について(乳幼児保育コース2年生)</li> <li>・小学校教育実習及び介護等体験に対する実習審査について(こども学コース2年生)</li> <li>・情報交換会について</li> <li>・担当別指定校一覧(案)について</li> <li>・高校訪問について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>
第2回定例教授会 5月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月4日(金)ディズニー研修(1年生)について</li> <li>・平成25年度前期試験実施計画(案)</li> <li>・保育所実習が前期補講期間にかかわる学生の対応について</li> <li>・部活動について</li> <li>・自宅外学生の状況について</li> <li>・学内駐車場について</li> <li>・不審者対応について</li> <li>・幼稚園後期／応用実習における審議未了の学生について</li> <li>・保育所実習が前期補講期間に重なっている学生の扱いについて</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>
第3回定例教授会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> <li>・平成26年度前期試験時間割表(案)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>

X 教授会・委員会等

<p>6月25日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度後期時間割表(案)</li> <li>・学生の欠席について</li> <li>・部活動について</li> <li>・自宅外学生の状況について</li> <li>・学生駐車場について</li> <li>・保育所実習に対する実習予備審査について(審議未了の学生について)</li> <li>・ホームカミングデーについて</li> <li>・合同就職説明会, 実習先との情報交換会について</li> <li>・求人票の掲示</li> <li>・7月の指定校訪問について</li> </ul>	
<p>第4回定例教授会 7月23日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> <li>・9/16(火)～9/18(木) キャリアデザインの履修登録について</li> <li>・平成26年度後期履修登録の流れについて</li> <li>・10月4日(土) 保護者会について</li> <li>・平成26年度後期時間割表(案)</li> <li>・純真祭担当について</li> <li>・平成25年度卒業アルバムについて</li> <li>・駐車場について</li> <li>・幼稚園前期/基本実習に関する実習審査について</li> <li>・平成26年度「実習先との情報交換会」「合同就職説明会」</li> <li>・AO入試(8/4) 面接予定&amp;担当について</li> <li>・県民の日 高校生「学び」「夢」プラン実施の可否について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>
<p>第5回定例教授会 9月24日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> <li>・平成26年度年間行事予定表(案)について</li> <li>・福田敏南育英学生について</li> <li>・純真祭について</li> <li>・スクールバスについて</li> <li>・読書感想文コンクールについて</li> <li>・平成27年度実習予定について</li> <li>・平成26年度情報交換会, 就職説明会実施要領(案)</li> <li>・秋の高校訪問</li> <li>・平成27年大学案内の秋撮影</li> <li>・平成27年度入試, オープンキャンパス等日程</li> <li>・平成27年度AO入学試験合否判定</li> <li>・埼玉純真短期大学 学則(改正案)</li> <li>・埼玉純真短期大学 教授会規程(改正案)</li> <li>・第4回研究セミナーのタイムテーブル(案)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>
<p>第6回定例教授会 10月29日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> <li>・平成26年度前期科目等履修生成績認定</li> <li>・平成26年度年間行事予定表(案)について</li> <li>・履修登録について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>

X 教授会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 25 年度成績について</li> <li>・インフルエンザワクチン接種について</li> <li>・貸衣装展示会について</li> <li>・学位授与式打合せについて</li> <li>・世界キャラクターさみっと in 羽生について</li> <li>・学生指導</li> <li>・学生の幼稚園後半再実習について</li> <li>・推薦入試実施要領</li> <li>・プレカレッジ日程表</li> </ul>	
臨時教授会 11月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 27 年度指定校推薦／公募制推薦（I 期）／入学試験合否判定</li> </ul>	
第 7 回定例教授会 11月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 26 年度前期成績認定</li> <li>・表現発表会について</li> <li>・平成 26 年度後期試験実施計画（案）</li> <li>・教職実践演習（幼，小）の発表と 1 年生の次年度総合演習選択方法について</li> <li>・平成 27 年度入学，授業開始までの主な予定</li> <li>・平成 27 年度科目等履修生募集要項について</li> <li>・履修登録について</li> <li>・インフルエンザについて</li> <li>・貸衣装展示会について</li> <li>・学位授与式打合せについて</li> <li>・秋の自宅外懇親会について</li> <li>・世界キャラクターさみっと in 羽生について</li> <li>・平成 27 年度就職合同説明会について</li> <li>・平成 27 年度入試日程案</li> <li>・公募制推薦 II 期入学試験（12 月 6 日）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>
第 8 回定例教授会 12月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 26 年度後期試験時間割（案）</li> <li>・新年度のオリエンテーションについて</li> <li>・入学のしおりについて（教務委員会）</li> <li>・集中講義「地球と環境」の開講について</li> <li>・学生動向</li> <li>・学生部予算について</li> <li>・卒業コンサート開催について</li> <li>・入学のしおりについて（学生委員会）</li> <li>・表現発表会 DVD 販売について</li> <li>・施設実習に対する実習資格審査について</li> <li>・平成 27 年度就職合同説明会実施要領（案）</li> <li>・平成 27 年度募集要項における提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>
第 1 回正教授会 平成 27 年 1 月 7 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉純真短期大学教育職員の昇格について</li> <li>・埼玉純真短期大学教育職員の任用について</li> </ul>	
臨時教授会 1月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 27 年度一般（I 期）入学試験合否判定</li> </ul>	
第 9 回定例教授会 1月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> <li>・平成 26 年度第 30 回学位授与式次第</li> <li>・平成 26 年度全国保育士養成協議会 卒業生に対する会長表彰者の推薦について，平成 26 年度全埼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>

X 教授会・委員会等

	<p>玉私立幼稚園連合会 卒業生に対する会長表彰者の推薦について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 27 年度前期, 後期時間割表 (案)</li> <li>・平成 26 年度担当科目一覧</li> <li>・新年度の連絡について</li> <li>・幼稚園教諭免許所有者保育士試験免除科目専修証明書</li> <li>・卒業関連について</li> <li>・リーダー研修会</li> <li>・純真クリーンナップ作戦</li> <li>・平成 26 年度全国保育士養成協議会会長及び全埼玉幼稚園連合会会長表彰に対する候補者について</li> <li>・平成 26 年度実習指導委員会からの卒業生表彰について</li> <li>・実習資格審査基準 (改正案)</li> <li>・進路支援内規 (案)</li> <li>・プレカレッジ (1/31) 実施要領</li> <li>・次年度募集要項 AO 入試 (専願)</li> <li>・春のキャンパス見学会リーフレット案</li> <li>・入試広報委員会規則, 入学金免除規程</li> <li>・地域連携共生のための指針 (内規) (案)</li> </ul>	
<p>第 10 回定例教授会 2 月 23 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> <li>・平成 27 年度前期時間割表 (案)</li> <li>・平成 27 年度年間予定表 (案)</li> <li>・平成 27 年度オリエンテーション</li> <li>・平成 27 年度入学式</li> <li>・平成 26 年度後期成績認定 (卒業年次生)</li> <li>・平成 26 年度卒業判定</li> <li>・平成 26 年度免許状および資格取得判定</li> <li>・平成 26 年度学位授与式授与代表者選定</li> <li>・卒業関連について</li> <li>・リーダー研修会</li> <li>・部活動顧問希望調査</li> <li>・施設実習に関する実習審査について</li> <li>・進路支援内規 (案)</li> <li>・プレカレッジ (3/5) 実施要領 (案)</li> <li>・一般入試 II 期実施要領 (案)</li> <li>・次年度オープンキャンパス実施計画 (案)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>
<p>第 2 回正教授会 3 月 5 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉純真短期大学教育職員の任用について</li> </ul>	
<p>第 11 回定例教授会 3 月 20 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> <li>・平成 27 年度前期時間割表</li> <li>・平成 27 年度オリエンテーション</li> <li>・平成 27 年度入学式</li> <li>・平成 27 年度科目等履修生審査について</li> <li>・平成 28 年度幼稚園後期/応用実習の日程について</li> <li>・春のキャンパス見学会実施要領 (案)</li> <li>・平成 27 年度指定校 (案)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員会からの報告</li> </ul>
<p>臨時教授会 3 月 25 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 27 年度前期 (追加) 及び後期成績認定</li> </ul>	

## ② 成果と課題（点検・評価）

教授会は学則第 43 条および教授会規程第 2 条の規定により、教授・准教授・専任講師・助教で構成している。これは、本学の専任教育職員（特任含む）が 14 名と少人数であることが理由である。ただし、教育職員の任用・昇格などの重要事項については、正教授で組織する教授会を開催してこれらにあたっている。

さらに、教授会にはオブザーバーとして事務局長はじめ事務職員全員が同席することとしている。これは、教員と事務職員が時間的・空間的に場を共有することにより、情報を正確に、時間差なく把握・共有することを意図してのことである。これにより、全教職員の共通理解が進み、意思疎通を図ることができ、認識の違いによる業務遅滞や誤りを防ぐことができるなど、スムーズな大学運営ができています。

教授会への議案は、それぞれの委員会で事前に案件を十分に検討した後、各委員会から審議あるいは報告事項として提出されている。これに基づいて教授会では審議と報告がなされることにより、一方向的な報告会的ではなく、教職員全員が参画意識と当事者意識を持って教授会に臨む姿勢ができています。

その結果、全員が本学の現状（良き点・改善すべき点を含め）を正確に把握することにより、意思疎通と協力・協調の姿勢で業務に臨んでいる。これらのことから、教授会運営は、概ね順調に行われたと言えよう。

今後の課題としては、委員会での検討議題がともすれば現状に対する対処・対応策になりがちであり、教授会での議題も新鮮さを感じられないことである。今後は、委員会からの改善型の新規提案事項を求めるとともに、次年度以降も、教育の質の向上と学生のより良い育成、地域大学としての使命果たすなど、本学の将来を見据えての創造的・建設的な課題に取り組んでいければと考える。

## （2） 人事

### ① 異動

氏名	職位	異動日
中村 周	入試広報係 → 進路支援係	平成 26 年 4 月 1 日
奥貫 慶一郎	進路支援係 → 入試広報係	平成 26 年 4 月 1 日
相馬 萌	学生係 → 教務係	平成 26 年 4 月 1 日
片山 美冴	教務係 → 実習指導係	平成 26 年 4 月 1 日
松原 みゆき	実習指導係 → 学生係	平成 26 年 4 月 1 日

### ② 採用

氏名	職位	採用日
加藤 房江	こども学科講師	平成 26 年 4 月 1 日
金子 恵美子	こども学科講師(特任)	平成 26 年 4 月 1 日

X 教授会・委員会等

寺田 明美	事務局 教務係	平成 26 年 7 月 1 日
田口 宏美	事務局 教務係	平成 26 年 9 月 1 日

③ 退職

氏 名	職 位	退職日
浅井 広	こども学科助教	平成 27 年 3 月 31 日
矢内 美優	事務局 教務係	平成 26 年 9 月 30 日

## 2 委員会

### (1) 教務委員会

① 構成

委員長名	委員名 (※印は事務担当者)
小澤 和恵	安倍 大輔 ・ 高橋 努 ・ ※相馬 萌 ・ ※寺田 明美(7月～) ・ ※田口 宏美(9月～) ・ ※矢内 美優 (~9月)

② 概要

開催日	内 容
第 1 回 平成 26 年 4 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学籍異動</li> <li>・ 平成 26 年度 年間予定表の修正</li> <li>・ 既修得単位の認定</li> <li>・ 実習期間の授業実施について</li> <li>・ 学校行事の授業コマ数読み替えについて</li> <li>・ 5 月 10 日(土) 保護者会</li> <li>・ 平成 26 年度前期 補講予定</li> <li>・ 学生の履修について</li> <li>・ その他：「地球と環境」について、「入門ゼミ」について</li> </ul>
第 2 回 5 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7 月 4 日 (金) ディズニー研修 (1 年生) について</li> <li>・ 平成 25 年度前期試験実施計画 (案)</li> <li>・ 担当科目 (後期) について</li> <li>・ その他：保育所実習が前期補講期間にかかわる学生の対応について</li> <li>・ 平成 26 年度前期 補講予定</li> <li>・ 実習期間の授業実施について</li> <li>・ 入学式・オリエンテーション振り返りアンケート集計結果</li> <li>・ 平成 25 年度前期各教科の履修者数について</li> </ul>



X 教授会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 25 年度前期試験に関する連絡事項</li> <li>・指定保育士養成課程修了証明書</li> <li>・その他：6/27(金)オマーン大使来校、10/21(火)オマーン大使館訪問について、クレペリン結果、学生動向、「地球と環境」(福岡純真短大との合同授業)について、保護者会欠席者について</li> </ul>
<p>第 3 回 6 月 18 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> <li>・平成 26 年度前期 試験時間割表(案)</li> <li>・平成 26 年度前期 授業評価アンケート</li> <li>・平成 26 年度後期 時間割表(案)</li> <li>・平成 26 年度ボランティア実習の実施方針について</li> <li>・その他：保育所実習(前半)期間変更による追再試験関連について、9/16(火)～9/18(木) キャリアデザインの履修登録について (8/1(金)予定)、学生の欠席について</li> <li>・平成 26 年度前期 補講予定</li> <li>・平成 25 年度分指定保育士養成施設業務報告書の提出について</li> <li>・その他：7/4(金) ディズニー研修 日本語表現 I について、「入門ゼミ」について、7 月 4 日(金)ディズニー研修について</li> </ul>
<p>第 4 回 7 月 16 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> <li>・9/16(火)～9/18(木) キャリアデザインの履修登録について</li> <li>・平成 26 年度後期 履修登録の流れについて</li> <li>・10 月 4 日(土)保護者会について</li> <li>・平成 26 年度後期 時間割表(案)</li> <li>・平成 26 年度前期 定期試験受験資格無資格者について</li> <li>・平成 26 年度前期 補講予定</li> <li>・保育内容応用指導法、教職実践演習(幼・小)履修選択について</li> <li>・平成 26 年度後期 教科書注文票について</li> <li>・その他：学生動向</li> </ul>
<p>第 5 回 9 月 10 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> <li>・10月4日(土)保護者会について</li> <li>・平成26年度 純真祭の読替科目について</li> <li>・平成26年度 表現発表会について</li> <li>・平成26年度 年間行事予定表(案)について</li> <li>・その他：10月21日(火)オマーン大使館訪問について</li> <li>・平成26年度前期 定期試験受験資格無資格者について</li> <li>・履修登録ミス</li> <li>・平成26年度後期 時間割</li> <li>・後期教科書販売</li> </ul>

X 教授会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度後期 補講予定について</li> <li>・日本語検定の流れについて</li> </ul>
<p>第6回 10月15日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> <li>・平成26年度前期 科目等履修生 成績認定</li> <li>・平成26年度 年間行事予定表(案)について</li> <li>・履修登録について</li> <li>・平成25年度 成績について</li> <li>・その他：教職履修カルテについて</li> <li>・平成26年度後期 補講予定</li> <li>・教員免許状および保育士資格取得要注意学生</li> <li>・厚生局自己点検 改善計画書提出について</li> <li>・その他：学生動向、純真祭準備について</li> </ul>
<p>第7回 11月12日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度前期 成績認定</li> <li>・平成26年度 年間行事予定表(案)</li> <li>・表現発表会について</li> <li>・平成26年度後期 試験実施計画(案)</li> <li>・教職実践演習(幼・小)の発表と1年生の次年度総合演習選択方法について</li> <li>・入学のしおりについて</li> <li>・平成27年度 科目等履修生募集要項について</li> <li>・履修登録について</li> <li>・平成26年度後期 補講予定</li> <li>・成績の読替について</li> <li>・全国保育士養成協議会 卒業生に対する会長表彰者の推薦について</li> <li>・平成27年度出校予定アンケートについて</li> <li>・教員免許状および保育士資格取得要注意学生</li> <li>・厚生局自己点検 改善計画書提出について</li> </ul>
<p>臨時 11月19日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度前期 成績認定</li> <li>・その他：学生動向</li> </ul>
<p>第8回 12月10日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度予算(案)</li> <li>・平成26年度後期 試験時間割(案)</li> <li>・試験監督上の留意点(教員向け)、試験での留意点(学生向け)</li> <li>・授業及び試験期間に施設実習に参加する学生の欠席の取り扱いについて</li> <li>・表現発表会の授業読み替えコマ数について</li> <li>・平成26年度後期授業評価アンケートの実施について</li> <li>・学位記準備</li> <li>・新年度のオリエンテーションについて</li> <li>・入学のしおりについて</li> </ul>

X 教授会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中講義「介護等体験事前事後指導」について</li> <li>・集中講義「地球と環境」について</li> <li>・学生動向</li> <li>・平成 26 年度後期 受講者なしの科目について</li> <li>・平成 26 年度後期 補講予定</li> <li>・平成 26 年度後期 受験無資格者</li> <li>・厚生局自己点検 改善計画書提出について</li> <li>・その他：実習伝え合い、表現発表会 DVD</li> </ul>
<p style="text-align: center;">第 9 回 平成 27 年 1 月 14 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> <li>・教職実践演習(幼・小)発表会について</li> <li>・平成 26 年度 第 30 回学位授与式次第</li> <li>・平成 26 年度 全国保育士養成協議会 卒業生に対する会長表彰者の推薦について</li> <li>・平成 26 年度 全埼玉私立幼稚園連合会 卒業生に対する会長表彰者の推薦について</li> <li>・平成 27 年度 前期・後期時間割表(案)</li> <li>・平成 27 年度 担当科目一覧</li> <li>・新年度の連絡について</li> <li>・幼稚園教諭免許所有者保育士試験免除科目専修証明書</li> <li>・規定等の見直しについて</li> <li>・平成 26 年度後期 集中講義</li> <li>・社会教育主事養成課程の廃止について(届出)</li> <li>・厚生局自己点検 改善計画書提出について</li> <li>・その他：学生動向、平成 27 年度予算(案)、ピアノ補講について</li> </ul>
<p style="text-align: center;">第 10 回 2 月 18 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> <li>・平成 27 年度 前期時間割表(案)</li> <li>・平成 27 年度 年間予定表(案)</li> <li>・平成 27 年度 オリエンテーション</li> <li>・平成 27 年度 入学式</li> <li>・新 1 年生クラス分け、2 年ゼミ振り分け</li> <li>・「表現発表会を終えて」アンケート集計結果</li> <li>・その他：平成 26 年度後期 卒業年次生成績認定について</li> <li>・その他：科目等履修生</li> </ul>
<p style="text-align: center;">臨時 2 月 23 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 26 年度後期 成績認定(卒業年次生)</li> <li>・平成 26 年度 卒業判定</li> <li>・平成 26 年度 免許状および資格取得判定</li> <li>・平成 26 年度 学位授与式授与代表者選定</li> <li>・平成 26 年度後期 集中講義日程</li> </ul>

X 教授会・委員会等

第 11 回 3 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学籍異動</li> <li>・平成 27 年度 前期時間割表</li> <li>・平成 27 年度 オリエンテーション</li> <li>・平成 27 年度 入学式</li> <li>・平成 27 年度科目等履修生審査について</li> <li>・その他：学生動向、入学式打合せについて、教員免許更新講習</li> </ul>
臨時 3 月 25 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 27 年度前期(追加)及び後期 成績認定 (在学生)</li> </ul>

③ 成果と課題（点検・評価）

今年度も、月 1 回の定例会議と必要に応じて臨時会議を開催し、学生の動向や履修に関すること、成績認定や教務管轄の学校行事などの審議が適切になされた。その内容は議事録に残され、教授会に審議事項、報告事項として提出している。

(2) 学生委員会

① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当職員）
高橋 努	牛込 彰彦 ・安倍 大輔 ・稲垣 馨 ・細田 香織 ・加藤 房江 ・浅井 広 ※田中 淳一 ・※松原 みゆき

② 概要

開催日	内 容
平成 26 年 4 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動について ・自宅外学生顔合わせについて ・自宅外懇親会について</li> <li>・学生保険について ・奨学金について ・スポーツ大会について ・校内自動車駐車場について ・学生会について ・オープンキャンパスサポート学生</li> </ul>
5 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動について ・自宅外学生の状況について ・学生駐車場について ・不審者対応について ・学生会執行部について ・純真祭について ・オープンキャンパスサポート学生</li> </ul>
6 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動について ・自宅外学生の状況について ・学生駐車場について</li> <li>・純真祭について ・オープンキャンパスサポート学生</li> </ul>
7 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・純真祭担当について ・平成 25 年度卒業アルバムについて ・アパート巡視について</li> </ul>
9 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福田敏南育英学生について ・純真祭について ・スクールバスについて</li> <li>・アパート巡視について</li> </ul>
10 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・純真祭について ・インフルエンザワクチン接種について ・貸衣裳展示会について</li> <li>・学位授与式打ち合わせについて ・アパート巡視について</li> </ul>
11 月 12 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフルエンザについて ・貸衣裳展示会について ・学位授与式打ち合わせについて</li> <li>・秋の自宅外懇親会について ・世界キャラクターさみっと in はにゅうについて</li> </ul>

X 教授会・委員会等

	・第 32 回純真祭教職員アンケート ・アパート巡視について
12 月 10 日	・学生部予算について ・卒業コンサート開催について ・入学のしおり ・自宅外懇親会について ・平成 26 年度学生会納会について ・卒業関連事項について ・平成 27 年度健康診断 ・学生会長選挙について ・アパート巡視について
平成 27 年 1 月 21 日	・卒業関連について ・リーダー研修会 ・純真クリーンナップ作戦 ・卒業関連事項について ・表現発表会 DVD について ・クラブ費精算
2 月 4 日	・学位授与式進行表について ・リーダー研修 ・羽生警察 1 日署長の委託について ・学生便覧について ・表現発表会 DVD について ・アパート巡視について
3 月 18 日	・入学式学生役割分担について 2015 学生身体測定について ・2015 教職員健康診断について ・学位授与式・謝恩会について ・DVD について ・次年度アパート巡視について ・学生会執行部について

③ 成果と課題（点検・評価）

平成 26 年度も、学生部長が前年度からの留任のためスムーズに新年度に臨むことができた。月 1 回を原則として学生委員会を開き、学生の動向について教職員間で情報共有を図り学生がより充実した学生生活を送れるように支援を行った。学校行事等については、必要に応じ臨時の委員会を開催し、円滑な運営・実施ができるように臨機応変に対応した。

学校行事の計画・運営の中心として活動する学生会執行部に対しては、学生委員会が助言・指導をすることにより、学生にとっては学校行事もまた貴重な学びの機会になったと言えよう。

本学はキャンパスの立地条件を考慮し自動車通学を許可しているが、学内の駐車場の利用や保険、運転マナー等について説明と指導を行い、適宜、適切な対応と学生に対する指導を行ってきたが、学生駐車場ないでの 1 件の接触事故が発生し、利用学生全体に対して改めて注意喚起と指導を行い、事故当事者に対しては、嚴重注意を行った。

電車通学者に対しては、平成 24 年度より、羽生駅と本学との間にスクールバスの運行を開始した。授業時間に合わせて運行しているが、1 回の乗車人数には制限があるため、運行本数を調整しながら臨機応変に対応したが、徒歩や自転車による通学生もいる現状である。

徒歩や自転車での通学生に対して、通学路に不審者が出没したという情報が学生から寄せられたため、学生に注意喚起を促すとともに、羽生警察署生活安全課と連絡を取り合いながら、教職員による巡回体制を強化し、学生が安心して通学できるような対応をした。

また、親元を離れ学生アパートに住んでいる学生も多く、全ての学生が安全且つ安心して学生生活を送れるよう、地域との連携をより一層深めていくことが重要であろう。

(3) 図書館情報委員会

① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
------	---------------

X 教授会・委員会等

牛込 彰彦	阿部 峰雄 ・ 入江 良英 ・ 細田 香織 ・ ※大木 美晴 ・ ※片山 美冴
-------	---

② 概要

開催日	内 容
平成 26 年 4 月 16 日	・選書について・本年度の委員会の運営について・本年度予算について
5 月 14 日	・平成 26 年 5 月 16 日（金）私立短期大学図書館協議会参加（入江先生）・らいぶらり通信 ・浅野教授へのお礼状・研究論文集・蔵書の廃棄
6 月 11 日	・選書について
7 月 16 日	・選書について・図書資料廃棄について・読書感想文コンクールについて・図書館のカーテン（破損しているもの）交換について・平成 25 年度研究論文集の進捗状況・SALA 幹事校について
9 月 22 日	・平成 27 年度外国雑誌契約について・選書について・読書感想文コンクールについて・平成 25 年度研究論文集の進捗状況・SALA 幹事校について・先生方からの推薦図書について
10 月 22 日	・平成 27 年度外国雑誌契約について・除籍について・読書感想文コンクールについて ・平成 25 年度研究論文集の進捗状況・SALA 幹事校について
11 月 12 日	・選書について・除籍について・平成 27 年度外国雑誌契約について・寄贈本について ・平成 25 年度研究論文集の進捗状況・SALA 幹事校について
12 月 10 日	・選書について・平成 27 年度予算について・電子化予算について・平成 27 年度外国雑誌契約について・図書館と県民のつどい 2014 について・SALA 研修会について
1 月 21 日	・除籍について・読書感想文コンクールについて・学生便覧改訂について・情報化推進の計画について
2 月 18 日	・選書について・除籍について・平成 27 年度購読予定和雑誌（学術・専門／一般）について ・学生の図書紛失について・情報化推進の計画について・貸出図書延滞学生について・研究論文集応募状況について

③ 成果と課題（点検・評価）

平成 26 年度は、懸案であった「除籍」と「電子化」に着手した。図書館スペースの問題もあり、「除籍」はかねてからの課題であった。委員会で検討し、創立時に購入した書籍のうち、統計資料などが古く利用価値が低下したものや、かつて英語コミュニケーション学科があった際に利用された書籍を中心に除籍を行った。また、「電子化」は長期に亘る計画にはなるが、その手始めとしてバーコードを購入した。実用化に向けた環境整備及び運用は次年度以降となる。

（４）実習指導委員会

① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
------	---------------

X 教授会・委員会等

牛込 彰彦	・浅井 広 ・伊藤 道雄 ・稲垣 馨 ・加藤 房江 ・高橋 努 ・持田 京子・ ※片山 美冴 ・※林 真麻
-------	--

② 概要

開催日	内容
平成 26 年 4 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設実習で課題の残った学生について</li> <li>・幼稚園後期/応用実習に対する実習予備審査</li> <li>・保育所実習に対する実習予備審査</li> <li>・小学校教育実習及び介護等体験に対する実習予備審査</li> <li>・各実習から</li> </ul>
5 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園後期/応用実習に対する実習予備審査</li> <li>・保育所実習が前期補講期間に重なっている学生の扱いについて</li> <li>・幼稚園見学実習について (5 月 29 日)</li> <li>・麻疹への対応について</li> <li>・日本語検定について</li> <li>・自己点検報告書の作成について</li> <li>・各実習から</li> </ul>
6 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所実習に対する実習予備審査について</li> <li>・近隣実習先との情報交換会について</li> <li>・実習マニュアル作成について</li> <li>・幼稚園後期/応用実習経過報告</li> <li>・幼稚園後期/応用実習に参加しなかった学生の情報提供について</li> <li>・学納金の納入について</li> <li>・暑中見舞いの送付について</li> </ul>
7 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園前期/基本実習に関する実習予備審査について</li> <li>・実習巡視担当について</li> <li>・近隣実習先との情報交換会について</li> <li>・実習マニュアル作成について</li> <li>・保育所前半実習経過報告</li> <li>・保育所前半実習に参加しなかった学生の情報提供について</li> <li>・学納金の納入について</li> <li>・暑中見舞いの送付について</li> </ul>

X 教授会・委員会等

<p>9月10日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園後半/応用実習で不可の学生について</li> <li>・情報交換会、就職説明会について</li> <li>・平成27年度各実習予定</li> <li>・保育所後半実習経過報告</li> <li>・幼稚園前期/基本実習経過報告</li> <li>・幼稚園後半/応用実習経過報告（こども学コース）</li> <li>・介護等体験について</li> <li>・施設実習 実習先一覧</li> <li>・各実習から</li> <li>・日本語検定について</li> </ul>
<p>10月22日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度入学生に対する麻疹証明提出について</li> <li>・幼稚園後半実習再実習について（1名）</li> <li>・実習伝え合いについて</li> <li>・実習指導マニュアルについて</li> <li>・平成27年度幼稚園前期/基本実習の期間について</li> <li>・施設実習について</li> </ul>
<p>11月12日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度保育士養成課程の卒業生に対する会長表彰の推薦について</li> <li>・インフルエンザに対する対応について</li> <li>・実習伝え合いについて</li> <li>・実習指導マニュアルについて</li> <li>・平成27年度の実習先との情報交換会について</li> <li>・施設実習辞退届の提出について</li> <li>・幼稚園前期/基本実習について</li> <li>・平成27年度予算について</li> </ul>
<p>12月10日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設実習に関する実習予備審査</li> <li>・施設、小学校実習伝え合いについて</li> <li>・実習指導マニュアル作成</li> <li>・規程類見直し</li> <li>・平成26年度保育士養成課程の卒業生に対する会長表彰の推薦について</li> <li>・平成27年度予算について</li> </ul>



X 教授会・委員会等

<p>平成 27 年 1 月 21 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設実習に関する実習予備審査について（保留者 1 名）</li> <li>・学生便覧の改訂について</li> <li>・幼稚園、保育所の伝え合いについて</li> <li>・卒業時における表彰者について</li> <li>・平成 26 年度全国保育士養成協議会会長表彰者の選考について</li> <li>・平成 26 年度全埼玉私立幼稚園連合会会長表彰に対する候補者について</li> <li>・規程類の見直しについて</li> <li>・お祝いの文書の送付について</li> <li>・施設実習に関する経過報告について</li> <li>・小学校教育実習について</li> <li>・保育所実習の実習先について</li> <li>・実習指導マニュアルについて</li> </ul>
<p>2 月 18 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設実習に関する実習予備審査について（保留者 1 名）</li> <li>・実習指導マニュアルについて</li> <li>・各実習における日誌、健康チェックリストについて</li> <li>・学生便覧の改訂について</li> <li>・施設実習に関する経過報告について</li> <li>・施設実習辞退者について</li> <li>・各実習から</li> </ul>
<p>3 月 18 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入学予定者の幼稚園実習希望調査について</li> <li>・新入学者に対する麻疹接種の周知について</li> <li>・介護等体験について</li> <li>・写真撮影の日程について</li> <li>・平成 26 年度施設実習経過報告</li> <li>・平成 28 年幼稚園後半実習の日程について</li> <li>・平成 27 年度幼稚園観察実習について</li> <li>・実習指導マニュアルの進捗状況について</li> <li>・埼玉純真実習資格審査基準について</li> <li>・各実習より</li> </ul>

③ 成果と課題（点検・評価）

平成 26 年度は、学生が実習で得た知識や技術を後進に伝えるという意味で、「実習伝え合い」を実施した。また、進路支援委員会と合同で、「実習・就職合同説明会」を実施した。さらに、実習マニュアルの作成にも着手した。その都度、委員会で検討しある程度の成果が生まれた。来年度は、今年度の反省を踏まえ、来年度の実施方法などをより良いものに検討していくことが必要である。

## (5) 進路支援委員会

## ① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
安倍 大輔	伊藤 道雄 ・ 持田 京子 ・ 加藤 房江 ・ 金子 恵美子 ※中村 周

## ② 概要

期 日	内 容
平成 26 年 4 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職園訪問について</li> <li>・チューターズルームの担当について</li> <li>・情報交換会について</li> <li>・高校への就職報告について</li> <li>・平成 26 年度キャリアガイダンスについて</li> <li>・履歴書セットの販売について</li> </ul>
5 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職園訪問について</li> <li>・キャリアガイダンスについて</li> <li>・キャリアガイダンスでの卒業生を招いた講演について</li> </ul>
6 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームカミングデーについて</li> <li>・合同就職説明会・実習先との情報交換会について</li> <li>・求人票の掲示について</li> <li>・就職園訪問について</li> <li>・キャリアガイダンスについて</li> <li>・進路支援の書籍購入について</li> <li>・学生の就職活動の動向</li> <li>・今春卒業生の退職</li> </ul>
7 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 26 年度「実習先との情報交換会」「合同就職説明会」について</li> <li>・ホームカミングデーについて</li> <li>・キャリアガイダンスについて</li> <li>・学生の就職活動の動向</li> <li>・チューターズルームの運用</li> <li>・キャリアガイダンス後期日程の検討</li> </ul>
9 月 10 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職説明会について</li> <li>・キャリアガイダンスについて</li> <li>・就職活動状況について</li> <li>・履歴書等の指導の仕方について</li> <li>・埼玉協就職問題研究会について</li> <li>・公務員対策講座について</li> <li>・就職園訪問について</li> </ul>
10 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアガイダンスについて</li> <li>・就職決定状況について</li> <li>・進路支援の担当について</li> <li>・情報交換会のまとめについて</li> <li>・内定先の掲示について</li> </ul>
11 月 12 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアガイダンスについて</li> <li>・就職決定状況について</li> <li>・卒業生を招いての講演会について</li> <li>・平成 27 年度予算について</li> <li>・キャリアサポートブックの改訂と印刷について</li> </ul>
12 月 10 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアガイダンスについて</li> <li>・就職決定状況について</li> <li>・卒業生を招いての講演会について</li> <li>・年賀状について</li> <li>・平成 27 年度予算について</li> <li>・キャリアサポートブックについて</li> <li>・平成 27 年度就職合同説明会実施要領（案）</li> <li>・1 年生の履歴書の提出について</li> </ul>
平成 27 年 1 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアガイダンスについて</li> <li>・進路決定状況</li> <li>・規程の改正について</li> <li>・キャリアサポートブックについて</li> <li>・卒園メッセージ送付について</li> </ul>
2 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路決定状況</li> <li>・進路支援部からの表彰対象者の推薦について</li> </ul>

## X 教授会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園メッセージの発送について</li> <li>・ホームページの進路のページについて</li> <li>・キャリアサポートブックについて</li> <li>・進路支援内規（案）の修正</li> </ul>
3月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアガイダンスについて</li> <li>・履歴書の添削について</li> <li>・合同就職説明会の第一次案内について</li> <li>・2年生の進路決定状況</li> <li>・入園メッセージについて</li> </ul>

### ③ 成果と課題（点検・評価）

定期的開催される委員会では、学生が不安無く自分の進路を決定できるように、学生の動向や求人等の情報共有するように努めた。150名を超える学生数となったため、ここ数年強化してきた進路支援部とゼミ担当教員との連携を生かし、教職員全体で進路支援を行えるようになってきた。また本学の就職は実習との関連も強いため、各実習指導担当と情報交換を積極的に行い、学生へ必要な情報提供を行なうと共に、学生一人ひとりの適性に沿った進路支援をできるようになりつつある。

今後は、そうした進路支援部・ゼミ担任・各実習指導担当との連携を確固たるものとしていきたい。また進路支援の手引きである「キャリアサポートブック」を今年とも学生に配布したが、より積極的にキャリアサポートブックを活用する方策を検討したい。

## （6）入試広報委員会

### ① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当職員）
小澤 和恵	藤田 利久（学長） ・ 小澤 和恵 ・ 持田 京子 ・ 加藤 房江 ・ 浅井 広・ ※奥貫 慶一郎 ・ ※西山 理恵

### ② 概要

開催日	主 な 内 容
平成26年4月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定推薦校（案）</li> <li>・指定校訪問（案）</li> <li>・平成26年度第1回オープンキャンパス実施要領（案）</li> <li>・高校キャンパス見学会</li> <li>・高校／会場ガイダンスの状況報告</li> <li>・春のキャンパス見学会報告</li> <li>・公開講座</li> </ul>
5月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回オープンキャンパス実施要領（案）</li> <li>・公開講座</li> <li>・高校／会場ガイダンスの状況報告</li> <li>・次年度大学案内撮影</li> <li>・第1回オープンキャンパスアンケート結果報告</li> <li>・指定校訪問書類</li> <li>・公開講座リーフレット／ニューズレター</li> <li>・高校本学見学会実施報告</li> </ul>
6月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3回／第4回オープンキャンパス実施要領（案）</li> <li>・高校キャンパス見学会</li> <li>・指定校訪問</li> <li>・高校キャンパス見学会報告</li> <li>・第1回公開講座実施報告</li> <li>・高校／会場ガイダンスの状況報告</li> <li>・学生派遣（出身高校へ）</li> </ul>

X 教授会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2回オープンキャンパスアンケート結果報告</li> </ul>
7月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回/第6回/第7回オープンキャンパス実施要領(案)</li> <li>・AO入試(8/4)実施要領(案)</li> <li>・オープンキャンパスの振り返り、第3回/第4回結果報告</li> <li>・高校/会場ガイダンスの状況報告 ・県民の日の授業見学(対象:県下の2年生)</li> <li>・第5回オープンキャンパスリピーター講座「先輩せんせーい」の卒業生確定報告</li> </ul>
9月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第8回オープンキャンパス実施要領(案) ・再指定校認定(案)</li> <li>・AO入試(9/20)実施要領(案) ・指定校訪問 ・次年度大学案内撮影</li> <li>・公開講座修了証 ・平成27年度入試/オープンキャンパス日程</li> <li>・AOエントリー状況報告 ・公開講座実施報告</li> </ul>
9月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AO入試(1期・2期)合否判定</li> </ul>
10月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AO入試(3期)合否判定</li> </ul>
10月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定校推薦/公募制推薦(I期)実施要領(案) ・プレカレッジ</li> <li>・クリスマスコンサート ・年賀状</li> <li>・第3回AO入試結果報告 ・第4回AO入試出願許可報告</li> <li>・第5回AO入試エントリー予定者報告 ・公開講座修了報告</li> <li>・指定校推薦/公募制推薦(I期)入試出願状況報告</li> </ul>
11月1日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定校推薦/公募制推薦(I期)合否判定</li> </ul>
11月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AO入試(4期)合否判定</li> </ul>
11月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度予算案 ・指定校訪問 ・平成27年度入試日程案</li> <li>・県民の日「学び」夢プラン実施要領 ・第4回AO入試結果報告</li> <li>・次年度大学案内卒業生撮影報告 ・ニューズレター冬号報告</li> </ul>
12月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推薦入試(公募制II期)合否判定 ・平成27年度予算案(追加項目)</li> <li>・平成27年度募集要項 ・第1.2回プレカレッジ実施要領 ・第5回AO入試実施要領</li> <li>・入試状況報告 ・クリスマスコンサート報告 ・ニューズレター冬号報告</li> <li>・大学案内作成状況報告 ・年賀状</li> </ul>
平成27年1月14日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AO入試(5期)合否判定 ・委員会規約および入学金免除規程の改正</li> <li>・第3回プレカレッジ実施要領 ・一般入試I期実施要領 ・募集要項</li> <li>・春のキャンパス見学会 ・入学式宣誓候補</li> <li>・大学案内進捗状況報告 ・入学金等納入金状況報告 ・第2回プレカレッジ報告</li> </ul>
1月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般入試(I期)合否判定</li> <li>・AO入試(5期)合否判定(事後承認)</li> </ul>
2月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5回プレカレッジ実施要領 ・一般入試II期実施要領</li> <li>・次年度本学ホームページ入試情報の改正案 ・次年度オープンキャンパス</li> <li>・一般入試I期手続き完了報告 ・各印刷物進捗状況報告 ・納品報告</li> </ul>
3月4日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般入試(II期)合否判定</li> </ul>
3月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6回プレカレッジ実施要領 ・春のキャンパス見学会実施要領</li> </ul>

## X 教授会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 27 年度指定校（案） ・次年度戦略アンケート</li> <li>・入学予定者報告 ・本年度高校／会場ガイダンス出席状況報告</li> </ul>
--	--

### ③ 成果と課題（点検・評価）

この数年の順調な学生数確保がモチベーションとなり、今年度も入試業務と広報業務において、建設的な委員会活動が実施できた。委員会にとどまらず、教職員一丸となって高校訪問やオープンキャンパスが実施され、高校生一人ひとりへの親身な対応ができています。

現代の日本の大学の中でも、特に短期大学の場合は、受験生が「この大学に入りたい」と思える特色を持ち、差別化をいかに図れるかが入学者確保の第一条件と考える。

広報という点においては、入試結果を出すことだけにとどまらず、常に、新しい何かを考えて企画し、その情報をホームページ等の様々なメディアで発信することを心がけていきたい。

## （7）FD・SD推進委員会

### ① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
安倍大輔	稲垣 馨 ・ 小澤 和恵 ・ 持田 京子 ・ ※田中 淳一

### ② 概要

開催日	内容
平成 26 年 4 月 18 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割分担について ・自己点検・評価報告書について ・相互授業参観について</li> <li>・教育実践・研究発表会について</li> </ul>
6 月 25 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己点検・評価報告書について ・相互授業参観について ・相互評価について</li> </ul>
8 月 29 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・埼玉県私立短期大学協会研修会への参加</li> </ul>
12 月 12 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度事業（案）について ・来年度予算について</li> <li>・自己点検・評価報告書について ・外部評価委員会について</li> <li>・相互授業参観について</li> </ul>
平成 27 年 1 月 28 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互授業参観について ・教員による授業実践の発表について</li> <li>・外部評価委員会について ・来年度の体制について</li> </ul>
随 時	授業相互参観
毎回の教授会后	「大学生の主体性を引き出す授業実践」の発表

### ③ 成果と課題（点検・評価）

昨年度は 2 ヶ月に 1 回の割合で FD・SD 推進委員会を定期的を開催することができてい

たが、本年度については、教職員が他の複数の委員会を兼務しているのと、教員の担当授業の時間割の都合により、内容の進捗状況を勘案しながら前期 2 回、後期 2 回の開催となった。

教員の授業改善を目的として、「大学生の主体性を引き出す一授業実践」(FD ネットワークつばさプロジェクト)を題材に、毎回の教授会の後に教員が分担して発表ならびに質疑応答を行った。

また FD・SD 研修として、8 月に開催された埼玉県私立短期大学協会の研修会に教職員が参加した。各分科会では本学の取り組みについて発表するとともに、他大学の状況や取り組みについて意見交換を行うことができ、大変有意義な研修となった。

教員が他の教員の授業を参観する「授業相互参観」を今年度も行い、全教員が他の教員の授業を見学し報告書を作成した。

教授会後の FD 発表や授業相互参観の取り組みは昨年度に引き続き行われ、FD・SD 活動として定着しつつあるので、来年度も継続して行っていきたい。一方で、FD・SD 推進委員会が本年度は定期的な開催が行われたとは必ずしも言い難いので、来年度においては他の委員会や授業との調整を行い、昨年度と同程度の 2 ヶ月に 1 度の開催が実現できるようにしたい。

## (8) 特別支援教育委員会 (子ども支援センター)

### ① 構成

委員長名	委員名
伊藤 道雄	伊藤 道雄 ・ 稲垣 馨 ・ 安村 由希子 ・ 金子 恵美子

### ② 概要

開催日	主 な 内 容
平成 26 年 4 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 記録用紙の作成について</li> <li>・ 相談室の使用について</li> <li>・ 昨年度の活動の見直しについて</li> </ul>
5 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先月までのケースについて</li> <li>・ 研究の事業計画について</li> <li>・ 備品の確保について</li> </ul>
6 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 埼玉県巡回相談事業について</li> <li>・ 直近 1 ヶ月の子ども支援センター利用状況</li> </ul>
7 月 16 日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 埼玉県巡回相談事業について</li> <li>・ 直近 1 ヶ月の子ども支援センター利用状況</li> </ul>

12月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直近1ヶ月の子ども支援センター利用状況</li> <li>・埼玉県巡回相談事業について</li> <li>・羽生市巡回相談の担当校の割り振りについて</li> <li>・来年度の予算について</li> </ul>
平成27年2月18日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間子ども支援センター利用状況</li> <li>・高校の巡回相談について</li> <li>・羽生市の巡回相談について</li> <li>・相談ケースについて</li> </ul>

### ③ 成果と課題（点検・評価）

特別支援教育委員会（子ども支援センター）の活動が2年目を迎えた。本年は、相談活動の充実を図り、特に高等学校の巡回相談活動の充実に力を注いだ。県教育委員会から依頼の受けた3校の高等学校に、1校あたり約10回程度訪問し、学校の相談等に対応した。相談のあったケースに直接会い相談活動を行ったり、授業の改善のための情報提供を実施したり、また校内研修会の講師を務めたりして一人一人のケースや学校の状況に応じ多面的な活動を行った。

また、羽生市教育委員会は、文部科学省の「共生社会を支える特別支援教育推進事業」の委嘱を受け、それに伴って本学へ支援の充実や情報提供・指導の依頼があった。本学では、小中学校における共生社会を目指した指導の充実（合理的配慮の研究）や通級による指導の充実に向け羽生市教育委員会と共同で実施し、その研究活動に寄与した。従来の羽生市内の小中学校巡回活動においても本学講師による校内研修講師の依頼等が多くなった。

羽生市内における本学の役割が、よりいっそう明確になりつつあると考える。

本学独自の相談活動は、昨年度とほぼ同数の相談件数であった。現在のスタッフ等の状況ではやむを得ない件数と思われる。

来年度はさらなる地域支援の充実を目指したい。

## X I 事務組織

### 1 業務分掌

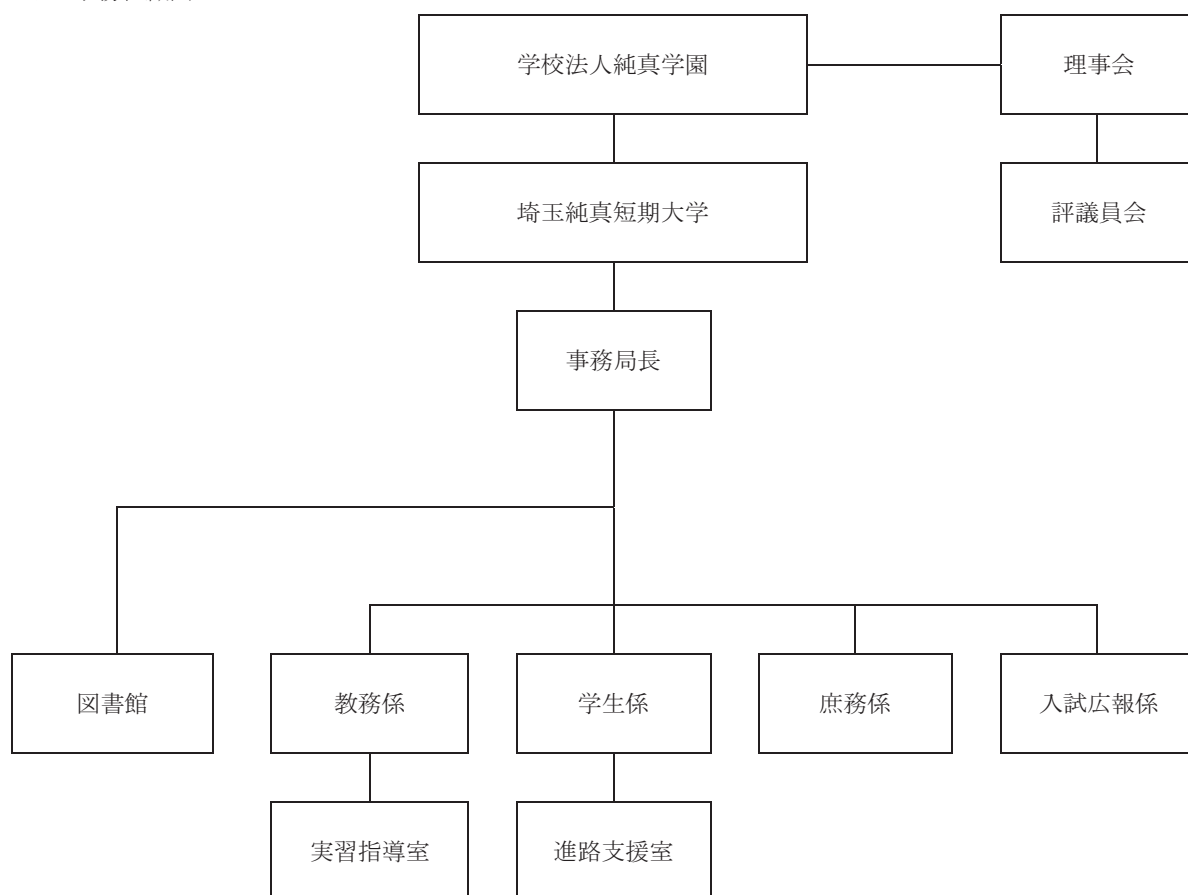
#### (1) 事務組織の業務分掌

本学は、法人本部所在地（福岡県）から遠く離れており、法人本部の運営方針が本学の地域性に合致しない場合も多いため、開学から独自の学校運営により、自らのスクールアイデンティティを創造すべく、法人分離独立の型のスタイルで運営している。

法人本部組織は、法人事務局の下に、総務課（総務係・人事係・厚生係）及び財務課（経理係・管材係）を置き、法人組織の充実を図っている。本学の事務組織は、教務係・学生係・庶務係・入試広報係で構成されている。また、図書館司書は事務組織に含まれ、さらに、教務係には、学生の実習を支援する実習指導員を配置している。

なお、人事労務、管財関係の業務は事務局長直轄として、庶務係が担当している。

○ 事務組織図





## (2) 事務分掌

本学事務職員の構成は、専任職員 14 名で、主要業務は以下のとおりである。

○ 主要業務一覧

部署名	業務内容
教務係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学務関連                             <ul style="list-style-type: none"> <li>学籍原簿の保守管理・入学・退学・復学・卒業等の学籍関係・学科課程の編成</li> <li>免許状・資格申請全般 等</li> </ul> </li> <li>・教務関連                             <ul style="list-style-type: none"> <li>時間割作成及び教室配当・科目履修登録及び試験実施に伴う成績管理</li> <li>各種証明書作成と発行 等</li> </ul> </li> <li>・実習関連                             <ul style="list-style-type: none"> <li>実習事前指導・学生相談窓口・実習先手配・実習関係書類管理 等</li> </ul> </li> </ul>
学生係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生関係                             <ul style="list-style-type: none"> <li>生活指導・課外活動の助言・指導及び課外活動に関する諸手続き</li> <li>証明書類（学生証・学割・健康診断書）の受付および発行・学生調書の保管・管理 等</li> </ul> </li> <li>・厚生関係                             <ul style="list-style-type: none"> <li>ロッカー・シューズボックスの保守管理・学生専用アパートの案内</li> <li>奨学金、および傷害保険関係の申請手続き・健康管理・健康診断・健康相談</li> <li>保健室の管理（救急医薬品の管理）・通学路の安全確保</li> <li>学内駐車場・学外駐輪場管理維持運営 等</li> </ul> </li> <li>・就職関係                             <ul style="list-style-type: none"> <li>求人紹介・求職申し込み受付・就職指導・推薦書・人物調書等の発行 等</li> </ul> </li> </ul>
庶務係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経理関係                             <ul style="list-style-type: none"> <li>納付金（授業料等）及び追再試験料の収納・学内出納業務全般・伝票管理 等</li> </ul> </li> <li>・管財関係                             <ul style="list-style-type: none"> <li>校舎・施設・設備管理維持・備品・消耗品購入等</li> </ul> </li> <li>・庶務関係                             <ul style="list-style-type: none"> <li>郵便物の授受・来客・電話応対・在学証明書発行・拾得物・紛失物預かり 等</li> </ul> </li> <li>・人事・労務関係                             <ul style="list-style-type: none"> <li>勤怠管理 等</li> </ul> </li> </ul>
入試広報係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報関係                             <ul style="list-style-type: none"> <li>学生募集に関する広報・広告媒体の策定・高校訪問、進学ガイダンス活動</li> <li>資料請求者・入学希望者へ対応・オープンキャンパス実施・運営 等</li> </ul> </li> <li>・入試関係                             <ul style="list-style-type: none"> <li>入学試験の実施・運営・入試問題の保管 等</li> </ul> </li> </ul>

### (3) 成果と課題(点検・評価)

本学の事務組織は、上記の業務(図書館を含む)を事務局長以下14名の職員で担当している。年度中の体制に大きな変化は無いが、一部入替えを機に各部署業務の効率見直しを進めていく必要がある。その方策の一環として、昨年度7月に3か所に分散していた事務室を1か所に集約して全員の業務状況の見える化を行った。相互に業務の助け合いや研鑽ができるような環境づくりを行い、現在も継続してその成果を検証中である。

但し、業務や人員の効率化を追求するあまり、学生へのサービス低下があつては本末転倒である。学生の満足度を向上させるための職員の意識改革として、SDの一環でもある朝ミーティング時の3分間スピーチ等も継続して行なっている。

## X II 財政

### 1 財政の状況

#### (1) 消費収支決算の状況

平成26年度の帰属収入は、4億3,988万円と前年度に比較し、5,928万円(前年度比115.6%)の増加となった。

平成22年度以来4年ぶりに入学定員数を120名から150名に戻したことによる学生数の増加が大きく寄与した。

一方消費支出は、3億3,863万円(前年度比100.9%)で、帰属収支差額(帰属収入－消費支出)は1億126万円(帰属収支差額比率23.0%)の収入超過となった。

#### ① 消費収入

##### (a) 学生生徒等納付金

学生生徒等納付金は、学生数の伸長により5,974万円増加の3億7,822万円となった。

##### (b) 手数料

手数料の大部分は入学検定料だが、426万円と昨年度より121万5千円減少した。これにより、平成27年度新入生については、入学者の厳格な選抜で質の向上も求めたことにより、入学定員を充足できない予定だが、在籍数全体での収容定員は充足できる見通しである。

#### ○ 現員数の推移一覧

(単位：人)

期 日	現員数
平成26年5月1日現在	335
平成25年5月1日現在	276
平成24年5月1日現在	243

##### (c) 補助金

補助金は日本私立学校振興・共済事業団から交付される私学助成金が主なものであり、学生生徒等納付金に次ぐ第二の収入源泉である。

平成26年度については、前年度比94.2%とほぼ同額となったが、昨年は経常費補助金について入学定員超過に伴う減額があったものの、一方で施設整備に係る補助金収入があった

X II 財政

ため、結果的に同額となっている。また、帰属収入に占める割合は 7.1%であるものの、この比率が高すぎると、国や地方公共団体の財政事情等による補助金削減等の影響を受け易いという側面もあるため、今後は適正な範囲での増額を目指していくことが必要と考える。

(d) 資産運用収入

資産運用収入は、学生から徴収する学内の駐車場利用料が主なものである。

(e) 事業収入・雑収入

雑収入に約 1,694 万円計上しているが、退職給与引当金戻入額が 1,110 万円、修繕工事に係る保険金が 364 万円、自動販売機の手数料収入・コピー代等が 220 万円となっている。

○ 平成 26 年度資金収支計算書（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

（単位：円）

収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	371,337,000	378,217,000	△6,880,000
授業料収入	215,445,000	220,135,000	△4,690,000
入学金収入	52,505,000	52,505,000	0
実験実習料収入	19,135,000	19,505,000	△370,000
施設費収入	77,160,000	78,840,000	△1,680,000
図書費収入	6,430,000	6,570,000	△140,000
保健衛生費	662,000	662,000	0
手数料収入	5,163,000	4,922,700	240,300
入学検定料収入	4,500,000	4,260,000	240,000
試験料収入	273,000	261,000	12,000
証明手数料収入	390,000	401,700	△11,700
補助金収入	32,219,000	31,366,000	853,000
国庫補助金収入	32,219,000	31,366,000	853,000
資産運用収入	832,000	907,160	△75,160
受取利息・配当金収入	2,000	1,160	840
施設設備利用料収入	830,000	906,000	△76,000
事業収入	7,500,000	7,434,520	65,480
補助活動収入	7,315,000	7,324,020	△9,020
公開講座収入	185,000	110,500	74,500
雑収入	5,324,000	5,840,447	△516,447
私立大学退職金財団交付金収入	324,000	324,000	0
その他の雑収入	5,000,000	5,516,447	△516,447

X II 財政

収入の部合計	422,375,000	428,687,827	△6,312,827
支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	177,181,000	176,065,259	1,115,741
教員人件費支出	118,790,000	117,126,895	1,663,105
職員人件費支出	57,946,000	58,493,764	△547,764
退職金支出	445,000	444,600	400
教育研究経費支出	90,933,000	65,676,518	25,256,482
消耗品費支出	7,033,000	9,924,860	△2,891,860
光熱水費支出	6,639,000	5,218,205	1,420,795
旅費交通費支出	3,200,000	3,073,099	126,901
奨学費支出	6,382,000	6,382,000	0
渉外費支出	2,736,000	1,629,147	1,106,853
通信費支出	1,538,000	1,619,725	△81,725
購読料支出	2,205,000	1,395,548	809,452
印刷製本費支出	3,988,000	4,104,207	△116,207
修繕費支出	4,910,000	6,253,994	△1,343,994
保険料支出	1,057,000	975,439	81,561
賃借料支出	6,023,000	487,203	5,535,797
公租公課支出	124,000	51,300	72,700
負担金支出	1,617,000	1,428,543	188,457
支払手数料支出	36,885,000	19,723,253	17,161,747
学校行事費支出	3,223,000	1,968,327	1,254,673
厚生補導費支出	1,797,000	911,822	885,178
図書研究費	976,000	529,846	446,154
雑支出	600,000	0	600,000
管理経費支出	46,994,000	45,427,310	1,566,690
消耗品費支出	1,322,000	1,535,035	△213,035
光熱水費支出	2,961,000	2,728,769	232,231
旅費交通費支出	2,276,000	1,321,852	954,148
渉外費支出	540,000	540,508	△508
通信費支出	372,000	358,236	13,764
印刷製本費支出	375,000	581,580	△206,580
修繕費支出	500,000	453,600	46,400
保険料支出	200,000	213,431	△13,431
賃借料支出	1,400,000	1,388,757	11,243

X II 財政

公租公課支出	70,000	69,000	1,000
負担金支出	1,141,000	849,637	291,363
支払手数料支出	7,349,000	8,917,222	△1,568,222
福利費支出	1,012,000	1,407,509	△395,509
広報費支出	22,139,000	20,029,698	2,109,302
私立大学等経常費補助金返還金	37,000	37,000	0
補助活動仕入支出	5,300,000	4,995,476	304,524
施設関係支出	22,380,000	23,118,883	△738,883
建物支出	20,880,000	21,618,883	△738,883
構築物支出	1,500,000	1,500,000	0
設備関係支出	10,738,000	6,479,538	4,258,462
教育研究用機器備品支出	6,938,000	3,616,900	3,321,100
図書支出	3,800,000	2,862,638	937,362
支出の部合計	348,226,000	316,767,508	31,458,492

② 消費支出

(a) 人件費

人件費は、前年度比 104.6%の 1 億 7,572 万円と増加した。帰属収入に占める割合は 39.9% となり、昨年度に比較すると 4.3%減少しているが、学生生徒等納付金収入、雑収入を主とした帰属収入の増加が大きな要因である。

(b) 教育研究経費

教育研究経費比率（帰属収入に占める割合）は 22.8%で前年度と比べ 5.4%減少したが、これは学生数の増加に伴う帰属収入の増加が大きな要因である。教育研究活動の維持・発展のため、消費収支の均衡内での増加を目指していく。

(c) 管理経費

管理経費比率（帰属収入に占める割合）は 12.6%で前年度と比べ 3.2%減少した。前年度は改修工事に伴う修繕費の増加や、創立記念式典に係る経費の発生など、一過性のものが多かったことが大きな要因であるが、今後も教育研究経費との支出状況を踏まえながら減少を目指していく。

○ 平成 26 年度消費収支計算書（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

（単位：円）

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	371,337,000	378,217,000	△6,880,000

X II 財政

授業料	215,445,000	220,135,000	△4,690,000
入学金	52,505,000	52,505,000	0
実験実習料	19,135,000	19,505,000	△370,000
施設費	77,160,000	78,840,000	△1,680,000
図書費	6,430,000	6,570,000	△140,000
保健衛生費	662,000	662,000	0
手数料	5,163,000	4,922,700	240,300
入学検定料	4,500,000	4,260,000	240,000
試験料	273,000	261,000	12,000
証明手数料	390,000	401,700	△11,700
寄付金	0	97,865	△97,865
現物寄付金	0	97,865	△97,865
補助金	32,219,000	31,366,000	853,000
国庫補助金	32,219,000	31,366,000	853,000
資産運用収入	832,000	907,160	△75,160
受取利息・配当金	2,000	1,160	840
施設設備利用料	830,000	906,000	△76,000
事業収入	7,500,000	7,434,520	65,480
補助活動収入	7,315,000	7,324,020	△9,020
公開講座収入	185,000	110,500	74,500
雑収入	14,181,000	16,939,628	△2,758,628
私立大学退職金財団交付金収入	324,000	324,000	0
退職給与引当金戻入額	8,857,000	11,099,181	△2,242,181
その他の雑収入	5,000,000	5,516,447	△516,447
帰属収入合計	431,232,000	439,884,873	△8,652,873
基本金組入額合計	△65,983,000	△49,613,369	△16,369,631
消費収入の部合計	365,249,000	390,271,504	△25,022,504

消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	176,836,000	175,720,409	1,115,591
教員人件費	118,790,000	117,126,895	1,663,105
職員人件費	57,946,000	58,493,764	△547,764
退職金	100,000	99,750	250
教育研究経費	125,773,000	100,473,519	25,299,481
消耗品費	7,033,000	10,018,565	△2,985,565

## X II 財政

光熱水費	6,639,000	5,218,205	1,420,795
旅費交通費	3,200,000	3,073,099	126,901
奨学費	6,382,000	6,382,000	0
渉外費	2,736,000	1,629,147	1,106,853
通信費	1,538,000	1,619,725	△81,725
購読料	2,205,000	1,395,548	809,452
印刷製本費	3,988,000	4,104,207	△116,207
修繕費	4,910,000	6,253,994	△1,343,994
保険料	1,057,000	975,439	81,561
賃借料	6,023,000	487,203	5,535,797
公租公課	124,000	51,300	72,700
負担金	1,617,000	1,428,543	188,457
支払手数料	36,885,000	19,723,253	17,161,747
学校行事費	3,223,000	1,968,327	1,254,673
厚生補導費	1,797,000	911,822	885,178
図書研究費	976,000	529,846	446,154
雑費	600,000	0	600,000
減価償却額	34,840,000	34,703,296	136,704
管理経費	56,979,000	55,576,342	1,402,658
消耗品費	1,322,000	1,535,035	△213,035
光熱水費	2,961,000	2,728,769	232,231
旅費交通費	2,276,000	1,321,852	954,148
渉外費	540,000	540,508	△508
通信費	372,000	358,236	13,764
印刷製本費	375,000	581,580	△206,580
修繕費	500,000	453,600	46,400
保険料	200,000	213,431	△13,431
賃借料	1,400,000	1,388,757	11,243
公租公課	70,000	69,000	1,000
負担金	1,141,000	849,637	291,363
支払手数料	7,349,000	8,917,222	△1,568,222
福利費	1,012,000	1,407,509	△395,509
広報費	22,139,000	20,029,698	2,109,302
私立大学等経常費補助金返還金	37,000	37,000	0
補助活動収入原価	5,300,000	4,995,476	304,524
減価償却額	9,985,000	10,149,032	△164,032



X II 財政

資産処分差額	0	5,878,743	△5,878,743
建物処分差額	0	5,878,743	△5,878,743
徴収不能額	0	980,000	△980,000
徴収不能額	0	980,000	△980,000
消費支出の部合計	359,588,000	338,629,013	20,958,987
当年度消費収入超過額	5,661,000	51,642,491	
前年度繰越消費収入超過額	1,180,632,463	1,180,632,463	
翌年度繰越消費収入超過額	1,186,293,463	1,232,274,954	

(2) 貸借対照表の現状

平成26年度末の資産総額は16億4,162万円で、うち固定資産が10億7,918万円、流動資産が5億6,244万円。負債総額は2億726万円で、うち固定負債が7,495万円、流動負債が1億3,230万円となっている。また、基本金は前年度比4,961万円増の19億4,285万円となった。基本金については、前年度から今年度にかけて行った工事により増加している。

○ 平成26年度貸借対照表（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

（単位：円）

資 産 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	1,079,176,443	1,100,304,933	△21,128,490
有形固定資産	1,078,336,194	1,099,464,684	△21,128,490
土地	423,208,000	423,208,000	0
建物	572,593,508	586,105,703	△13,512,195
構築物	26,608,586	28,148,577	△1,539,991
教育研究用機器備品	25,396,661	26,397,979	△1,001,318
その他の機器備品	8,312,747	9,791,880	△1,479,133
図書	13,962,610	13,590,415	372,195
車輛	8,254,082	12,222,130	△3,968,048
その他の固定資産	840,249	840,249	0
電話加入権	641,927	641,927	0
施設利用権	2	2	0
差入保証金	198,320	198,320	0
流動資産	562,439,448	525,324,489	37,114,959
現金預金	561,101,344	523,751,401	37,349,943
未収入金	3,068	22,849	△19,781
貯蔵品	66,715	42,932	23,783

X II 財政

前払金	1,268,321	1,507,307	△238,986
資産の部合計	1,641,615,891	1,625,629,422	15,986,469
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	74,954,619	86,398,650	△11,444,031
退職給与引当金	74,954,619	86,398,650	△11,444,031
流動負債	132,302,899	205,783,360	△73,480,461
未払金	17,554,939	62,654,800	△45,099,861
前受金	105,204,000	133,992,000	△28,788,000
預り金	2,162,706	2,521,877	△359,171
代理会計預り金	7,381,254	6,614,683	766,571
負債の部合計	207,257,518	292,182,010	△84,924,492

基本金の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	1,902,845,130	1,853,231,761	49,613,369
第4号基本金	40,000,000	40,000,000	0
基本金の部合計	1,942,845,130	1,893,231,761	49,613,369
翌年度繰越消費支出超過額	508,486,757	559,784,349	△51,297,592
消費収支差額の部合計	△508,486,757	△559,784,349	51,297,592
負債の部、基本金の部 および消費収支差額の部合計	1,641,615,891	1,625,629,422	15,986,469

(3) 財務比率

ここには本学の貸借対照表と消費収支計算書関係の主要財務比率を示す。

○ 財務比率（平成22年度～平成26年度）

財務比率		平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度
貸借対照表	固定比率▼	78.7%	78.2%	77.8%	82.5%	75.2%
	固定長期適合率▼	72.4%	72.3%	72.3%	77.5%	71.5%
	流動比率△	407.0%	436.4%	332.6%	255.3%	425.1%
消費収支計算書	人件費比率▼	62.0%	47.9%	45.4%	44.2%	39.9%
	消費支出比率▼	107.4%	88.4%	86.6%	88.2%	77.0%
	消費収支比率▼	120.6%	89.6%	93.1%	123.4%	86.8%

※ △（高い値が良い）、▼（低い値が良い）

※ 自己資金 = 基本金 + 消費収支差額 1,942,845,130 - 508,486,757 = 1,434,358,373

### ① 固定比率（固定資産／自己資金×100）

総資産のうち固定資産の比率が目立って高いのが学校法人の特徴である。この比率は固定資産がどの程度自己資金(純資産)で賄われているかをみる指標であるが、本学では平成 22 年度から平成 26 年度にかけての 5 年間、100%以下で推移しており、学校の施設設備は借入金によることなく自己資金で賄われており、健全であると言える。

### ② 固定長期適合率<固定資産／(自己資金+固定負債) × 100>

固定長期適合率の 5 年間の推移をみると 100%以下を維持しており、固定資産を取得するためには短期の他人資金すなわち流動負債に依存することなく、自己資金のほかに短期的に返済を迫られない固定負債で賄うべきであるという原則には適合した財政状態であると言える。

### ③ 流動比率（流動資産／流動負債×100）

流動比率は 1 年以内に償還又は支払わなければならない流動負債に対して、現預金又は 1 年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、短期的な支払能力を判断する重要な指標であるが、本学は平成 22 年度以降平成 26 年度まで、優良で信用度が高いとされる流動比率 200%以上を維持しており、また流動負債の中には弁済の対象となる外部負債とは性質を異にしている授業料などの前受金が約 79.5%含まれていることから、問題はないと言える。

### ④ 人件費比率（人件費／帰属収入×100）

人件費問題は学校財務の中で最も大きな比重を占めている。他の消費支出科目をまとめたも、その金額は人件費には及ばず、しかも、消費支出の膨張の原因になっている。私立学校振興・共済事業団の実数分析では、同規模の短期大学部門が約 63.8%となっており、同規模短大の平均値からすると、本学は 39.9%と低くなっている。人件費の伸びに比べ帰属収入の伸びが大きかったことから前年度をさらに下回る結果となったが、適正な人件費を考慮しながら今後の人事政策を進めていくことが重要である。

### ⑤ 消費支出比率（消費支出／帰属収入×100）

消費支出比率は、平成 23 年度以降 100%以下で推移している。この数値が 100%を超えるると過去の蓄積である純財産を食いつぶしている状態を示すことになるため、100%が名目的な水準維持の尺度となるが、貨幣価値の下落と物価の上昇などを予想して、比率はある程度のゆとりを持たせて、物価の上昇などに対応できる財務体質を養っていくことが必要とされている。

### ⑥ 消費収支比率（消費支出／消費収入×100）

平成 26 年度は 86.8%となり、昨年の支出超過から収入超過に転じた。施設設備関係支出を昨年に前倒しで行ったことが大きな要因である。

#### (4) 成果と課題 (点検・評価)

平成 26 年度は、学生数を安定的に獲得し、財政基盤の強化を図ることができた。

具体的には、平成 26 年度より入学定員数を 120 名から 30 名増やし 150 名としたが、結果的に 173 名の入学者となり、在籍者数は前年比 59 名増となった。

これは広報活動において“Junshin”ロゴマークの定着化・ブランド化を図り、これを徹底させる取り組みが評価されたことが要因のひとつだと考える。

また、公開講座やクリスマスコンサートといった地域貢献を通じて、本学の良さをアピールできたことも大きかったと考える。

一方、外部に対してだけでなく、内部の在學生や教職員に対しても魅力的な環境づくりを行うために、施設整備等の充実を図った。

具体的には、食堂・トイレの改修、教室内暖房機の入替え、沐浴実習室の整備等を行い、特に在學生に対しては心地よい居場所のある「学びの場」としてのキャンパスづくりが出来た。

しかしながら、平成 30 年頃から 18 歳人口が減少していく、いわゆる「2018 年問題」まであと 3 年を迎え、安定した学生数を獲得していくことがより一層重要である。これまでの魅力ある環境づくりに加えて、いかにして他の大学・短期大学との差別化を図れるかが、本学においても今後の課題である。

## X III 同窓会（秋桜会）

### 1 活動状況

#### (1) 役員組織

本学では、卒業生、教職員及び元教職員を会員としている。会員相互の親睦及び修養を図り、兼ねて母校の隆昌を図ることを目的として、「秋桜会」という同窓会を組織している。

役員組織は以下のとおりである。

#### ○ 同窓会役員一覧

役職名	役員名（回生・卒業学科）
名誉会長	藤田 利久（学長）
会 長	小林 ひかり（8回生・児童教育学科）
副会長	秋山 知世（2回生・英語学科） 田邊 彩乃（30回生・こども学科子ども学コース）
会 計	矢島 愛子（7回生・幼児教育学科第二部） 金谷 佳代（13回生・英語学科）
書 記	野中 美希（26回生・こども学科乳幼児保育コース） 岩崎 香織（27回生・こども学科乳幼児保育コース）
会計監査	岡本 千里（7回生・英語学科） 新井 幸子（12回生・英語学科）
幹 事	各卒業学年より1名以上が担当する。
相談役	高橋 努（学生部長）

#### (2) 活動状況

本学の同窓会は、1回生が卒業した後、昭和60年11月10日に設立し、今日に至る。

主な活動として、年1回の総会、年4回程度の役員会、会報「秋桜だより」の発行、在学生への支援活動を行っている。活動費は、卒業生から徴収した同窓会費より支出されている。

### XIII 同窓会（秋桜会）

#### ○ 同窓会の活動状況（平成 24 年度）

日 程	内 容
平成 26 年 5 月 25 日 第 1 回役員会	・自己紹介 ・総会について ・次回役員会について ・秋桜だよりについて ・秋桜会について
9 月 7 日 第 2 回役員会	・総会について ・秋桜会 30 周年について ・次期役員会について
10 月 19 日 秋桜会総会	・開会の辞 ・会長挨拶 ・定数確認 ・議案審議（平成 25 年度会務報告、決算報告、監査報告、平成 26 年度会務計画案、会計予算案） ・新役員挨拶 ・閉式の辞
11 月 9 日 第 3 回役員会	・総会の反省 ・終身会費について ・来年度について ・次回役員会について
平成 27 年 2 月 8 日 第 4 回役員会	・終身会費について ・卒業記念品について ・新役員について ・来年度総会に向けて ・次回役員会について

### （3）成果と課題（点検・評価）

同窓会の活動は、多くの卒業生の中でも、会長をはじめとした役員を中心としておこなわれている。卒業生のために設立された同窓会ではあるが、そのあり方が十分認知されておらず、なかなか発展していかない現状である。近年は、同窓会長が入学式や卒業式に参列し、学生にも同窓会の存在をアピールしている。

昨年度は純真祭とともに開催している総会において、役員主催で親子向けのレクリエーションを行った。同窓会会員、また地元の親子の方々にも多数参加いただき、楽しい時間を過ごした。

来年度総会は 30 周年記念の催しの実施を検討中であり、今後も地域の方々向けの行事の企画や卒業生、在学生に数多く参加していただける総会を目指し、講演会等の企画を検討したい。

## 執筆者一覧 (50音順)

### 専任教員

浅井 広 ・ 安倍 大輔 ・ 阿部 峰雄 ・ 伊藤 道雄 ・ 入江 良英 ・  
稲垣 馨 ・ 牛込 彰彦 ・ 小澤 和恵 ・ 加藤 房江 ・ 金子 恵美子 ・  
高橋 努 ・ 藤田 利久 ・ 細田 香織 ・ 持田 京子 ・ 安村 由希子

### 事務職員

大澤 尚子 ・ 大山 富一 ・ 奥貫 慶一郎 ・ 片山 美冴 ・ 佐藤 猛 ・  
相馬 萌 ・ 田口 宏美 ・ 田中 淳一 ・ 寺田 明美 ・ 中村 周 ・  
西山 理恵 ・ 林 真麻 ・ 松原 みゆき ・ 矢内 美優

### 法人事務局

池田 博文 ・ 吉田 忠幸

平成 26 年度 自己点検・評価報告書編集担当

稲垣 馨 准教授 (FD・SD 推進委員長)  
安倍 大輔 講師 (進路支援部長, FD・SD 推進委員)

平成 26 年度 自己点検・評価報告書

発行日 平成 27 年 11 月 30 日

編集 埼玉純真短期大学 自己点検・評価委員会

印刷 SP 関根印刷所

発行 埼玉純真短期大学

〒348-0045 埼玉県羽生市下岩瀬 430 番地

TEL.048-562-0711 (代)・FAX.048-562-0715





埼玉純真短期大学